



System Management Services (SMS)

1.6 リファレンスマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No.819-6419-11
2006 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、Sun Fire、OpenBoot、Sun Remote Services Net Connect は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

| | |
|-----|---|
| 原典: | System Management Services (SMS) 1.6 Reference Manual Part No: 819-4662-11 Revision A |
|-----|---|



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

| | |
|------------------|-----|
| はじめに | vii |
| Intro | 1 |
| addboard | 4 |
| addcodlicense | 12 |
| addtag | 14 |
| cancelcmdsync | 17 |
| codd | 22 |
| console | 24 |
| dca | 28 |
| deleteboard | 30 |
| deletecodlicense | 38 |
| deletetag | 40 |
| disablecomponent | 42 |
| dsmd | 49 |
| dxs | 51 |
| efhd | 53 |
| elad | 55 |
| enablecomponent | 56 |
| erd | 63 |
| esmd | 64 |
| flashupdate | 67 |
| fomd | 73 |
| frad | 74 |

help 75
hpost 77
hwad 78
initcmdsync 79
kmd 84
mand 87
mld 89
moveboard 91
osd 101
pcd 102
poweroff 105
poweron 108
rcfgadm 112
reset 132
resetsc 135
runcmdsync 137
savecmdsync 139
setbus 144
setcsn 148
setdatasync 150
setdate 154
setdefaults 156
setfailover 160
setkeyswitch 163
setobpparams 169
setpcimode 174
setupplatform 177
showboards 183
showbus 193
showcmdsync 196
showcodlicense 198
showcodusage 200
showcomponent 205
showdatasync 213

| | |
|-----------------|-----|
| showdate | 216 |
| showdevices | 218 |
| showenvironment | 224 |
| showfailover | 237 |
| showkeyswitch | 241 |
| showlogs | 243 |
| showobpparams | 251 |
| showpcimode | 254 |
| showplatform | 256 |
| showxirstate | 266 |
| smsbackup | 271 |
| smsconfig | 274 |
| smsconnectsc | 288 |
| smsinstall | 291 |
| smsrestore | 294 |
| smsupgrade | 296 |
| smsversion | 299 |
| ssd | 305 |
| testemail | 306 |
| tmd | 310 |
| wcapp | 311 |

はじめに

このリファレンスマニュアルは、System Management Services (SMS) 1.6 のマニュアルページで構成されています。Solaris™ オペレーティングシステムをはじめて使用するユーザーも、すでに精通しているユーザーも、どちらもオンラインマニュアルページを使用することで、システムとその機能に関する情報を参照できます。マニュアルページは、「どのような機能があるのか」という疑問に簡潔に答えることを目的としています。通常、マニュアルページは参照用に作成されたものであり、チュートリアルではありません。

概要

この節では、SMS のマニュアルページおよびそれに含まれる情報について簡単に説明します。intro(1M) マニュアルページでは、主にシステムの保守と管理に使用されるコマンドをアルファベット順に説明します。

次に、マニュアルページの一般的な形式を示します。各マニュアルページは次のセクションで構成され、通常はここに示した順序で表示されます。特定のコマンドで特定のセクションが必要ない場合は、省略されます。たとえば、報告するコメントがない場合、「コメント」というセクションはありません。各セクションの詳細は intro(1) マニュアルページを、マニュアルページ全般の詳細は man(1) を参照してください。

名前

このセクションでは、マニュアルで説明されるコマンドまたは関数の名前を示し、その機能について簡潔に説明します。

| | |
|-------|---|
| 形式 | <p>このセクションでは、コマンドまたは関数の構文を示します。コマンドまたはファイルが標準パスに存在しない場合は、そのフルパス名が示されます。オプションおよび引数はアルファベット順に示され、異なる引数順序が必要な場合を除いて、最初に 1 文字の引数、次に引数の付いたオプションが続きます。</p> <p>このセクションでは次に示す特殊文字が使用されます。</p> <p>[] 角括弧。この角括弧に囲まれたオプションまたは引数は省略可能です。角括弧がない場合は、その引数を指定してください。</p> <p>... 省略記号。 「filename...」など、前の引数に複数の値を指定できるか、前の引数を複数回指定できます。</p> <p> 区切り文字 (セパレータ)。この文字で区切られている引数のうち、一度に 1 つだけを指定できます。</p> <p>{ } 中括弧。中括弧で囲まれたオプションまたは引数、あるいはその両方は、相互に依存するため、括弧内のすべての要素を 1 組として扱ってください。</p> |
| 機能説明 | <p>このセクションでは、サービスの機能および動作を定義します。したがって、そのコマンドの実行内容について簡単に説明します。オプションの説明や例はここでは示しません。対話型のコマンド、サブコマンド、要求、マクロ、関数などについては、「使用法」セクションで説明します。</p> |
| オプション | <p>コマンドオプションを一覧に示し、各オプションの機能の要約を簡潔に示します。オプションは、「形式」セクションに示される順序で、一語一語示されます。オプションに指定できる引数についてはそのオプションの次に説明し、必要に応じてデフォルト値を示します。</p> |

| | |
|--------|---|
| オペランド | このセクションでは、コマンドオペランドを一覧に示し、それらがコマンドの動作に与える影響について説明します。 |
| 拡張機能説明 | コマンドおよびそのオプションに関して、「機能説明」セクションでは基本情報の概要を説明しましたが、ここではそれ以外の追加情報を示します。 |
| 戻り値 | このセクションでは、マニュアルページで値を返す関数について説明する場合に、その値を一覧に示し、値が返されるとき条件について説明します。関数が 0、-1 などの一定の値だけを返す場合は、これらの値が示された段落で個別に説明されます。そうでない場合は、各関数の戻り値について 1 つの段落で説明します。void として宣言された関数は値を返さないため、「戻り値」セクションでは説明しません。 |
| エラー | 障害が発生すると、ほとんどの関数はエラーコードをグローバル変数 <code>errno</code> に格納して障害の理由を示します。このセクションでは、関数が生成する可能性のあるすべてのエラーコードの一覧をアルファベット順に示し、各エラーの原因となる条件について説明します。同じエラーの原因となる条件が複数ある場合は、そのエラーコードの下に、条件ごとに個別の段落で説明します。 |
| 使用法 | このセクションでは、詳細な説明を必要とする特殊なルール、機能、およびコマンドを一覧に示します。次に示すサブセクションは、組み込み機能の説明に使用されます。 コマンド 修飾子 変数 式 入力文法 |
| 使用例 | このセクションでは、コマンドまたは関数の使用方法を含む使用例を示します。可能な場合は、コマンド行入力およびマシンの応答を含む完全な例を示します。例の次には、説明、変数置換のルール、または戻り値が示されます。ほとんどの例は、「形式」、「機能説明」、「オプション」、および「使用法」の各セクションの概念を例証するものです。 |

| | |
|---------|---|
| 環境変数 | このセクションでは、コマンドまたは関数が影響を与える環境変数を一覧に示し、その影響について簡単に説明します。 |
| 終了ステータス | このセクションでは、コマンドが呼び出し元のプログラムまたはシェルに返す値と、これらの値が返される条件を一覧に示します。通常、正常に完了した場合は 0 が返され、各種のエラー条件が発生した場合は 0 以外の値が返されます。 |
| ファイル | このセクションでは、このマニュアルページで参照されるすべてのファイル名、関連ファイル、およびコマンドが作成するファイルまたは必要とするファイルをすべて一覧に示します。各ファイル名の次に、説明またはその要約が示されます。 |
| 属性 | このセクションでは、コマンド、ユーティリティ、およびデバイスドライバの特性について、属性タイプとそれに対応する値を一覧で定義します。詳細は、attributes(5) を参照してください。 |
| 関連項目 | このセクションでは、参照先としてほかのマニュアルページ、Sun のマニュアル、および他社出版物を示します。 |
| コメント | このセクションでは、そのマニュアルページのほかのセクションに該当しない追加情報を示します。これはユーザーにとっては本筋から離れた情報であり、ユーザーの特定の関心事を取り上げません。重要な情報についてここで説明することはありません。 |

| | |
|------------------|--|
| 名前 | Intro - SMS 管理。 |
| 機能説明 | この節では、システム管理ソフトウェアの環境で実行されるコマンドについて説明します。 |
| コマンド一覧 | 次にサポートされているコマンドを示します。 |
| Intro | SMS の管理 |
| addboard | ドメインに対するボードの割り当て、接続、および構成 |
| addcodlicense | Capacity on Demand (COD) RTU (right-to-use) ライセンスキーを COD ライセンスデータベースに追加します。 |
| addtag | ドメインに対するドメイン名 (タグ) の割り当て |
| cancelcmdsync | コマンド同期コマンド |
| codd | Capacity on Demand (COD) デーモン |
| console | ドメインコンソールへのアクセス |
| dca | ドメイン構成エージェント |
| deleteboard | ドメインからシステムボードの設定を解除し、ドメインから切り離して割り当てを解除 |
| deletecodlicense | Capacity on Demand (COD) RTU (right-to-use) ライセンスキーを COD ライセンスデータベースから削除します。 |
| deletetag | ドメインに関連付けられているドメインタグ名の削除 |
| disablecomponent | 特定のコンポーネントを指定したブラックリストファイルに追加 |
| dsmd | ドメインの状態監視デーモン |
| dxs | ドメイン X サーバー |
| enablecomponent | 指定したブラックリストから特定のコンポーネントを削除 |
| esmd | 環境状態監視デーモン |
| flashupdate | CPU ボード、MaxCPU ボード、およびシステムコントローラ (SC) 上のフラッシュ PROM を更新 |
| fomd | フェイルオーバー管理デーモン |
| frad | FRU アクセスデーモン |
| help | SMS コマンドのヘルプ情報を表示 |
| hpost | Sun Fire ハイエンドシステムの電源投入時自己診断 (POST) 制御系アプリケーション |

| | |
|---------------|---|
| hwad | ハードウェアアクセスデーモン |
| initcmdsync | コマンド同期コマンド |
| kmd | SMS キー管理デーモン |
| mand | 管理ネットワークデーモン |
| mld | メッセージロギングデーモン |
| moveboard | ドメイン間でのボードの移動 |
| osd | OpenBoot PROM サーバーデーモン |
| pcd | プラットフォーム構成データベースデーモン |
| poweroff | 電源切断の制御 |
| poweron | 電源投入の制御 |
| rcfgadm | 遠隔構成管理 |
| reset | 指定されたドメインのすべての CPU ポートにリセットを送信 |
| resetsc | ほかのシステムコントローラ (SC) のリセット |
| runcmdsync | フェイルオーバー後の回復のために、指定されたスクリプトを準備 |
| savecmdsync | コマンド同期コマンドの設定の保存 |
| setbus | ドメイン内のアクティブな拡張ボードで動的バスの再構成を実行 |
| setcsn | CPU でのシャーシシリアル番号の設定 |
| setdatasync | データ同期で使用されるデータ伝達リストの変更 |
| setdate | システムコントローラ (SC) またはドメインの日付と時刻の設定 |
| setdefaults | 直前にアクティブであったドメインのすべてのインスタンスの削除、および Capacity on Demand (COD) 情報をリセット |
| setfailover | システムコントローラ (SC) フェイルオーバーメカニズムの状態の変更 |
| setkeyswitch | 仮想キースイッチ位置の変更 |
| setobpparams | ドメインの OpenBoot PROM 変数の設定 |
| setpcimode | PCI-X スロットに PCI モードでの動作を強制 |
| setupplatform | ドメインで使用する使用可能構成要素リストと Capacity on Demand (COD) 資源の設定 |
| showboards | ボードの割り当て情報と状態の表示 |
| showbus | アクティブドメイン内の拡張ボードのバス構成を表示 |
| showcmdsync | 現在のコマンド同期リストの表示 |

| | |
|---------------------|--|
| showcodlicens e | Capacity on Demand (COD) ライセンスデータベースに登録されている COD RTU (right-to-use) ライセンスの表示 |
| showcodusage | Capacity on Demand (COD) 資源の現在の使用状況統計の表示 |
| showcomponent | コンポーネントのブラックリスト状態の表示 |
| showdatasync | フェイルオーバーに対するシステムコントローラ (SC) のデータ同期状態の表示 |
| showdate | システムコントローラ (SC) またはドメインの日付と時刻の表示 |
| showdevices | システムボードデバイスおよび資源使用状況情報の表示 |
| showenvironme nt | 環境データの表示 |
| showfailover | システムコントローラ (SC) のフェイルオーバー状態または役割の表示 |
| showkeyswitch | 仮想キースイッチ位置の表示 |
| showlogs | メッセージログファイルまたはイベントログの表示 |
| showobpparams | ドメインの OpenBoot PROM 起動パラメータの表示 |
| showpcimode | hsPCI-X ボード上にあるすべての PCI-X スロットのモード設定を表示 |
| showplatform | プラットフォームタイプ、ボードの使用可能構成要素リスト、各ドメインの状態、および Capacity on Demand (COD) 情報の表示 |
| showxirstate | プロセッサにリセットパルスを送信後、CPU ダンプ情報を表示 |
| smsbackup | SMS 環境のバックアップ |
| smsconfig | SMS 環境の構成 |
| smsconnectsc | 遠隔 SC コンソールへのアクセス |
| smsinstall | SMS 環境のインストール |
| smsrestore | SMS 環境の復元 |
| smsupgrade | SMS ソフトウェアを最新バージョンにアップグレードします。 |
| smsversion | アクティブな SMS ソフトウェアのバージョンを他のインストール済みバージョンに変更 |
| ssd | SMS 起動デーモン |
| tmd | タスク管理デーモン |
| wcapp | wPCI アプリケーションデーモン |

| | |
|------|---|
| 名前 | addboard - ドメインに対するボードの割り当て、接続、および構成 |
| 形式 | addboard -d <i>domain_indicator</i> [-c <i>function</i>] [-r <i>retry_count</i> [-t <i>timeout</i>]] [-q] [-f] [-y -n] <i>location</i> ... addboard -h |
| 機能説明 | <p>addboard(1M) は、ドメイン <i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> に対して <i>location</i> の割り当て、接続、設定を行います。</p> <p>ボードは、追加されるドメインで available になっているか、またはそのドメインで assigned になっている必要があります。-c オプションは、現在の設定状態から新しい設定状態へ、ボードの切り替えを指定する場合に使用します。設定状態は、assign、connect、または configure のいずれかとなります。-c オプションが指定されない場合は、デフォルトの設定状態は configure になります。</p> <p>注 - addboard はタスクを同期的に実行し、コマンドが完了するまでユーザーに制御を返しません。ボードの電源が入っていないか、またはテストされていない状態で、-c connect configure オプションを指定すると、このコマンドによってボードの電源が投入され、テストされます。ただし、新しいファームウェアは hpost が実行されるまでアクティブになりません。</p> <p>注 - 1 つのボードのみが指定されており、それが自動システム回復 (ASR) ブラックリストファイルに定義されている場合は、addboard はエラーメッセージを表示して終了します。複数のボードが指定されている場合は、addboard は、ボードがスキップ中であることを示すメッセージを表示して次のボードへ進み、最後のボードの場合は、そこで終了します。</p> <p>注 - addboard コマンドの実行が失敗しても、ボードは元の状態には戻りません。dxs エラーメッセージ (または dca エラーメッセージ) がドメインのログに出力されます。発生したエラーが回復可能であれば、コマンドを再試行できます。回復不能な場合、対象のボードを使用するためには、当該ドメインを再起動する必要があります。</p> |

オプション | 次のオプションがサポートされています。

-c function

function の有効な値は、`assign`、`connect`、および `configure` です。このオプションは、設定状態の切り替えを制御する場合に使用します。それぞれの機能は、その前の状態に基づいて実行されます。たとえば、`configure` は最初に割り当てを行い、次に接続してから設定を行います。

有効な切り替え状態とその意味は以下のとおりです。

| | |
|------------------------|---|
| <code>assign</code> | ボードを論理ドメインに割り当てます。この状態のボードには当該ドメインが独占的にアクセスしますが、ボード自体はアクティブではありません。割り当てが完了すると、 <code>setkeyswitch on</code> を使用するか、あるいは <code>connect</code> オプションまたは <code>configure</code> オプションを使用することによって、ボードをドメインに接続または設定できます。 |
| <code>connect</code> | ボードが論理ドメインに割り当てられていない場合は、割り当てます。ボードを <code>connected unconfigured</code> 状態に切り替えます。これで、システムボードは論理ドメインに割り当てられ、接続されている (<code>active</code>) 状態になります。この状態では、標準システムでボード上のハードウェア資源にアクセスすることはできますが、ボードのハードウェア資源は標準の Solaris ソフトウェアデータ構造では表現されないため、 Solaris オペレーティングシステムでは使用できません。ボード上で使用できる操作は、設定管理に限定されます。これは一時的な状態であり、ソフトウェアによるこの状態の実装は、現時点では存在しません。 |
| <code>configure</code> | ボードが論理ドメインに割り当てられていない場合は、割り当てます。ボードを <code>connected configured</code> 状態に切り替えます。この状態では、ボードはドメインへの割り当てと接続が行われてアクティブになっているだけでなく、 Solaris オペレーティングシステムへの組み込みも行われています。ボード上のハードウェア資源は、 Solaris ソフトウェアで使用することができます。 |

- d *domain_indicator*** 次のいずれかを使ってドメインを指定します。
- domain_id* - ドメインの ID。有効な *domain_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。
- domain_tag* - `addtag(1M)` を使用してドメインに割り当てた名前。
- f** 指定された処理を強制的に実行します。通常、このオプションを指定すると、安全機能がハードウェア側で制御されます。状態の強制的な変更では、条件が `ok` や `unknown` でない占有装置のハードウェア資源を、ハードウェアに基づく安全チェック機能に従って使用することができます。
- h** ヘルプ。使用方法を表示します。
- 注** - 単一で使用します。`-h` に追加で指定されたオプションは無視されます。
- n** すべてのプロンプトに自動的に `no` と応答します。プロンプトは、`-q` オプションとともに使用しない限り表示されます。
- q** 非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。
- 単独で使用すると `-q` は、デフォルトですべてのプロンプトに対して `-n` オプションを指定します。
- `-y` オプションまたは `-n` オプションのどちらかとともに使用すると、`-q` ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「`y`」または「`n`」のどちらかで応答します。
- r *retry_count*** このコマンド引数を使用すれば、状態の切り替え中に障害が発生した場合の再試行を指定できます。`-r retry_count` オプションは単独で使用できます。この引数には、設定状態の変更が失敗したときにドメインが再試行する回数を指定します。
- t *timeout*** このコマンド引数を使用すれば、状態の切り替え中に障害が発生した場合の再試行を指定できます。`-t timeout` オプションは常に `-r retry_count` オプションとともに使用し、失敗した時点から次の再試行まで、ドメインが待機する時間の長さ（秒数）を指定します。`-t timeout` を省略すると、*timeout* のデフォルト値 (0) が使用され、ただちに再試行が実行されます。
- y** すべてのプロンプトに対して自動的に `yes` と応答します。プロンプトは、`-q` オプションとともに使用しない限り表示されません。

オペランド 次のオペランドがサポートされています。

location ボード位置のリストで、スペースで区切ります。複数の *location* 引数を使用できます。

指定できる *location* の範囲は次のとおりです。

Sun Fire 12K と E20K:

SB(0...8)

IO(0...8)

Sun Fire 15K と E25K:

SB(0...17)

IO(0...17)

注 – ボードタイプを使用する場合は、`showboards(1M)` を使用します。

拡張機能説明

必要なグループ特権

`-c assign` オプションは、プラットフォーム管理者特権を持つユーザーのみ、実行することができます。

ドメイン管理者または設定者特権を持っているユーザーは、自身のドメインについてのみ、このコマンドを実行できます。対象のドメインにボードが割り当てられていない場合は、ドメインの使用可能構成要素リストにボードを定義しておく必要があります。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

使用例

例 1 ドメイン C にボードを割り当てる

ドメイン C に 4 つのボードを割り当てる場合は、プラットフォーム特権またはドメイン特権が必要であり、さらにボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> addboard -d C -c assign SB0 IO1 SB1 SB2
SB0 assigned to domain: C
IO1 assigned to domain: C
SB1 assigned to domain: C
SB2 assigned to domain: C
sc0:sms-user:>
```

例 2 ブラックリストに定義されているボードをドメイン C に割り当てる

ドメイン C に 4 つのボードを割り当てる場合は、プラットフォーム特権またはドメイン特権が必要であり、さらにボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> addboard -d C -c assign SB0 IO2 SB1 SB2
SB0 assigned to domain: C
IO2 assigned to domain: C
Warning: IO2 is blacklisted.
You will not be able to connect or configure it.
SB1 assigned to domain: C
SB2 assigned to domain: C
sc0:sms-user:>
```

例 3 ドメイン A にボードを接続する

この例では、再試行の回数を 5 回、タイムアウトを 5 秒に設定し、ドメイン A に対して 3 つのボードを接続します。ドメイン A のドメイン特権が必要です。

```
sc0:sms-user:> addboard -d A -c connect -r 5 -t 5 IO3 IO4 IO5
```

例 4 ボード (ASR ブラックリストに定義されているボードを含む) をドメイン C に接続する

ドメイン C のドメイン特権が必要です。ブラックリストに含まれるボードはスキップされます。

```
sc0:sms-user:> addboard -d C -c connect SB0
SB0 is blacklisted.Exiting.
sc0:sms-user:>
```

例 5 複数のボードをドメイン A に設定する

ドメイン A のドメイン特権が必要です。

```
sc0:sms-user:> addboard -d A -c configure IO3 IO4 IO5
```

例 6 ボード (ASR ブラックリストに定義されているボードを含む) をドメイン A に設定する

ドメイン A のドメイン特権が必要です。ブラックリストに含まれるボードはスキップされます。

```
sc0:sms-user:> addboard -d A -c configure IO7 IO8 IO9
Skipping IO8.It is blacklisted.
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

| | |
|----|-----------------------|
| 0 | 正常に終了しました。 |
| 1 | 応答なし |
| 2 | サポートされていない |
| 3 | 操作がサポートされていない |
| 4 | 不正な特権 |
| 5 | ビジー |
| 6 | システムビジー |
| 7 | データエラー |
| 8 | ライブラリエラー |
| 9 | ライブラリが存在しない |
| 10 | 条件が不十分 |
| 11 | 不正 |
| 12 | エラー |
| 13 | APID が存在しない |
| 14 | 不正な属性 |
| 30 | 不正なボード ID タイプ |
| 31 | 不正な特権 |
| 32 | 他のドメインに割り当てられている |
| 33 | 特権を取得できない |
| 34 | ドメインボード情報を取得できない |
| 35 | アクティブなボード一覧を取得できない |
| 36 | 割り当てられているボード一覧を取得できない |
| 38 | Solaris が稼働していない |
| 39 | 割り当てまたは割り当て解除ができない |
| 40 | ドメイン特権を取得できない |
| 41 | プラットフォーム特権を取得できない |
| 51 | 不正なドメイン |
| 52 | 不正な特権 |
| 53 | 内部エラー |

- 54 ライブラリエラー
- 56 DR のコマンド構文エラー
- 57 割り当て済みの場所
- 58 内部エラー
- 59 ブラックリストに登録済みのコンポーネント
- 60 ASR ブラックリストを取得できない
- 61 ドメインのブラックリストを取得できない
- 62 プラットフォームのブラックリストを取得できない
- 70 DR 操作の失敗

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

| | |
|--|---------------------------|
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist</code> | esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。 |
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/platform/blacklist</code> | 除外されるプラットフォームコンポーネントの一覧。 |
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/domain_id/blacklist</code> | 除外されるドメインコンポーネントのリスト |

注 - このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。ASR ブラックリストファイルから特定のコンポーネントを削除するには、`enablecomponent(1M)` を使用します。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`addtag(1M)`、`enablecomponent(1M)`、`esmd(1M)`、`showcomponent(1M)`

| | |
|-----------|--|
| 名前 | addcodlicense - Capacity on Demand (COD) RTU (right-to-use) ライセンスキーを COD ライセンスデータベースに追加します。 |
| 形式 | addcodlicense <i>license-signature</i> addcodlicense -h |
| 機能説明 | addcodlicense(1M) は、指定された COD RTU ライセンスキーを、システムコントローラ (SC) 上の COD ライセンスデータベースに追加します。 注 - このコマンドを実行するには、事前にシステムの購入先から COD ライセンスキーを取得しておく必要があります。COD RTU ライセンスキーの詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 |
| オペランド | 次のオペランドがサポートされています。 <i>license-signature</i> COD ライセンスデータベースに追加する COD RTU ライセンスキーを指定します。 |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者グループ特権が必要です。 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |
| 使用例 | 例 1 COD RTU ライセンスキーの追加 sc0:sms-user:> addcodlicense \ 01:5014936C37048:01001:0201010302:4:20020430:jWGJdg/ kx78b0wyK2xrqIg |
| 終了ステータス | 次の終了値が返されます。 0 正常に終了しました。 1 不正な使用方法 2 不正なグループ特権 |

- 3 重複するライセンスが COD ライセンスデータベース内に存在
- 4 不正なライセンスキー
- >4 内部エラーが発生しました。詳細は、`/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages` を参照してください。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`codd(1M)`、`deletecodlicense(1M)`、`showcodlicense(1M)`、`showcodusage(1M)`

| | |
|-------|--|
| 名前 | <code>addtag</code> - ドメインに対するドメイン名 (タグ) の割り当て |
| 形式 | <code>addtag -d domain_indicator [-q] [-y -n] new_tag</code> <code>addtag -h</code> |
| 機能説明 | <code>addtag(1M)</code> は、指定されたドメインタグ名 (<i>new_tag</i>) をドメイン (<i>domain_id</i> \ <i>domain_tag</i>) へ追加します。1 つのドメインには 1 つの名前タグしか割り当てできません。また、この名前はすべてのドメインで必ず一意になるようにします。 <code>addtag</code> を使用して <i>domain_tag</i> を変更することもできます。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 <p><code>-d domain_indicator</code> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - <code>addtag(1M)</code> を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p><code>-h</code> ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。<code>-h</code> に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p><code>-n</code> すべてのプロンプトに自動的に <code>no</code> と応答します。プロンプトは、<code>-q</code> オプションとともに使用しない限り表示されます。</p> <p><code>-q</code> 非出力。プロンプトを含むすべての <code>stdout</code> へのメッセージを抑制します。</p> <p>単独で使用すると <code>-q</code> は、デフォルトですべてのプロンプトに対して <code>-n</code> オプションを指定します。</p> <p><code>-y</code> オプションまたは <code>-n</code> オプションのどちらかとともに使用すると、<code>-q</code> ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。</p> <p><code>-y</code> すべてのプロンプトに対して自動的に <code>yes</code> と応答します。プロンプトは、<code>-q</code> オプションとともに使用しない限り表示されます。</p> |
| オペラント | 次のオペラントがサポートされています。 <p><i>new_tag</i> ドメインに割り当てられる新しいタグ名。不正なドメイン名の説明については、「拡張機能説明」を参照してください。</p> |

拡張機能説明

ドメイン名タグの
制約

ドメイン名タグには、次の制約があります。

- 1 文字の名前は許可されません。
- すべてのドメイン名タグは、同じシャーシ内のドメインで一意とする
- タグは、Solaris のノード名と同じ制約に準拠します。現在、ドメイン名の長さは 2 文字から 64 文字に制限されています。

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 プロンプトを表示してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:> addtag -d A eng2
```

このドメインのタグが存在する場合は、プロンプトが表示されます。

例 2 -y オプションを使用して、タグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:> addtag -d A -y eng2
```

プロンプトが表示され、自動的に yes と応答します。この応答によって、ドメインに対して (タグがすでに存在している場合でも) ドメインタグが設定されます。

例 3 -n オプションを使用してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:> addtag -d A -n eng2
```

プロンプトが表示され、自動的に no と応答されます。この応答によって、このドメインに対するタグがまだ設定されていない場合は、タグが設定されます。

例 4 -qy オプションを使用してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:> addtag -d A -qy eng2
```

プロンプトは表示されません。

例 5 -qn オプションを使用してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:> addtag -d A -qn eng2
```

この例では、まだ設定されていない場合にのみ、タグ eng2 をドメイン A に割り当てます。プロンプトは表示されません。

例 6 -q オプションを使用してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:> addtag -d A -q eng2
```

この例では、タグがまだ設定されていない場合に、タグ eng2 をドメイン A に割り当てます。タグが設定されている場合は、このコマンドを実行しても変更されません。プロンプトは表示されません。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、**attributes (5)** を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

deletetag (1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | cancelcmdsync - コマンド同期コマンド |
| 形式 | cancelcmdsync <i>cmdsync_descriptor</i> initcmdsync <i>script_name</i> [<i>parameters</i>] savecmdsync <i>-M identifier cmdsync_descriptor</i> [cancel init save]cmdsync -h |
| 機能説明 | <p>これらのコマンド同期コマンドはともに機能し、システムコントローラ (SC) のフェイルオーバーによって中断されたユーザー定義のスクリプトの回復を制御します。コマンドを同期化するには、ユーザー定義のスクリプトに次のコマンドを挿入します。</p> <p>initcmdsync 回復するスクリプトを特定するための、コマンド同期記述子を作成します。</p> <p> この記述子は、コマンド同期リストの中に定義されます。このリストは、フェイルオーバーが発生した後で、新しいメインの SC で再起動するスクリプトとコマンドを特定します。</p> <p>savecmdsync フェイルオーバーが発生した後で、スクリプト内のどの場所から処理を再開するかを特定するためのマーカーを追加します。</p> <p>cancelcmdsync コマンド同期リストからコマンド同期記述子を削除します。これによって、スクリプトは 1 度だけ実行され、それ以降のフェイルオーバーの後には実行されません。</p> <p> コマンド同期リストから記述子を削除するために、スクリプトのすべての出力先には、必ず 1 つの cancelcmdsync シーケンスを定義します。記述子が削除されていない場合にフェイルオーバーが発生すると、スクリプトは、新しいメイン SC 上で実行されます。</p> <p>注 - initcmdsync と cancelcmdsync のシーケンスは、コマンドが同期化されるように必ず 1 つのスクリプトに定義します。 savecmdsync はオプションのコマンドで、スクリプト内の場所をマークして処理を再開する場所を特定する場合のみ使用します。特別な再開ポイントが必要ない場合は、代わりに runcmdsync(1M) を使用することもできます。</p> |

| | |
|---------------------------|--|
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 |
| <i>cmdsycn_descriptor</i> | コマンド同期記述子 (ユーザー定義スクリプトを指定する記述子) を表します。この記述子は、 <code>initcmdsycn</code> コマンドの標準の出力値として返されます。 |
| -h | ヘルプ。使用方法を表示します。 |
| -M <i>identifier</i> | 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 フェイルオーバーの後に、スクリプトを再開する場所を指定します。この記述子は、正の整数とします。 |
| <i>parameters</i> | ユーザー定義スクリプトに関連するオプションまたはパラメータを表します。これらのパラメータは、スペア SC に格納されており、フェイルオーバーの後で指定されたスクリプトを再起動する際に使用します。 |
| <i>script_name</i> | 同期的に処理されるユーザー定義スクリプトの名前を表します。 <i>script_name</i> には、実行可能ファイルの名前を絶対パスで指定します。このコマンドは、両方の SC で同じ場所に位置している必要があります。 |
| 拡張機能説明 | コマンド同期コマンドは、ユーザー定義スクリプト内の特定の論理ポイントに挿入します。 |

たとえば、**Korn** シェルスクリプトは、以下のようになります。

```
# MAIN CODE STARTS HERE
# Be sure to use a cleanup procedure to handle any
# interrupts.
# Use the cancelcmdsync to remove the script from the
# command synchronization list. Otherwise, the command
# will get restarted on the new main SC.
#
clean_up () {
    cancelcmdsync $desc
    exit
}

# Declare the clean_up function to capture system signals
# and cleanup.
trap "clean_up" INT HUP TERM QUIT PWR URG
goto_label=1
# Process the arguments, capturing the -M marker point
# if provided
#
for arg in $*; do
    case $arg in
        -M )
            goto_label=$arg;;
        .
        .
        .
    esac
done
# Place this script and all its parameters in the command
# synchronization list, which indicates the commands to
# be restarted after an SC failover.
#
# NOTE: The script must be executable by the user defined
# in fomd.cf and reside in the same directory on both the
# main and the spare SC.
```

```

# If the command is not part of the defined PATH for
# the user, the absolute filename must be passed with the
# initcmdsycn command
#
initcmdsycn script_name parameters
# The marker point is stored in the goto_label variable.
# Keep executing this script until all cases have been
# processed or an error is detected.
#
while (( $goto_label != 0 )) ; do
#
# Each case should represent a synchronization point
# in the script.
#
case $goto_label in
#
# Step 1: Do something
#
1 )          do_something
            .
            .
            .

# Execute the savecmdsycn command with the script's
# descriptor and a unique marker to save the position.
# If a failover occurs here, the commands represented in
# the next goto_label (2) will be resumed.
#
            savecmdsycn -M $(( $goto_label + 1 )) $desc
            goto_label=$(( $goto_label + 1 ))
            ;;

#
# Step 2: Do more things
#
2 )          do_more_things
            .
            .
            .
            savecmdsycn -M $(( $goto_label + 1 )) $desc
            goto_label=$(( $goto_label + 1 ))
            ;;

#
# Step 3: Finish the last step and set the goto_label to 0
# so that the script ends.
3 )
            finish_last_step
            .
            .
            .
            goto_label=0
            ;;

        esac
done
# END OF MAIN CODE
# Remember to execute cancelcmdsycn to remove the script from the
# command synchronization list. Otherwise, the command will be restarted
# after the failover.
#
cancelcmdsycn $desc

```

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

注 - `initcmdsyc` の標準出力には、コマンド同期記述子が含まれています。(フェイルオーバーが終了した場合や、単一の SC 環境などで) フェイルオーバーが使用できない場合は、同期コマンドが含まれているスクリプトでは、プラットフォームのログファイルに対してエラーメッセージを生成し、ゼロ以外の終了コードを返します。これらのメッセージは無視することもできます。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`runcmdsync(1M)`、`showcmdsyc(1M)`

| | |
|--------|--|
| 名前 | codd - Capacity on Demand (COD) デーモン |
| 形式 | codd |
| 機能説明 | <p>codd(1M) はメインのシステムコントローラ (SC) 上で動作するプロセスの 1 つです。このプロセスは、次の役割を担当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ COD 資源の使用状況を監視し、使用されている資源が COD ライセンスデータベースファイル内の該当する COD RTU (right-to-use) ライセンスと合致しているかどうかをチェックする。警告メッセージが発生するたびに、ログに記録する処理も行います。 ■ インストール済みのライセンス、資源の使用状況、およびボードの状態に関する情報を提供する。 ■ COD RTU ライセンスキーの追加や削除の要求に対処する。 ■ インスタントアクセス CPU と、ドメイン用に予約する COD RTU ライセンスを構成する。 <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。また、codd デーモンはいったん停止しても、自動的に再起動されます。このデーモンをコマンド行から明示的に起動しないでください。</p> |
| 拡張機能説明 | <p>codd デーモンは、次のイベントが発生したときに、COD RTU ライセンスの割り当てを解除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ COD CPU ボードへの電源供給が遮断されたか、稼働中のドメインから COD CPU ボードが除去されたとき ■ ドメインの仮想キースイッチの状態が on/secure から standby/off に切り替わったとき <p>次の各コマンドは、codd デーモンのクライアントとして動作します。</p> <p>addcodlicense(1M) システムコントローラ (SC) 上の COD ライセンスデータベースに COD RTU ライセンスキーを追加する。</p> <p>dxs(1M) ドメイン X サーバーデーモン</p> <p>deletecodlicense(1M) COD RTU ライセンスを SC から削除する。</p> <p>hpost(1M) Sun Fire ハイエンドシステムの電源投入時自己診断 (POST) を制御する。</p> <p>setdefaults(1M) アクティブではなくなったドメインを対象に、すべてのインスタンスを削除し、予約されていた COD RTU をリセットする。</p> <p>setupplatform(1M) ドメインの使用可能構成要素リストと COD RTU 予約を設定し、プラットフォームの COD インスタントアクセス CPU を構成する。</p> |

| | |
|--------------------|--|
| showcodlicense(1M) | インストール済みの COD RTU ライセンスを表示する。 |
| showcodusage(1M) | COD 資源の現在の使用統計を表示する。 |
| showplatform(1M) | ボードの使用可能構成要素リスト、ドメインの状態、各ドメインに予約されている COD RTU、およびプラットフォームの COD インスタントアクセス CPU を表示する。 |

codd デーモンは、次の各デーモンのクライアントとして機能します。

| | |
|------------------|-----------------------|
| dsmd(1M) | ドメイン状態監視デーモン |
| frad(1M) | FRU アクセスデーモン |
| pcd(1M) | プラットフォームの設定データベースデーモン |
| setkeyswitch(1M) | 仮想キースイッチ制御コマンド |

ファイル 次のファイルがサポートされています。

| | |
|--|-----------------|
| /var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages | メッセージファイルを格納する。 |
|--|-----------------|

属性 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 addcodlicense(1M)、deletecodlicense(1M)、dsmd(1M)、dxs(1M)、frad(1M)、hpost(1M)、pcd(1M)、setdefaults(1M)、setkeyswitch(1M)、setupplatform(1M)、showcodlicense(1M)、showcodusage(1M)、showplatform(1M)、ssd(1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | console - ドメインコンソールへのアクセス |
| 形式 | console -d <i>domain_indicator</i> [[-f] [-l] [-g] [-r]] [-e <i>escapeChar</i>] console -h |
| 機能説明 | <p>console(1M) は、指定されたドメイン (<i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i>) に対するコマンドを実行するウィンドウ、コンソールウィンドウを作成して、ドメインの仮想コンソールドライバへ遠隔接続します。1つのドメインに対して複数の console コマンドを同時に接続することもできますが、書き込み権は1つの console のみが所有し、その他のコマンドは読み取り専用になります。書き込み権は、ロックまたはロック解除のいずれかのモードになります。</p> <p>オプションを指定しないで console を呼び出すと、排他的なロックされた書き込みモード (オプション -f) の状態になります。排他的なセッションでは、ドメイン仮想コンソールから他のセッションが強制的に切り離されます。</p> <p>ロックされた書き込みモードでは、安全性が高くなります。このモードは、console-f を使用して他のコンソールが開かれた場合、または実行中の他の console ウィンドウから ~* が入力された場合に解除されます。これらの2つの場合には、新しい console セッションが排他セッションになります。</p> <p>ロック解除された書き込み権は、ロックされた書き込みに比べて安全性が低くなります。このモードは、console -g、console -l または console -f を使用して別の console コマンドが開始された場合、あるいは別のコンソールウィンドウから ~@、~& または ~* が入力された場合に解除されます。</p> <p>console は、IOSRAM、またはドメインに対するネットワークパスを使用して、ドメインコンソールと通信します。~= (チルドおよび等号記号) のコマンドを使用して、通信パスを手動で切り替えることができます。ネットワークが使用できなくなり、console セッションがハングしたと思われる場合は、通信パスを手動で切り替えると有効です。</p> <p>チルドコマンドは「拡張機能説明」で説明します。</p> |

オプション

次のオプションがサポートされています。

- d *domain_indicator*** 次のいずれかを使ってドメインを指定します。
- domain_id* - ドメインの ID。有効な *domain_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。
- domain_tag* - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。
- e *escapeChar*** デフォルトのエスケープ文字を設定します。エスケープ文字を *escapeCharacter* に変更します。デフォルトは ~ (チルド) です。
- 有効なエスケープ文字は次のものを除く任意の文字です。
- ```
@ ^ & ? * = . |
```
- 以下の「使用方法」に記載している rlogin 関連の注意書きを参照してください。
- f** 強制オプション (デフォルト)。ドメインコンソールウィンドウをロックされた書き込み特権でオープンし、オープンしている他のセッションをすべて終了し、新しいセッションがオープンされないようにします。これにより、セッションが排他になります。このコマンドは、( 専用にデバッグを行う場合など ) コンソールを排他的に使用する場合のみ使用します。
- 注** - 多重セッションモードを復元するには、ロックを開放 (~^) するか、または、コンソールセッションを終了 (~.) します。
- g** グラブオプション。コンソールウィンドウをロック解除された書き込み特権でオープンします。他のセッションがロック解除された書き込み特権を持っている場合は、そのセッションは読み取り専用になります。他のセッションがロック特権を持っている場合は、この要求は拒否され、コンソールウィンドウは読み取り専用でオープンします。

|    |                                                                                                                                                          |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -h | ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                                                                                          |
|    | <b>注</b> - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。                                                                                                            |
| -l | ロックオプション。コンソールウィンドウをロックされた書き込み特権でオープンします。他のセッションがロック解除された書き込み特権を持っている場合は、そのセッションは読み取り専用になります。他のセッションがロック特権を持っている場合は、この要求は拒否され、コンソールウィンドウは読み取り専用でオープンします。 |
| -r | コンソールウィンドウを読み取り専用モードでオープンします。                                                                                                                            |

## 拡張機能説明

### 使用法

ドメインコンソールウィンドウでは、行の先頭文字として現れる**チルド**(~)は、console が特別な処理を行うためのエスケープ記号とみなされます。具体的には、次のものがあります。

|    |                                                                                                                        |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ~? | ステータスメッセージ                                                                                                             |
| ~. | console セッションの切断                                                                                                       |
| ~# | OpenBoot PROM または kadb ヘブレーク                                                                                           |
| ~@ | ロック解除された書き込み特権の取得 (-g を参照)                                                                                             |
| ~^ | 書き込み権を開放する                                                                                                             |
| ~= | ネットワークと IOSRAM インタフェース間の通信パスを切り替えます。~= はプライベートモードでのみ使用できます (~* を参照)。                                                   |
| ~& | ロックされた書き込み特権を取得します (-l を参照)。この信号は、読み取り専用、またはロック解除された書き込みのセッションでのみ実行することができます。                                          |
| ~* | ロックされた書き込み特権を取得し、オープンしている他のセッションをすべて終了して、新しいセッションがオープンしないようにします (-f を参照)。多重セッションモードを復元するには、ロックを開放するか、またはこのセッションを終了します。 |

**注** - rlogin は、**チルド**が新しい行の先頭で使用されている場合でも、**チルド・エスケープ**のシーケンスを処理します。行の先頭で**チルド**シーケンスを送信する必要があり、rlogin を使用する場合は、2 つの**チルド**(最初のチルドはエスケープで、2 番めは rlogin に対するチルド)を使用します。もう 1 つの方法としては、rlogin の実行中に、行の先頭に**チルド**を入力しないようにします。

必要なグループ特権

**注** - `kill -9` コマンドを使用してコンソールセッションを終了すると、コンソールコマンドが実行されたウィンドウまたは端末は、`raw` モードになり、ハングしたように見えます。このような状況を回避するには、`CTRL-j` と入力し、次に `stty sane`、さらに `CTRL-j` と入力します。

指定されたドメインについて、ドメイン管理者の特権を持っている必要があります。プラットフォームグループ特権のみを持つユーザーは、ドメインコンソールにアクセスすることはできません。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

使用例

例1           ドメインで、コンソールウィンドウをロックモードでオープンする

```
sc0:sms-user:> console -d a -1
```

**注** - ドメインコンソールウィンドウでは、環境変数 `TERM` がコンソールウィンドウと同じ設定になっている場合のみ、`vi(1)` が正しく実行され、エスケープシーケンス (チルドコマンド) が正しく機能します。たとえば、次のメッセージが表示されません。

```
sc0:sms-user:> setenv TERM xterm
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```
0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。
```

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`addtag(1M)`、`dxs(1M)`、`kill(1)`、`rlogin(1)`、`set(1)`、`stty(1)`、`vi(1)`、`xterm(1M)`

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | dca - ドメイン構成エージェント                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 形式    | <b>dca</b> -d <i>domain_indicator</i> [-H <i>hostname</i> ]<br><b>dca</b> -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 機能説明  | dca(1M) は、システムコントローラ上の dca と、指定されたドメインのドメイン構成サーバー (dcs) との通信メカニズムを提供します。dca には、遠隔の動的な再構成コマンドに関する通信サービスが用意されています。<br><br>このエージェントは、ssd(1M) によって自動的に開始されます。コマンド行から手動で起動しないでください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。<br><br>-d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。<br><br><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。<br><br><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。<br><br>-h                              ヘルプ。dca コマンドの使用方法を表示します。<br><br><b>注</b> - 単一で使います。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。<br><br>-H <i>hostname</i> dca に関連付けられているドメインの Solaris ソフトウェアのホスト名。                                                                                                        |
| ファイル  | このコマンドでは、次のファイルを使用します。<br><br>/var/opt/SUNWSMS/doors/<domain_id>/dca<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr0<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr1<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr2<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr3<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr4<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr5<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr6<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr7<br><br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr8 |

/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain\_id>/scdr9

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addboard(1M)、deleteboard(1M)、moveboard(1M)、rcfgadm(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | deleteboard - ドメインからシステムボードの設定を解除し、ドメインから切り離して割り当てを解除                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 形式    | <b>deleteboard</b> [-c <i>function</i> ] [-r <i>retry_count</i> [-t <i>timeout</i> ]] [-q] [-f] [-y n] <i>location</i> ...<br><br><b>deleteboard</b> -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 機能説明  | <p>deleteboard(1M) は、ドメインから、割り当てられてアクティブになっている <i>location</i> を削除します。<i>location</i> のボードは、assigned か connected configured のいずれかの状態になっています。-c オプションは、現在の設定状態から新しい設定状態へ、ボードの切り替えを指定する場合に使用します。ただし、新しいファームウェアは hpost が実行されるまでこのボード上でアクティブになりません。また、deleteboard 操作を完了するには、disconnect 関数を使用します。</p> <p>設定状態は、unconfigure、disconnect、unassign のいずれかとなります。-c オプションを指定しない場合は、デフォルトの設定状態 unassign が使用されます。</p> <p>ドメイン管理者は、ボードの unconfigure や disconnect を行うことができますが、ボードがドメインの使用可能構成要素リストに定義されていない場合は、ドメインからボードの割り当てを解除することはできません。setupplatform(1M) を参照してください。これは、deleteboard <i>location</i> フィールドが、ドメインの使用可能構成要素リストに定義されていないことを表しています。</p> |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |



**注** - deleteboard コマンドの実行が失敗しても、対象のボードは実行前の状態には戻りません。dxs エラーメッセージ (または dca エラーメッセージ) がドメインのログに出力されます。発生したエラーが回復可能であれば、コマンドを再試行できます。回復不能な場合、対象のボードを使用するためには、当該ドメインを再起動する必要があります。

*-c function*

*function* の有効な値は、*unconfigure*、*disconnect*、または *unassign* です。*-c* オプションは、設定状態の切り替えを制御する場合に使用します。それぞれの機能は、その前の状態に基づいて実行されます。たとえば、*unassign* は最初に構成解除を行い、次に割り当て解除してから切断を行います。

有効な切り替え状態とその意味は以下のとおりです。

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| unconfigure | <p>ドメイン上で稼働している Solaris オペレーティングシステムからボードの構成を解除します。Solaris ソフトウェアは、ボード上のすべてのハードウェア資源の使用を停止します。ボードを <code>connected unconfigured</code> 状態に切り替えます。これで、システムボードは論理ドメインに割り当てられており、接続されている (<code>active</code> 状態に維持される) 状態になります。この状態では、標準のシステムでボード上のハードウェア資源にアクセスすることはできませんが、ボードのハードウェア資源は標準の Solaris ソフトウェアのデータ構造では表現されないため、Solaris オペレーティングシステムでは使用できません。ボード上で使用できる操作は、設定管理に限定されます。</p> |
| disconnect  | <p>ドメイン上で稼働している Solaris オペレーティングシステムからボードの構成を解除します。unconfigure を参照してください。ボードを <code>disconnected unconfigured</code> 状態に切り替えます。物理ドメインからボードを削除します。このステップで、ドメインによって UNCLAIM 要求が SC に送信されます。これで、システムボードは論理ドメインに割り当てられ、切り離されている状態になります。</p>                                                                                                                                                |
| unassign    | <p>ドメイン上で稼働している Solaris オペレーティングシステムからボードの構成を解除します。unconfigure を参照してください。ボードを切り離します。disconnect を参照してください。ボードの状態を <code>available</code> (使用可能) に変更して、論理ドメインからボードを移動します。</p>                                                                                                                                                                                                            |

- f 指定された処理を強制的に実行します。通常、このオプションを指定すると、安全機能がハードウェア側で制御されます。状態の強制的な変更では、条件が `ok` や `unknown` でない占有装置のハードウェア資源を、ハードウェアに基づく安全チェック機能に従って使用することができます。
- h ヘルプ。使用方法を表示します。
- 注** - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。
- n すべてのプロンプトに自動的に `no` と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。
- q 非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。
- 単独で使用すると -q は、デフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。
- q オプションを -y または -n オプションとともに使用すると、ユーザープロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づいて「y」または「n」のいずれかで自動的に応答します。
- r *retry\_count* このコマンド引数を使用すれば、状態の切り替え中に障害が発生した場合の再試行を指定できます。-r *retry\_count* オプションは単独で使用できます。この引数には、設定状態の変更が失敗したときにドメインが再試行する回数を指定します。
- t *timeout* このコマンド引数を使用すれば、状態の切り替え中に障害が発生した場合の再試行を指定できます。-t *timeout* オプションは常に -r *retry\_count* オプションとともに使用し、失敗した時点から次の再試行まで、ドメインが待機する時間の長さ (秒数) を指定します。-t *timeout* を省略すると、*timeout* のデフォルト値 (0) が使用され、ただちに再試行が実行されます。
- y すべてのプロンプトに対して自動的に `yes` と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。

オペランド | 次のオペランドがサポートされています。

*location*            ボード位置のリストで、スペースで区切ります。複数の *location* 引数を使用できます。

指定できる *location* の範囲は次のとおりです。

Sun Fire 12K と E20K:

SB(0...8)

IO(0...8)

Sun Fire 15K と E25K:

SB(0...17)

IO(0...17)

**注** – ボードタイプを使用する場合は、`showboards(1M)` を使用します。

#### 拡張機能説明

必要なグループ特権

ボードが割り当て (*assigned*) の状態 (つまり実行中のドメインでアクティブ (*active*) になっていない) の場合は、プラットフォーム管理者特権を持っているユーザーのみ `-c unassign` オプションを実行することができます。

ドメイン管理者または設定者特権を持っているユーザーは、自身のドメインについてのみ、このコマンドを実行することができます。ボードの割り当てを解除するには、そのボードがドメインの使用可能構成要素リストに含まれていることが前提になります。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例

例 1            ドメインからボードを構成解除する

ドメインから 4 つのボードを構成解除 (*unconfigure*) するには、ドメイン管理者特権またはドメイン設定者特権を付与して、ボードを、ドメイン使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

この例のドメインには、構成されている (*configured*) 状態のボードがすべて定義されています。

```
sc0:sms-user:> deleteboard -c unconfigure SB0 IO1 SB1 SB2
```

例 2            実行中のドメインからボードの割り当てを解除する

ドメインから 3 つのアクティブなボードの割り当てを解除 (unassign) するために、再試行の長さを 5 秒、タイムアウトを 3 秒に設定します。ボードが構成解除されて切り離された状態になってから、割り当てが解除されます。ドメイン管理者特権またはドメイン設定者特権が必要であり、ボードを、ドメイン使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> deleteboard -r5 -t3 IO3 IO4 IO5
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- |    |                          |
|----|--------------------------|
| 0  | 正常に終了しました。               |
| 1  | 応答なし                     |
| 2  | サポートされていない               |
| 3  | 操作がサポートされていない            |
| 4  | 不正な特権                    |
| 5  | ビジー                      |
| 6  | システムビジー                  |
| 7  | データエラー                   |
| 8  | ライブラリエラー                 |
| 9  | ライブラリが存在しない              |
| 10 | 条件が不十分                   |
| 11 | 不正                       |
| 12 | エラー                      |
| 13 | APID が存在しない              |
| 14 | 不正な属性                    |
| 30 | 不正なボード ID タイプ            |
| 31 | 不正な特権                    |
| 32 | 他のドメインに割り当てられている         |
| 33 | 特権を取得できない                |
| 34 | ドメインボード情報を取得できない         |
| 35 | アクティブなボード一覧を取得できない       |
| 36 | 割り当てられているボード一覧を取得できない    |
| 38 | Solaris が稼働していない         |
| 39 | ドメイン状態を割り当て / 割り当て解除できない |

- 40 ドメイン特権を取得できない
- 41 プラットフォーム特権を取得できない
- 52 不正な特権
- 53 内部エラー
- 54 ライブラリエラー
- 56 DR のコマンド構文エラー
- 58 内部エラー
- 68 場所が割り当てられていない
- 69 場所が設定されていない
- 70 DR 操作の失敗

属性 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 addboard(1M)、moveboard(1M)

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | deletecodlicense - Capacity on Demand (COD) RTU (right-to-use) ライセンスキーを COD ライセンスデータベースから削除します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 形式        | <b>deletecodlicense</b> [-f] <i>license-signature</i><br><b>deletecodlicense</b> -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 機能説明      | <p>deletecodlicense (1M) コマンドは、指定された COD RTU ライセンスキーを SC 上の COD ライセンスデータベースから削除します。COD RTU ライセンスキーの詳細は、『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。</p> <p>このコマンドを実行すると、既存の COD RTU ライセンスの数と、使用中の COD CPU の数がシステムによって比較されます。その結果、COD RTU ライセンスを削除すると、ライセンス数が使用中の CPU 数を下回るようであれば、ライセンスは COD RTU ライセンスデータベースから削除されません。その場合、COD RTU ライセンスキーを削除するには、使用中の COD CPU の数を減らす必要があります。減らすべき CPU の数に応じて、適切な数のドメインをオフにするか、動的再構成 (DR) を使って適切な数のボードの接続を解除します。</p> <p>-f オプションを指定すれば、COD RTU ライセンスを強制的に削除することも可能ですが、ライセンス違反につながるおそれがあります。</p> |
| オプション     | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-f 指定した COD RTU ライセンスキーを COD ライセンスデータベースから強制的に削除します。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p><b>注</b> - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p><i>license-signature</i> COD ライセンスデータベースから削除する COD RTU ライセンスキーを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者グループ特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 使用例       | <p>例 1 COD RTU ライセンスキーの削除</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;deletecodlicense\<br/>01:5014936C37048:01001:0201010302:4:20020430:jWGJdg/<br/>kx78b0wyK2xrqIg</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |



終了ステータス

次の終了値が返されます。

|    |                                                                                  |
|----|----------------------------------------------------------------------------------|
| 0  | 正常に終了しました。                                                                       |
| 1  | 不正な使用方法                                                                          |
| 2  | 不正なグループ特権                                                                        |
| >2 | 内部エラーが発生しました。詳細は、 <code>/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages</code> を参照してください。 |

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`addcodlicense(1M)`、`codd(1M)`、`showcodlicense(1M)`、`showcodusage(1M)`

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | deletetag - ドメインに関連付けられているドメインタグ名の削除                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 形式        | <b>deletetag -d <i>domain_indicator</i> [-q] [-y -n]</b><br><b>deletetag -h</b>                                                                                                                                                                                                         |
| 機能説明      | deletetag (1M) は、ドメインに関連付けられているドメインタグを削除します。                                                                                                                                                                                                                                            |
| オプション     | 次のオプションがサポートされています。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|           | <p><b>-d <i>domain_indicator</i></b> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p>                                                                               |
|           | <p><b>-h</b> ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p><b>注</b> - 単一で使用します。<b>-h</b> に追加で指定されたオプションは無視されます。</p>                                                                                                                                                                                            |
|           | <p><b>-n</b> すべてのプロンプトに自動的に <b>no</b> と応答します。プロンプトは、<b>-q</b> オプションとともに使用しない限り表示されず。</p>                                                                                                                                                                                                |
|           | <p><b>-q</b> 非出力。プロンプトを含むすべての <code>stdout</code> へのメッセージを抑制します。</p> <p>単独で使用されると、<b>-q</b> はデフォルトですべてのプロンプトに対して <b>-n</b> オプションを指定します。</p> <p><b>-y</b> オプションまたは <b>-n</b> オプションのどちらかとともに使用すると、<b>-q</b> ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「<b>y</b>」または「<b>n</b>」のどちらかで応答します。</p> |
|           | <p><b>-y</b> すべてのプロンプトに対して自動的に <b>yes</b> と応答します。プロンプトは、<b>-q</b> オプションとともに使用しない限り表示されます。</p>                                                                                                                                                                                           |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。                                                                                                                                                                                                                                                       |
|           | 詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第 2 章「SMS のセキュリティーオプションと管理特権」を参照してください。                                                                                                                                                                                             |

| <p>使用例</p>     | <p>例 1            割り当てられているドメインから、タグ <code>eng2</code> を削除する</p> <pre>sc0:sms-user:&gt; <b>deletetag -d eng2 -qy</b></pre> <p>プロンプトは表示されません。</p>                                                                                                                                                                                                                   |       |     |              |           |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| <p>終了ステータス</p> | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0                    正常に終了しました。</p> <p>&gt;0                   エラーが発生しました。</p> <p><i>domain_id</i> にタグが定義されていない場合は、エラーは返されず、<code>deletetag (1M)</code> は正常に処理されたとみなされます。</p>                                                                                                                                                               |       |     |              |           |
| <p>属性</p>      | <p>次の属性の説明については、<code>attributes (5)</code> を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="381 656 1354 765"> <thead> <tr> <th data-bbox="381 656 869 711">属性タイプ</th> <th data-bbox="869 656 1354 711">属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="381 711 869 765">Availability</td> <td data-bbox="869 711 1354 765">SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ          | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |     |              |           |
| Availability   | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |     |              |           |
| <p>関連項目</p>    | <p><code>addtag (1M)</code></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |           |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | <code>disablecomponent</code> - 特定のコンポーネントを指定したブラックリストファイルに追加                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 形式    | <code>disablecomponent [-d domain_indicator] [-i "reason"] location...</code><br><code>disablecomponent -h</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 機能説明  | <p><code>disablecomponent (1M)</code> は、ドメインまたはプラットフォームのブラックリストにコンポーネントを追加し、起動できないようにします。</p> <p><code>blacklist</code> は、POST が起動時に使用できないコンポーネントを一覧した内部ファイルです。POST はシステムを起動用に準備する前にブラックリストファイルを読み取り、正常にテストが完了したコンポーネントだけを含むリストを <b>OpenBoot PROM</b> に渡します (ブラックリストに含まれるコンポーネントは除外されます)。SMS は、ドメインボード用、プラットフォームボード用、内部 ASR (自動システム回復) 用にそれぞれ 1 つずつ、合計 3 つのブラックリストをサポートしています。</p> <p>オプションを指定せずに <code>disablecomponent</code> を使用したときは、プラットフォームのブラックリストファイルを編集します。</p> <p><code>disablecomponent</code> は、ASR ブラックリストファイルで使用することはできません。<code>enablecomponent (1M)</code> のみ、ASR ブラックリストファイルに書き込みすることができます。</p> <p>使用方法と、プラットフォームおよびドメインのブラックリストの編集方法については、『<b>System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル</b>』を参照してください。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p><code>-d domain_indicator</code> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><code>domain_id</code> - ドメインの ID。有効な <code>domain_id</code> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><code>domain_tag</code> - <code>addtag(1M)</code> を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p><code>-h</code> ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p><b>注</b> - 単一で使用します。<code>-h</code> に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p><code>-ireason</code> コンポーネントがドメインブラックリストに追加された理由を簡潔に示します。単一引用符または二重引用符の記号で囲むか、または単一語で記述する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                           |

オペランド | 次のオペランドがサポートされています。

*location*

コンポーネントの場所。次のいずれかの形式で、スラッシュで区切って指定します。

*board\_loc/proc/bank/logical\_bank*

*board\_loc/proc/bank/all\_dimms\_on\_that\_bank*

*board\_loc/proc/all\_banks\_on\_that\_proc*

*board\_loc/all\_banks\_on\_that\_board*

*board\_loc/proc*

*board\_loc/procs*

*board\_loc/cassette*

*board\_loc/bus*

*board\_loc/paroli\_link*

*location* 引数が複数の場合は、スペースで区切ります。

*location* 形式は、オプションであり、特定の位置にあるボード上の特定のコンポーネントを指定するために使用されます。

たとえば、*location* が SB5/P0/B1/L1 の場合、SB5 にあるプロセッサ 0 上のバンク 1 の論理バンク 1 を示します。

*location* が SB0/PP1 の場合、SB0 にあるプロセッサペア 1 を示します。

*location* が CS0/ABUS の場合、センタープレーンのアドレスバス 0 を示します。

*location* が EX11/DBUS1 の場合、拡張ボード 11 のデータバス 1 を示します。

次の *board\_loc* 形式が使用できます。

Sun Fire 12K と E20K:

SB(0...8)

IO(0...8)

Sun Fire 15K と E25K:

SB(0...17)

IO(0...17)

プロセッサ位置は、単一のプロセッサまたはプロセッサペアを示します。

1 枚の CPU/ メモリーボードでは、4 つのプロセッサが使用できます。ボード上のプロセッサペアは、procs 0 と 1、および procs 2 と 3 です。

**注** – procpair0 内のプロセッサ cpu0 をブラックリストに登録すると、その CPU パートナーである cpu1 もドメイン構成から削除され、両方のプロセッサが使用されなくなります。cpu1 を無効にした場合、cpu0 はドメイン構成内にとどまります。procpair1 内の cpu2 または cpu3 を無効にした場合、ペア内の他方の CPU が影響を受けることはありません。

MaxCPU には、procs 0 と 1、および 1 つのみの proc ペア (PP0) の 2 つのプロセッサがあります。このボードに PP1 を使用すると、disablecomponent が終了し、エラーメッセージが表示されます。

次の proc 形式が使用できます。

P(0...3)    PP(0|1)

次の bank 形式が使用できます。

B(0|1)

次の logical\_bank 形式が使用できます。

L(0|1)

次の all\_dimms\_on\_that\_bank 形式が使用できます。

D

次の all\_banks\_on\_that\_proc 形式が使用できます。

B

次の all\_banks\_on\_that\_board 形式が使用できます。

B

次の paroli\_link の形式が使用できます。

PAR(0|1)

hsPCI アセンブリには、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI* 形式が使用できます。

C(3|5)V(0|1)

hsPCI+ アセンブリには、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI+* 形式が使用できます。

C3V(0|1|2) および C5V0

バス位置には、アドレス、データおよび応答の 3 つがあります。

次の *bus* 形式が使用できます。

ABUS|DBUS|RBUS (0|1)

## 拡張機能説明

### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権、ドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権が必要です。プラットフォーム特権を持っている場合は、プラットフォームのコンポーネントに対してのみ、このコマンドを実行することができます。ドメイン特権を持っている場合は、特権を持っているドメインに対してのみこのコマンドを実行することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

### 使用例

- 例 1 システムボード 1 の CSB 0 とプロセッサ 2 をドメイン A ブラックリストに追加する
- ```
sc0:sms-user:> disablecomponent -dA CS0 SB1/P2
```
- 例 2 システムボード 0 上のプロセッサ 0 にあるバンク 0 の論理バンク 0 をドメイン A のブラックリストに追加する
- ```
sc0:sms-user:> disablecomponent -dA SB0/P0/B0/L0
```
- 例 3 システムボード 3 上のプロセッサ 1 にあるバンク 0 のすべての DIMM をドメイン A のブラックリストに追加する
- ```
sc0:sms-user:> disablecomponent -dA SB3/P1/B0/D
```
- 例 4 システムボード 1 上のプロセッサ 0 のすべてのバンクをドメイン B のブ

ラックリストに追加する

```
sc0:sms-user:> disablecomponent -dB SB1/P0/B
```

例 5 システムボード 0 上のすべてのバンクをドメイン D のブラックリストに追加する

```
sc0:sms-user:> disablecomponent -dD SB0/B
```

例 6 プラットフォームブラックリストにシステムボード 3 のプロセッサペア 1 を追加する

```
sc0:sms-user:> disablecomponent SB3/PP1
```

例 7 IO ボード 6 の 5V スロット 0 内の hsPCI カセットをドメイン A ブラックリストに追加する

```
sc0:sms-user:> disablecomponent -dA IO6/C5V0
```

例 8 wPCI ボード 7 上の Paroli Link 0 をプラットフォームブラックリストに追加する

```
sc0:sms-user:> disablecomponent IO7/PAR0
```

例 9 EX9 のデータバス CS0 をドメイン A ブラックリストに追加する

```
sc0:sms-user:> disablecomponent -dA EX9/DBUS0
```

例 10 システムボード 1 の CSB 0 とプロセッサ 2 をドメイン A ブラックリストに追加する (アップグレードが予定されているため)

```
sc0:sms-user:> disablecomponent -dA -i upgrade CS0 SB1/P2
```

例 11 システムボード 3 のプロセッサペア 1 をプラットフォームブラックリストに追加する (サービスが必要なため)

```
sc0:sms-user:> disablecomponent -i "Needs service" SB3/PP1
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
 >0 エラーが発生しました。

ファイル | このコマンドでは次のファイルが使用されます。

/etc/opt/SUNWSMS/config/platform/blacklist | 除外されるプラットフォームコンポーネントの一覧。

/etc/opt/SUNWSMS/config/*domain_id*/blacklist | 除外されるドメインコンポーネントの一覧。

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | addboard (1M)、enablecomponent (1M)、esmd (1M)、showcomponent (1M)

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|----------|-------------------------------|---------|-----------------|-----|------------------|---------|--------------------|---------|-----------------------|----------|-------------|
| 名前 | dsmd - ドメインの状態監視デーモン | | | | | | | | | | | | |
| 形式 | dsmd | | | | | | | | | | | | |
| 機能説明 | <p>dsmd(1M) は、Sun Fire 15K/E25K システムでは最大 18 ドメインに対して、Sun Fire 12K/E20K システムでは最大 9 ドメインに対して、ドメイン状態およびオペレーティングシステム (OS) のハートビートを監視します。</p> <p>dsmd はドメインを自動的に回復し、ドメインに関するハードウェアエラーを処理します。ドメインが停止すると、dsmd はそのドメインをリセットし、CPU レジスタとハードウェア設定ダンプを収集し、2 つのファイルに保存します。このデーモンは、efhd(1M) にドメイン停止に関する自動診断 (AD) 情報も渡します。</p> <p>ドメインの状態変化はすべて監視されており、メッセージレベルが INFO のものはドメイン特有のログファイルに記録されています。その他のメッセージレベルのものは、状態変化について記録されません。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 拡張機能説明 | <p>dsmd は以下のイベントを記録し、そのイベントが発生した場所からの回復を試行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ドメインの起動に失敗 ■ エラーのリセット ■ Solaris OS のハング ■ ドメインパニック ■ ドメインのリセットまたは再起動 ■ DStop ■ 起動 / パニック / error_reset_sync タイムアウト <p>dsmd クライアントには、以下の内容が含まれています。</p> <table border="0"> <tr> <td>codd(1M)</td> <td>Capacity on Demand (COD) デーモン</td> </tr> <tr> <td>dxs(1M)</td> <td>ドメイン X サーバーデーモン</td> </tr> <tr> <td>efe</td> <td>イベント・フロントエンドデーモン</td> </tr> <tr> <td>osd(1M)</td> <td>OpenBoot PROM デーモン</td> </tr> <tr> <td>pcd(1M)</td> <td>プラットフォームの設定データベースデーモン</td> </tr> <tr> <td>esmd(1M)</td> <td>環境状態の監視デーモン</td> </tr> </table> | codd(1M) | Capacity on Demand (COD) デーモン | dxs(1M) | ドメイン X サーバーデーモン | efe | イベント・フロントエンドデーモン | osd(1M) | OpenBoot PROM デーモン | pcd(1M) | プラットフォームの設定データベースデーモン | esmd(1M) | 環境状態の監視デーモン |
| codd(1M) | Capacity on Demand (COD) デーモン | | | | | | | | | | | | |
| dxs(1M) | ドメイン X サーバーデーモン | | | | | | | | | | | | |
| efe | イベント・フロントエンドデーモン | | | | | | | | | | | | |
| osd(1M) | OpenBoot PROM デーモン | | | | | | | | | | | | |
| pcd(1M) | プラットフォームの設定データベースデーモン | | | | | | | | | | | | |
| esmd(1M) | 環境状態の監視デーモン | | | | | | | | | | | | |

dsmd は、以下のクライアントです。

hwad(1M) ハードウェアアクセスデーモン

setkeyswitch(1M) 仮想キースイッチ制御コマンド

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

ファイル 次のファイルがサポートされています。

/etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start ssd 用のデフォルトの起動ファイル。

/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/ メッセージファイルと hpost ダンプファイルを格納する。

/var/opt/SUNWSMS/SMS/adm/domain_id/post/ dstop およびハードウェア設定ダンプファイルを格納する

/export/home/sms-user/xir_dump/ すべてのドメインに関する xir ダンプファイルを格納する

属性 次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 codd(1M)、dxc(1M)、efhd(1M)、esmd(1M)、hwad(1M)、osd(1M)、pcd(1M)、reset(1M)、setkeyswitch(1M)、ssd(1M)

| | |
|---------|--|
| 名前 | <code>dxs</code> - ドメイン X サーバー |
| 形式 | <code>dxs [-S] -d domain_indicator</code> <code>dxs -h</code> |
| 機能説明 | <p><code>dxs</code> (1M) は、ドメインに対するソフトウェアサポートを提供します。具体的には、仮想コンソール機能、動的再構成メールボックスサポート、および PCI メールボックスサポートが含まれています。メールボックスサポートでは、ドメインドライバの要求とイベントを処理します。仮想コンソール機能によって、コンソールプログラムを実行している 1 人、または複数のユーザーが、ドメインの仮想コンソールにアクセスできるようになります。</p> <p>ドメインで Solaris ソフトウェアを実行しているとき、<code>dxs</code> は、ドメインのコンソールドライバ (<code>cvcd</code>) と、稼働中のコンソールウィンドウの中継として機能します。Solaris ソフトウェアを実行していないドメインでは、<code>dxs</code> は、OpenBoot PROM と、実行中のコンソールウィンドウの中継として機能します。</p> <p>ドメイン X サーバーは、<code>ssd</code> (1M) デーモンによって、それぞれのアクティブなドメインに対して自動的に開始されます。コマンド行から手動で開始しないでください。ドメインが停止すると、ドメインの <code>dxs</code> は終了します。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p><code>-d domain_indicator</code> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - <code>addtag(1M)</code> を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p><code>-h</code> ヘルプ。指定された <i>hostname</i> の使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。<code>-h</code> に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p><code>-S</code> コンソールの出力ログを使用不可にします。デフォルトでは、ログは使用可能で、<code>/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id /console</code> ファイルに書き込まれます。</p> |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> |

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | addtag (1M)、console (1M)、ssd (1M)

| | | | | | | | | | | |
|---|---|--|------------------------------------|-------------------|---|---------------|-------------------------------------|----------------|--|--------------------|
| 名前 | efhd - エラーおよび障害処理デーモン | | | | | | | | | |
| 形式 | efhd | | | | | | | | | |
| 機能説明 | <p>efhd(1M) は、dsmd(1M) によって渡されたエラー情報に基づいて自動的にエラー診断を実行します。efhd は、ハードウェア障害に関連するコンポーネントの健全性ステータスを、自動診断 (AD) エンジン、POST、または ドメインでの Solaris オペレーティングシステムによって実行される診断を取得するリストイベントに基づいて更新します。efhd は、このイベントを erd(1M) に報告のために渡します。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | | | | | | |
| 拡張機能説明 | <p>efhd(1M) は以下の処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ システム内のほかの診断エンジン、POST およびドメイン Solaris オペレーティングシステムによって実行された診断結果を受け取ります ■ dstop ファイルに記録されているエラーを解析します ■ データパス内のエラーを分析します ■ 致命的でない CPU エラーを分析します ■ ECC エラーを分析します ■ 発生したエラーに関連するコンポーネントを判別するために自動診断エンジンで使用されるエラー情報を生成します ■ 発生したエラーに関連するコンポーネントのコンポーネント健全性ステータスを更新します ■ 診断結果を、erd(1M) に報告のために渡します <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> | | | | | | | | | |
| ファイル | <p>次のファイルがサポートされています。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">/etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start</td> <td>ssd 用のデフォルト起動ファイル</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/efhd_rules.cf</td> <td>専門の診断ルールを含みます</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/efhd.cf</td> <td>調整可能な efhd を含む</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/SF12000.dict</td> <td>主要かつ既知の順列の障害クラスを含む</td> </tr> </table> | | /etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start | ssd 用のデフォルト起動ファイル | /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/efhd_rules.cf | 専門の診断ルールを含みます | /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/efhd.cf | 調整可能な efhd を含む | /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/SF12000.dict | 主要かつ既知の順列の障害クラスを含む |
| /etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start | ssd 用のデフォルト起動ファイル | | | | | | | | | |
| /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/efhd_rules.cf | 専門の診断ルールを含みます | | | | | | | | | |
| /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/efhd.cf | 調整可能な efhd を含む | | | | | | | | | |
| /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/SF12000.dict | 主要かつ既知の順列の障害クラスを含む | | | | | | | | | |

| | |
|---|--------------------|
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/SF15000.dict</code> | 主要かつ既知の順列の障害クラスを含む |
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/E20000.dict</code> | 主要かつ既知の順列の障害クラスを含む |
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/E25000.dict</code> | 主要かつ既知の順列の障害クラスを含む |

属性 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 dsmd(1M)、erd(1M)、ssd(1M)

| 名前 | elad - イベントログアクセスデーモン | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | elad | | | | |
| 機能説明 | <p>elad(1M) は、SMS イベントログ (eventlog) へのアクセスを制御します。SMS イベントログは、Sun Fire ハイエンドシステムの自動診断 (AD) エンジンによって識別される障害とエラーイベントを記録します。このデーモンは以下のアーカイブタスクも実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在のイベントログがサイズの上限に到達すると、必ず新しいイベントログファイルを開始します。 <p>現在のログファイルは、eventlog.0 としてアーカイブします。新しいイベントログが作成される場合は、既存のアーカイブログのファイル名は 1 ずつ増分されます。最大 10 個のアーカイブファイル (eventlog.0 から eventlog.9) が維持されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 新しいイベントログファイルが作成されると、もっとも古いアーカイブファイル、eventlog.9 を削除します。 ■ エラーおよびリストイベントを、elad(1M) に記録のために渡します。 <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | |
| ファイル | <p>次のファイルがサポートされています。</p> <p>/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/elad_tuning.txt 管理するアーカイブファイルのサイズおよび数、アーカイブファイルを保持する日数を設定する。</p> <p>/etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start ssd 用のデフォルトの起動ファイル。</p> <p>/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/ メッセージファイルと hpost ダンプファイルを格納する。</p> <p>/var/opt/SUNWSMS/SMS/adm/events/eventlog すべてのハードウェア関連エラーおよび障害イベントを格納</p> | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |
| 関連項目 | efhd(1M)、elad(1M)、erd(1M)、mld(1M)、ssd(1M) | | | | |

| | |
|-------|--|
| 名前 | enablecomponent - 指定したブラックリストから特定のコンポーネントを削除 |
| 形式 | enablecomponent [-a -d <i>domain_indicator</i>] <i>location</i> ... enablecomponent -h |
| 機能説明 | <p>enablecomponent (1M) は、プラットフォーム、ドメイン、または ASR のブラックリストからコンポーネントを削除し、起動できるようにします。</p> <p><i>blacklist</i> は、POST が起動時に使用できないコンポーネントを一覧した内部ファイルです。POST はシステムを起動用に準備する前にブラックリストファイルを読み取り、正常にテストが完了したコンポーネントだけを含むリストを OpenBoot PROM に渡します (ブラックリストに含まれるコンポーネントは除外されます)。SMS は、ドメインボード用、プラットフォームボード用、内部 ASR 用にそれぞれ 1 つずつ、合計 3 つのブラックリストをサポートしています。</p> <p>ASR <i>blacklist</i> は、環境の条件によって esmd がコンポーネントの電源を切断したときに、esmd で作成される内部ファイルです。電源ライブラリおよび SMS コマンドが不正なコンポーネントをオンに設定しないようにする場合にも、ASR ブラックリストを使用します。</p> <p>オプションを指定しないで enablecomponent を使用すると、プラットフォームブラックリストを編集することができます。</p> <p>特定のコンポーネントがブラックリストに定義されているかどうかを表示するには、showcomponent (1M) を使用します。</p> <p>使用方法と、プラットフォームおよびドメインのブラックリストの編集方法については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-a <i>location</i> に指定されるコンポーネントは、ASR ブラックリストから削除されます。</p> <p>-d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は A ~ R で、大文字と小文字は区別されません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> |

オペランド | 次のオペランドがサポートされています。

location

コンポーネントの場所。次のいずれかの形式で、スラッシュで区切って指定します。

board_loc/proc/bank/logical_bank

board_loc/proc/bank/all_dimms_on_that_bank

board_loc/proc/all_banks_on_that_proc

board_loc/all_banks_on_that_board

board_loc/proc

board_loc/procs

board_loc/cassette

board_loc/bus

board_loc/paroli_link

location 引数が複数の場合は、スペースで区切ります。

location 形式は、オプションであり、特定の位置にあるボード上の特定のコンポーネントを指定するために使用されます。

たとえば、*location* が SB5/P0/B1/L1 の場合、SB5 にあるプロセッサ 0 上のバンク 1 の論理バンク 1 を示します。

location が SB0/PP1 の場合、SB0 にあるプロセッサペア 1 を示します。

location が CS0/ABUS の場合、センタープレーンのアドレスバス 0 を示します。

location が EX11/DBUS1 の場合、拡張ボード 11 のデータバス 1 を示します。

次の *board_loc* 形式が使用できます。

Sun Fire 12K と E20K:

SB(0...8)

IO(0...8)

Sun Fire 15K と E25K:

SB(0...17)

IO(0...17)

プロセッサ位置は、単一のプロセッサまたはプロセッサペアを示します。

1枚のCPU/メモリーボードでは、4つのプロセッサが使用できます。ボード上のプロセッサペアは、procs 0と1、およびprocs 2と3です。

MaxCPUには、procs 0と1、および1つのみのprocペア (PP0)の2つのプロセッサがあります。このボードにPP1を使用すると、enablecomponentが終了し、エラーメッセージが表示されます。

次のproc形式が使用できます。

P(0...3) PP(0|1)

次のbank形式が使用できます。

B(0|1)

次のlogical_bank形式が使用できます。

L(0|1)

次のall_dimms_on_that_bank形式が使用できます。

D

次のall_banks_on_that_proc形式が使用できます。

B

次のall_banks_on_that_board形式が使用できます。

B

次のparoli_linkの形式が使用できます。

PAR(0|1)

拡張機能説明

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権、ドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権が必要です。プラットフォーム特権を持っている場合は、プラットフォームのコンポーネントに対してのみ、このコマンドを実行することができます。ドメイン特権を持っている場合は、特権を持っているドメインに対してのみ、このコマンドを実行することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 ASR ブラックリストから CSB0 を削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent -a CS0
```

例 2 システムボード 0 上のプロセッサ 0 にあるバンク 0 の論理バンク 0 をドメイン A のブラックリストから削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dA SB0/P0/B0/L0
```

例 3 システムボード 3 上のプロセッサ 1 にあるバンク 0 のすべての DIMM をドメイン A のブラックリストから削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dA SB3/P1/B0/D
```

例 4 システムボード 1 上のプロセッサ 0 のすべてのバンクをドメイン B のブラックリストから削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dB SB1/P0/B
```

hsPCI アセンブリには、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI* 形式が使用できます。

```
C(3|5)V(0|1)
```

hsPCI+ アセンブリには、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI+* 形式が使用できます。

```
C3V(0|1|2) および C5V0
```

バス位置には、アドレス、データおよび応答の 3 つがあります。

次の *bus* 形式が使用できます。

```
ABUS|DBUS|RBUS (0|1)
```

- 例 5 システムボード 0 上のすべてのバンクをドメイン D のブラックリストから削除する
- ```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dD SB0/B
```
- 例 6 プラットフォームブラックリストから I/O ボード 7 のプロセッサペア 0 を削除する
- ```
sc0:sms-user:> enablecomponent IO7/PP0
```
- 例 7 ドメイン A ブラックリストからシステムボード 3 のプロセッサ 1 を削除する
- ```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dA SB3/P1
```
- 例 8 ドメイン A ブラックリストから I/O ボード 6 の 3V スロット内の hsPCI カセットを削除する
- ```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dA IO6/C3V0
```
- 例 9 wPCI ボード 5 上の Paroli Link 0 をプラットフォームブラックリストから削除する
- ```
sc0:sms-user:> enablecomponent IO5/PAR0
```
- 例 10 ドメイン A ブラックリストから EX7 のアドレスバス CS0 を削除する
- ```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dA EX7/ABUS0
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- >0 エラーが発生しました。

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist

esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。

/etc/opt/SUNWSMS/config/platform/blacklist

除外されるプラットフォームコンポーネントの一覧。

/etc/opt/SUNWSMS/config/domain_id/blacklist

除外されるドメインコンポーネントのリスト

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | addboard(1M)、disablecomponent(1M)、esmd(1M)、showcomponent(1M)

| 名前 | erd - イベント報告デーモン | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|------------|--|---------------------------|---|-----------------------------|------------------------------------|-------------------|---|-----------------------------|
| 形式 | erd | | | | | | | | | | | |
| 機能説明 | <p>erd(1M) は、プラットフォームおよびドメインログに対する障害イベントテキストメッセージ、Sun Management Center および Sun Remote Services への情報、および障害イベントメッセージを含む電子メールを配布する報告サービスを提供します。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | | | | | | | | |
| ファイル | <p>次のファイルがサポートされています。</p> <table border="1"> <tr> <td>/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/event_email.cf</td> <td>電子メール通知の制御</td> </tr> <tr> <td>/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/templates/sample_email</td> <td>電子メール内のイベント内容のデフォルトフォーマット</td> </tr> <tr> <td>/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/templates/sendmail.sh</td> <td>電子メールを送信するためのデフォルトのシェルスクリプト</td> </tr> <tr> <td>/etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start</td> <td>ssd 用のデフォルト起動ファイル</td> </tr> <tr> <td>/var/opt/SUNWSMS/SMS/adm/platform/events/eventlog</td> <td>すべてのハードウェア関連エラーおよび障害イベントを格納</td> </tr> </table> | | /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/event_email.cf | 電子メール通知の制御 | /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/templates/sample_email | 電子メール内のイベント内容のデフォルトフォーマット | /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/templates/sendmail.sh | 電子メールを送信するためのデフォルトのシェルスクリプト | /etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start | ssd 用のデフォルト起動ファイル | /var/opt/SUNWSMS/SMS/adm/platform/events/eventlog | すべてのハードウェア関連エラーおよび障害イベントを格納 |
| /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/event_email.cf | 電子メール通知の制御 | | | | | | | | | | | |
| /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/templates/sample_email | 電子メール内のイベント内容のデフォルトフォーマット | | | | | | | | | | | |
| /etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/templates/sendmail.sh | 電子メールを送信するためのデフォルトのシェルスクリプト | | | | | | | | | | | |
| /etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start | ssd 用のデフォルト起動ファイル | | | | | | | | | | | |
| /var/opt/SUNWSMS/SMS/adm/platform/events/eventlog | すべてのハードウェア関連エラーおよび障害イベントを格納 | | | | | | | | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop | | | | | | |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | | | | | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | | | | | | | | |
| 関連項目 | mld(1M)、ssd(1M)、testemail(1M) | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|------------|---|------------|---|------------|--|-----------|---------------------------------|------------|----------------------------------|
| 名前 | esmd - 環境状態監視デーモン | | | | | | | | |
| 形式 | esmd | | | | | | | | |
| 機能説明 | <p>esmd(1M) は、システムキャビネットの環境条件 (電圧、温度、ファントレー、電源装置など) を監視します。esmd は異常な条件を記録し、必要に応じて処置を行い、ハードウェアを保護します。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | | | | | |
| 拡張機能説明 | <p>esmd は、次のボードが条件の範囲外かどうかを監視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ CPU ボード ■ MaxCPU ボード ■ HPCI ボード ■ HPCI+ ボード ■ 拡張ボード ■ センタープレーンサポートボード ■ SC 制御ボード ■ SC I/O ■ ファン制御ボード ■ 電源装置 (バルク) <p>esmd は次のイベントを認識し、適切なクライアントまたはデーモンを警告します。</p> <table border="0"> <tr> <td>コンポーネントの挿入</td> <td>あるポーリングサイクルから次のポーリングサイクルへ、コンポーネントの存在を通知します。クライアント (hwad(1M)、pcd(1M)、dsmd(1M) など) が特定のコンポーネントタイプに対する通知を要求すると、esmd は通知を送信します。</td> </tr> <tr> <td>コンポーネントの削除</td> <td>あるポーリングサイクルから次のポーリングサイクルへ、コンポーネントの欠如を通知します。クライアント (hwad、pcd など) が特定のコンポーネントタイプに対する通知を要求すると、esmd は通知を送信します。</td> </tr> <tr> <td>PCI カード挿入</td> <td>PCI カードが PCI ボードに挿入された場合に通知します。</td> </tr> <tr> <td>PCI カードの削除</td> <td>PCI ボードから PCI カードが削除された場合に通知します。</td> </tr> </table> | コンポーネントの挿入 | あるポーリングサイクルから次のポーリングサイクルへ、コンポーネントの存在を通知します。クライアント (hwad(1M)、pcd(1M)、dsmd(1M) など) が特定のコンポーネントタイプに対する通知を要求すると、esmd は通知を送信します。 | コンポーネントの削除 | あるポーリングサイクルから次のポーリングサイクルへ、コンポーネントの欠如を通知します。クライアント (hwad、pcd など) が特定のコンポーネントタイプに対する通知を要求すると、esmd は通知を送信します。 | PCI カード挿入 | PCI カードが PCI ボードに挿入された場合に通知します。 | PCI カードの削除 | PCI ボードから PCI カードが削除された場合に通知します。 |
| コンポーネントの挿入 | あるポーリングサイクルから次のポーリングサイクルへ、コンポーネントの存在を通知します。クライアント (hwad(1M)、pcd(1M)、dsmd(1M) など) が特定のコンポーネントタイプに対する通知を要求すると、esmd は通知を送信します。 | | | | | | | | |
| コンポーネントの削除 | あるポーリングサイクルから次のポーリングサイクルへ、コンポーネントの欠如を通知します。クライアント (hwad、pcd など) が特定のコンポーネントタイプに対する通知を要求すると、esmd は通知を送信します。 | | | | | | | | |
| PCI カード挿入 | PCI カードが PCI ボードに挿入された場合に通知します。 | | | | | | | | |
| PCI カードの削除 | PCI ボードから PCI カードが削除された場合に通知します。 | | | | | | | | |

| | |
|-------------|---|
| ボードの電源切断 | ボードの電源が切断された場合、または (以前はオンになっていた電源が) オフになった場合に通知します。 |
| ボードの電源投入 | ボードの電源が投入された、または (以前はオフになっていた電源が) オンになった場合に通知します。 |
| ボードの温度変化 | ボードの温度センサーが 2 度の差を記録した場合、または温度のしきい値に達した場合に通知します。 |
| ボードの電圧変化 | 電圧センサーの値が変化して、範囲外のしきい値に近づいた場合、または新しい値が範囲外の場合に通知します。この場合には、esmd は、ドメインからボードを削除し、電源を切ります。 |
| ボードの電流変化 | 監視されているボードの電流値が変化した場合に通知します。 |
| CSB の状態変化 | 監視されている CSB ボードのプロパティが変化した場合に通知します。 |
| EXB 状態変化 | 監視されている EXB ボードのプロパティが変化した場合に通知します。 |
| CPU 状態変化 | 監視されている CPU ボードのプロパティが変化した場合に通知します。 |
| 大量電源状態変化 | 大量電源装置のプロパティが変化した場合に通知します。 |
| ファントレー状態変化 | 監視されているファントレーのプロパティが変化した場合に通知します。 |
| PCI カード状態変化 | 監視されている PCI カードのプロパティが変化した場合に通知します。 |

esmd クライアントには以下のものが含まれています。

| | |
|------|-----------------------|
| hwad | ハードウェアアクセスデーモン |
| pcd | プラットフォームの設定データベースデーモン |
| dsmd | ドメイン状態監視デーモン |

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

終了ステータス 次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
 >0 エラーが発生しました。

ファイル 次のファイルがサポートされています。

/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages メッセージファイルを格納する。

属性 次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 dsmd(1M)、hwad(1M)、pcd(1M)、ssd(1M)

| | |
|------|--|
| 名前 | flashupdate - CPU ボード、MaxCPU ボード、およびシステムコントローラ (SC) 上のフラッシュ PROM を更新 |
| 形式 | <pre>flashupdate -d domain_indicator -f path [-q -v] [-y -n]</pre> <pre>flashupdate -f path [-q -v] [-y -n] location...</pre> <pre>flashupdate -h</pre> |
| 機能説明 | <p>flashupdate (1M) は、システムコントローラ (SC) 内のフラッシュ PROM (FPROM) と、ボード位置で指定されたドメインの CPU および MaxCPU ボード上の FPROM を更新します。</p> <p>システムコントローラ内の FPROM を更新するには、更新対象の SC にログインし、更新する FPROM を指定する必要があります。(SC から他の SC 内の FPROM を更新することはできません)。それぞれの FPROM には、関連付けられている固有のイメージファイルがあります。</p> <p>CP1500 ベース SC 内の FPROM は、nSSCPOST.di イメージファイルを使用します。</p> <p>CP2140 ベース SC 内の FPROM は、oSSCPOST.di イメージファイルを使用します。</p> <p>FPROM を更新した SC は、ただちにシャットダウンしてリセットする必要があります。後述する「使用例」の使用例 6 を参照してください。CPU の FPROM を更新した場合には、SC をリセットする必要はありません。</p> <p>CPU の FPROM を更新するには、SMS が動作しており、指定するボードの電源がオンになっていることが前提になります。SC の FPROM を更新する場合は、これらの条件を満たす必要はありません。ドメインのいずれかの CPU または MaxCPU ボードで、仮想キースイッチが <code>secure</code> の位置に設定されている場合は、FPROM は更新されません。</p> <p>flashupdate は、更新の前に、現在の FPROM およびフラッシュイメージファイルの情報を表示します。FPROM を更新するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。</p> <p>注 - flashupdate の実行中には、対象のシステムボードに対して、CLI コマンドはいっさい実行すべきではありません。対象のシステムボードに影響を与えるような SMS コマンドを実行する前に、flashupdate の実行が完了するまで待ってください。</p> <p>注 - 新しいファームウェアは hpost が実行されるまでシステムボード上でアクティブになりません。</p> |

| | |
|----------------------------|---|
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 |
| -d <i>domain_indicator</i> | 次のいずれかを使ってドメインを指定します。 <i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。 <i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。 |
| -f <i>path</i> | フラッシュイメージファイルの名前。 引数 <i>path</i> には、引数 <i>location</i> で指定した FEPROM の更新に使用するイメージファイルの名前を指定します。 |
| -h | ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 |
| -n | すべてのプロンプトに自動的に no と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。 |
| -q | 非出力。プロンプトを含むすべての <code>stdout</code> へのメッセージを抑制します。 単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。 -y オプションまたは -n オプションのどちらかとともに使用すると、-q ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。 |
| -v | 冗長。ファームウェアのバージョン情報を表示します。これは Sun のサービス担当者によって、内部用途に使用される情報です。表示形式は公開されておらず、変更される可能性もあります。 |
| -y | すべてのプロンプトに対して自動的に yes と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。 |

オペランド 次のオペランドがサポートされています。

location FEPROM の位置。

FEPROM の位置は、ボードの位置と FEPROM ID をスラッシュ (/) で区切って (*board_loc/FEPROM_id*) 指定します。

ただし、*FEPROM_id* を指定するのは、CPU ボードとシステムコントローラ (SC) 上のいずれか一方の FEPROM (FP0 または FP1) を更新する場合だけです。

たとえば、SB4/FP0 は 4 番スロット内の CPU ボード上の FEPROM 0 を示します。

Sun Fire 12K と E20K:

SB(0...8)

IO(0...8)

Sun Fire 15K と E25K:

SB(0...17)

IO(0...17)

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権またはドメイン管理者特権が必要です。プラットフォーム管理者特権を持っている場合は、すべてのボードを更新することができます。ドメイン管理者の特権を持っている場合は、管理者のドメインでアクティブまたは使用可能になっているボードのみ更新できます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 システムコントローラ 0 の FEPROM 0 を更新する

このコマンドの実行後、SC をリセットする必要があります。

```
sc0:sms-user:> flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/SCOBPing.di
SC0/FP0
```

例 2 システムコントローラ 0 の FEPROM 1 を更新する

nSSCPOST.di イメージを使用する 1 番めの例は、CP1500 ボードを搭載した SC に対応しています。oSSCPOST.di イメージを使用する 2 番めの例は、CP2140 ボードを

搭載した SC に対応しています。このコマンドの実行後、SC をリセットする必要があります。

```
sc0:sms-user:> flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/nSSCPOST.di
SC0/FP1
```

```
sc0:sms-user:> flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/oSSCPOST.di
SC0/FP1
```

例 3 システムコントローラ 1 の FEPROM 0 を更新する

このコマンドの実行後、SC をリセットする必要があります。

```
sc1:sms-user:> flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/SCOBPimg.di
SC1/FP0
```

例 4 CPU ボード 0 の両方の FEPROM を更新する

SMS が起動しており、かつ SB0 ボードの電源が投入されている必要があります。

```
sc0:sms-user:> flashupdate -f /opt/SUNWSMS/hostobjs/sgcpu.flash SB0
Do you wish to update the FEPROM (yes/no)? y
sc0:sms-user:>
```

例 5 ドメイン A の FEPROM を更新する

SMS が起動しており、かつドメイン A の CPU ボードの電源が投入されている必要があります。

```
sc0:sms-user:> flashupdate -d A -f /opt/SUNWSMS/hostobjs/sgcpu.flash
```

例 6 SC FEPROM 更新後に SC をリセットする

スーパーユーザーになり、SC をシャットダウンします。

```
sc0:sms-user:> su -
```

```
sc0:# shutdown -y -g0 -i0
...[system messages]
ok
```

新しいファームウェアを SC で有効にするには、ここで SC をリセットする必要があります。次のように入力します。

```
ok reset-all
```


このコマンドを実行しても SC がリセットされない場合、SC をハードリセットする必要があります。

Sun Fire ハイエンドシステムの筐体を開いてシステムコントローラを見つけ、SC ボード上にある **Abort** ボタンを押し、続いて **Reset** ボタンを押してください。SC をリセットすると、新しいバージョンのファームウェアがロードされたことを示す **OpenBoot PROM** メッセージが表示されます。システムが **ok** プロンプトを表示した状態に戻った後、次のコマンドを入力して **flashupdate** が実行されたかどうかを確認します。

```
ok show-dropins
```

```
Dropins for Flash device: /pci@1f,0/pci@1,1/ebus@1/flashprom@10,400000
-----
Dropin name      Size  Checksum  Date      Date      Version  Vendor
                created   flashed
-----
SSCOBP-dropins   90    c84e      11/13/2001 11/13/2001  1.2     SUNW,sscobp
....
....
```

ドロップインのバージョン番号 (1.2) を確認します。

新たにインストールした Solaris ソフトウェアを起動できる状態になりました。次のように入力します。

```
ok boot 新しいディスク
```

プラットフォーム管理者としてログインし、次のコマンドを入力します。

```
sc0:sms-user:> flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/SCOBPing.di
SC0/FP0

Current SC FPRM Information
=====
SC at SC0, FPRM 0:
Name: SSCOBP-dropins,
Version: 1.2
Size: 144,
Check Sum: 51278
Date Flashed: 11/13/01
Date Created: 11/13/01

Do you wish to update the SC User FPRM (yes/no)? n

sc0:sms-user:>
```

バージョン番号を比較します。バージョン番号が同じであれば、flashupdate は正常に実行されたことになります。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

| | |
|-----------------------------------|---|
| /opt/SUNWSMS/firmware/SCOBPing.di | SC 上のフラッシュ FPROM 0 を更新する場合に使用します。 |
| /opt/SUNWSMS/firmware/nSSCPOST.di | CP1500 SC 上の FPROM 1 を更新する場合に使用します。 |
| /opt/SUNWSMS/firmware/oSSCPOST.di | CP2140 SC 上の FPROM1 を更新する場合に使用します。 |
| /opt/SUNWSMS/hostobjs/sgcpu.flash | CPU および MaxCPU ボード上の FPROM を更新する場合に使用します。 |

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Interface stability | Evolving |
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

setkeyswitch (1M)

| 名前 | fomd - フェイルオーバー管理デーモン | | | | | |
|--------------|--|--|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | fomd | | | | | |
| 機能説明 | <p>fomd (1M) は、システムコントローラ (SC) のフェイルオーバーメカニズムの中核です。fomd デーモンはローカルと遠隔の SC 上の障害を検出し、(フェイルオーバーまたはテイクオーバーに対する) 適切な処置を行います。</p> <p>fomd デーモンは 2 台の SC 間で、必要な同期データを最新状態に維持します。fomd はメインとスペアの両方の SC で動作します。</p> <p>このデーモンは <code>ssd (1M)</code> によって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | | |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> | | | | | |
| ファイル | <p>以下の構成ファイルが必要です。</p> <p><code>/etc/opt/SUNWSMS/config/fomd.cf</code> フェイルオーバーデーモンの構成ファイル</p> | | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、<code>attributes (5)</code> を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | | |
| 関連項目 | <p><code>setfailover (1M)</code>、<code>showfailover (1M)</code></p> | | | | | |

| 名前 | frad - FRU アクセスデーモン | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | frad | | | | |
| 機能説明 | <p>frad (1M) はシステムコントローラ (SC) 上で稼働し、排他のメカニズムを提供します。デーモンなどの SMS プロセスは、このメカニズムによって、特定の Sun Fire ハイエンドシステムの FRU SEEPROM にアクセスします。また、frad は、FRU ID ソフトウェアツールに必要な、プラットフォーム固有のインタフェースを Sun Fire ハイエンドシステムの SEEPROM に提供します。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |
| 関連項目 | ssd (1M) | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 名前 | help - SMS コマンドのヘルプ情報を表示 |
| 形式 | help [<i>command_name</i>] help -h |
| 機能説明 | 引数を指定しないで help (1M) を使用すると、有効な SMS コマンドとその構文が表示されます。引数を指定すると、 <i>command_name</i> オペランドは、そのコマンドのマニュアルページを表示します。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 |
| オペランド | 次のオペランドがサポートされています。 <i>command_name</i> help でマニュアルページを表示する対象となるコマンド。 |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、ドメイン設定者、またはスーパーユーザーの特権が必要です。 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |
| 使用例 | 例 1 ヘルプを使用する すべてのコマンドを表示します。 <pre>sc0:sms-user:> help usage: addboard -d domain_indicator [-c function] [-r retry_count [-t timeout]] [-q] [-y -n] location... addboard -h smsversion -h</pre> 例 2 コマンドのヘルプを使用する |

man (1M) ページを表示します。

```
sc0:sms-user:> help addtag
```

Maintenance Commands

addtag(1M)

名前

addtag - assign a domain name (tag) to a domain

形式

```
addtag -d domain_indicator -a new_tag [-q ] [-y | -n]
.....
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

>0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

man(1M)

| 名前 | hpost - Sun Fire ハイエンドシステムの電源投入時自己診断 (POST) 制御系アプリケーション | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | hpost | | | | |
| 機能説明 | <p>hpost(1M) は、Sun Fire ハイエンドシステムドメインのハードウェアをプローブ、テスト、構成し、OpenBoot PROM および Solaris オペレーティングシステムで使用するための準備を行います。代替モードでは、動的再構成 (DR) を使用して、シングルボードを実行中のドメインに接続する準備を行います。また、システムコントローラ (SC) 上にハードウェアの状態ダンプファイルを作成し、重大度の低いエラー状態を消去して、関連する Sun Fire ハイエンドシステムハードウェアの操作を実行します。</p> <p>注 - このアプリケーションは、SMS の他のアプリケーションまたはデーモンでのみ実行することを前提としています。このアプリケーションをコマンド行から直接起動すると、実行中のドメインに障害が発生する可能性があります、このような障害はサポートの対象外となります。</p> <p>hpost のクライアントには、以下のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ dsmd(1M) ■ dxs(1M) ■ setkeyswitch(1M) <p>hpost は、以下のクライアントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ hwad(1M) ■ pcd(1M) <p>hpost では、SUNWSMSlp パッケージで提供されているフラッシュ PROM イメージ、およびダウンロード可能なローカル POST 実行可能ファイルが必要です。</p> | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="380 1150 1355 1260"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSpo</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSpo |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSpo | | | | |
| 関連項目 | dsmd(1m) 、 hwad(1m) 、 pcd(1m) 、 setkeyswitch(1m) 、 dxs(1m) | | | | |

| 名前 | hwad - ハードウェアアクセスデーモン | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | hwad | | | | |
| 機能説明 | <p>hwad (1M) は、排他のメカニズムを提供します。このメカニズムによって、デーモンなどの SMS のプロセスは、ハードウェアのアクセス、制御、監視、および設定を行います。</p> <p>hwad は、メインモードまたはスペアモードで稼働し、フェイルオーバーデーモン (fomd(1M)) に対して、デーモンが発生した際にシステムコントローラ (SC) が果たす役割を要求します。</p> <p>hwad は、起動時にすべてのドライバ (sbbsc、echip、gchip、console bus) をオープンし、ioctl1 呼び出しを使用して、これらのドライバとインタフェースをとります。hwad は、デバイスプレゼンスレジスタの内容を読み込んでシステム内にボードが存在することを確認し、クライアントがボードにアクセスできるようにします。</p> <p>hwad には IOSRAM と Mbox のインタフェースも用意されています。これらのインタフェースは、SC とドメイン間の通信をサポートします。動的再構成 (DR) では、hwad は、新しい IOSRAM (トンネルスイッチ) と通信するよう指示します。darb 割り込みでは、hwad は dsmd (1M) に、dstop または rstop があるかどうかを通知します。また、発生した Mbox 割り込みのタイプによって、関連する SMS デーモンを通知します。</p> <p>hwad は、console バスおよび JTAG エラーを検出し、回復します。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | |
| 属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。 | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |
| 関連項目 | dsmd (1M)、ssd (1M) | | | | |

| | |
|------|---|
| 名前 | <code>initcmdsyc</code> - コマンド同期コマンド |
| 形式 | <p><code>cancelcmdsyc</code> <i>cmdsyc_descriptor</i></p> <p><code>initcmdsyc</code> <i>script_name</i> [<i>parameters</i>]</p> <p><code>savecmdsyc</code> -M <i>identifier</i> <i>cmdsyc_descriptor</i></p> <p>[cancel init save]cmdsyc -h</p> |
| 機能説明 | <p>これらのコマンド同期コマンドはともに機能し、システムコントローラ (SC) のフェイルオーバーによって中断されたユーザー定義のスキプトの回復を制御します。コマンドを同期化するには、ユーザー定義のスキプトに次のコマンドを挿入します。</p> <p><code>initcmdsyc</code> 回復するスキプトを特定するための、コマンド同期記述子を作成します。</p> <p> この記述子は、コマンド同期リストの中に定義されます。このリストは、フェイルオーバーが発生した後で、新しいメインの SC で再起動するスキプトとコマンドを特定します。</p> <p><code>savecmdsyc</code> フェイルオーバーが発生した後で、スキプト内のどの場所から処理を再開するかを特定するためのマーカーを追加します。</p> <p><code>cancelcmdsyc</code> コマンド同期リストからコマンド同期記述子を削除します。これによって、スキプトは 1 度だけ実行され、それ以降のフェイルオーバーの後には実行されません。</p> <p> コマンド同期リストから記述子を削除するために、スキプトのすべての出力先には、必ず 1 つの <code>cancelcmdsyc</code> シーケンスを定義します。記述子が削除されていない場合にフェイルオーバーが発生すると、スキプトは、新しいメイン SC 上で実行されます。</p> <p>注 - <code>initcmdsyc</code> と <code>cancelcmdsyc</code> のシーケンスは、コマンドが同期化されるように必ず 1 つのスキプトに定義します。<code>savecmdsyc</code> はオプションのコマンドで、スキプト内の場所をマークして処理を再開する場所を特定する場合のみ使用します。特別な再開ポイントが必要ない場合は、代わりに <code>runcmdsync(1M)</code> を使用することもできます。</p> |

| | |
|---------------------------|--|
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 |
| <i>cmdsycn_descriptor</i> | コマンド同期記述子 (ユーザー定義スクリプトを指定する記述子) を表します。この記述子は、 <code>initcmdsycn</code> コマンドの標準の出力値として返されます。 |
| -h | ヘルプ。使用方法を表示します。 |
| -M <i>identifier</i> | 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 フェイルオーバーの後に、スクリプトを再開する場所を指定します。この記述子は、正の整数とします。 |
| <i>parameters</i> | ユーザー定義スクリプトに関連するオプションまたはパラメータを表します。これらのパラメータは、スペア SC に格納されており、フェイルオーバーの後で指定されたスクリプトを再起動する際に使用します。 |
| <i>script_name</i> | 同期的に処理されるユーザー定義スクリプトの名前を表します。 <i>script_name</i> には、実行可能ファイルの名前を絶対パスで指定します。このコマンドは、両方の SC で同じ場所に位置している必要があります。 |
| 拡張機能説明 | コマンド同期コマンドは、ユーザー定義スクリプト内の特定の論理ポイントに挿入します。 |

たとえば、**Korn** シェルスクリプトは、以下のようになります。

```
# MAIN CODE STARTS HERE
# Be sure to use a cleanup procedure to handle any
# interrupts.
# Use the cancelcmdsync to remove the script from the
# command synchronization list. Otherwise, the command
# will get restarted on the new main SC.
#
clean_up () {
    cancelcmdsync $desc
    exit
}

# Declare the clean_up function to capture system signals
# and cleanup.
trap "clean_up" INT HUP TERM QUIT PWR URG
goto_label=1
# Process the arguments, capturing the -M marker point
# if provided
#
for arg in $*; do
    case $arg in
        -M )
            goto_label=$arg;;
        .
        .
        .
    esac
done
# Place this script and all its parameters in the command
# synchronization list, which indicates the commands to
# be restarted after an SC failover.
#
# NOTE: The script must be executable by the user defined
# in fomd.cf and reside in the same directory on both the
# main and the spare SC.
```

```

# If the command is not part of the defined PATH for
# the user, the absolute filename must be passed with the
# initcmdsycn command
#
initcmdsycn script_name parameters
# The marker point is stored in the goto_label variable.
# Keep executing this script until all cases have been
# processed or an error is detected.
#
while (( $goto_label != 0 )) ; do
#
# Each case should represent a synchronization point
# in the script.
#
case $goto_label in
#
# Step 1: Do something
#
1 )          do_something
              .
              .
              .

# Execute the savecmdsycn command with the script's
# descriptor and a unique marker to save the position.
# If a failover occurs here, the commands represented in
# the next goto_label (2) will be resumed.
#
              savecmdsycn -M $(( $goto_label + 1 )) $desc
              goto_label=$(( $goto_label + 1 ))
              ;;

#
# Step 2: Do more things
#
2 )          do_more_things
              .
              .
              .
              savecmdsycn -M $(( $goto_label + 1 )) $desc
              goto_label=$(( $goto_label + 1 ))
              ;;

#
# Step 3: Finish the last step and set the goto_label to 0
# so that the script ends.
3 )
              finish_last_step
              .
              .
              .
              goto_label=0
              ;;

        esac
done
# END OF MAIN CODE
# Remember to execute cancelcmdsycn to remove the script from the
# command synchronization list. Otherwise, the command will be restarted
# after the failover.
#
cancelcmdsycn $desc

```

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

注 - `initcmdsyc` の標準出力には、コマンド同期記述子が含まれています。(フェイルオーバーが終了した場合や、単一の SC 環境などで) フェイルオーバーが使用できない場合は、同期コマンドが含まれているスクリプトでは、プラットフォームのログファイルに対してエラーメッセージを生成し、ゼロ以外の終了コードを返します。これらのメッセージは無視することもできます。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`runcmdsync(1M)`、`showcmdsyc(1M)`

| | |
|---------|---|
| 名前 | kmd - SMS キー管理デーモン |
| 形式 | kmd |
| 機能説明 | <p>kmd(1M) は、システムコントローラ (SC) とドメイン上で稼働しているサーバーとの通信を保証するために必要な IPSec セキュリティー関連付け (SA) を管理します。kmd は、SC 上のクライアントが開始したドメイン上のサーバーへの接続について、ソケットごとのポリシーを管理します。kmd ドメイン上のクライアントが開始した SC 上のサーバーへの接続について、共有ポリシーを管理します。</p> <p>現在のデフォルト設定には、ドメイン上の dcs (1M) および cvcd (1M) サーバーに接続する、SC 上の dca (1M) および dxs (1M) クライアントについての認証ポリシーが含まれています。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> <p>注 - kmd は必ず root プロセスとして実行し、IPSec に対する pf_key インタフェースを使用できるようにします。</p> |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> |
| ファイル | <p>kmd の設定では次のファイルを使用します。</p> <p>/etc/opt/SUNWSMS/config/kmd_policy.cf kmd_policy.cf は、kmd で管理される共有ポリシーとソケットごとのポリシーを設定します。</p> <p>ポリシーの変更は、SC の kmd_policy.cf ファイルを編集して行います。影響を受けるドメインで、対応する変更を反映させる必要があります。</p> <p>kmd_policy.cf の形式は、パイプ () 文字で区切られた 8 つのフィールドから構成されるテーブルです。</p> <p><i>dir d_port protocol sa_type auth_alg encr_alg domain login</i></p> |

フィールドの定義は以下のとおりです。

| | |
|-----------------|---|
| <i>dir</i> | 接続の方向。 有効値は <code>sctodom</code> と <code>domtosc</code> です。 |
| <i>d_port</i> | 宛先ポート。 |
| <i>protocol</i> | ソケットのプロトコル。 有効値は <code>tcp</code> 、 <code>udp</code> です。 |
| <i>sa_type</i> | セキュリティー関連付けのタイプ。 有効値は <code>ah</code> 、 <code>esp</code> です。 |
| <i>auth_alg</i> | 認証のアルゴリズム。 有効値は <code>none</code> 、 <code>md5</code> 、 <code>sha1</code> です。 |
| <i>encr_alg</i> | 暗号化のアルゴリズム。 有効値は <code>none</code> 、 <code>des</code> 、 <code>3des</code> です。 |
| <i>domain</i> | ドメイン ID。 有効値は、整数 0-17 と空白文字です。 ドメイン ID を空白にすると、すべてのドメインに適用されるポリシーを定義します。すべてのドメインに適用されるポリシーよりも、特定ドメインのポリシーが優先されます。 |
| <i>login</i> | ログイン名。 有効な任意のログイン名を使用できます。 |

`kmd_policy.cf` ファイルのデフォルトのポリシーは、以下のようになります。

```
sctodom|665|tcp|ah|md5|none| |sms-dca|
```

```
sctodom|442|tcp|ah|md5|none| |sms-dxs|
```

ドメインに関するポリシーの設定は、標準 IPsec の構成ファイル
(`/etc/inet/ipsecconf.init`) に保存されています。

デフォルトのポリシーは、以下のようになります。

```
{ dport sun-dr } permit { auth_alg md5 }
```

```
{ sport sun-dr } apply { auth_alg md5 sa unique }
```

```
{ dport cvc_hostd } permit { auth_alg md5 }
```

```
{ sport cvc_hostd } apply {auth_alg md5 sa unique }
```

属性 次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------------------|
| Availability | SUNWSMSr SUNWSMSop |

関連項目 `ssd(1M)`、`sckmd(1M)`、`ipseconf(1M)`、`pf_key(1M)`、`ipsec(1M)`、`dca(1M)`、`dxs(1M)`、`dcs(1M)`、`cvcd(1M)`

| | |
|---------|---|
| 名前 | mand - 管理ネットワークデーモン |
| 形式 | mand |
| 機能説明 | <p>mand (1M) は、必要なネットワーク構成を提供することによって、管理ネットワーク (MAN) ドライバおよびフェイルオーバー管理デーモン (fomd (1M)) をサポートします。この構成情報には、ホスト名、IP アドレス、およびネットマスクが含まれています。mand は、プラットフォーム構成データベース (pcd(1M)) デーモンの各フィールド、およびシステムコントローラ (SC) の MAN ドライバを初期化・更新することもできます。</p> <p>mand は、メイン SC とスペア SC の両方で実行される SMS デーモンです。mand の役割は fomd によって設定されます。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> |
| 拡張機能説明 | <p>SC-to-Domain および Domain-to-SC Internal Network (I1) データには、以下のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ネットワークマスク ■ SC ホスト名 ■ SC IP アドレス ■ ドメイン [A-R] ホスト名 ■ ドメイン [A-R] IP アドレス <p>SC-to-SC internal Network (I2) データには、以下のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ネットワークマスク ■ SC 0 ホスト名 ■ SC 0 IP アドレス ■ SC 1 ホスト名 ■ SC 1 IP アドレス <p>SC External Community (C) データには、以下のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティーフェイルオーバー IP アドレス ■ コミュニティー物理インタフェース名 |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> |

| ファイル | <p>以下の構成ファイルが必要です。</p> <p>/etc/opt/SUNWSMS/config/MAN.cf</p> <p>このファイルには、domain-to-SC、SC-to-domain、SC-to-SC の管理ネットワークデータ、および SC へ外部アクセスするためのコミュニティーデータが含まれています。</p> <p>MAN.cf ファイルは手動で変更しないでください。</p> | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 属性 | <p>次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="358 539 1332 647"> <thead> <tr> <th data-bbox="358 539 845 591">属性タイプ</th> <th data-bbox="845 539 1332 591">属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="358 591 845 647">Availability</td> <td data-bbox="845 591 1332 647">SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |
| 関連項目 | fomd(1M)、pcd(1M)、smsconfig(1M)、ssd(1M) | | | | |

| | |
|-------|--|
| 名前 | mld - メッセージロギングデーモン |
| 形式 | mld [-f <i>config_file</i>] [-t] |
| 機能説明 | <p>mld(1M) は、SMS のすべてのデーモンに対するロギングサービスを提供します。mld は、ssd(1M) によって開始される SMS の最初のデーモンで、SMS のほかのすべてのデーモンの出力を取得し、それらの起動フェーズで処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プラットフォームログメッセージは、以下の場所に格納されています。 /var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages 形式は以下のとおりです。 <i>time host program [pid]:[msg_id hrtime_t level file_line] message</i> <i>file_line</i> はオプションで、冗長モードの場合のみ示されます。 たとえば、次のメッセージが表示されます。 Feb 2 09:16:10 2002 sun15 mld[904]:[209 2345678901 INFO MLDLOGGER.cc 141] Platform messages file created. ■ ドメインログメッセージは、以下の場所に格納されています。 /var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/messages 形式は、プラットフォームメッセージと同様ですが、<i>pid</i> の後に <i>domain_id</i> <i>domain_tag</i> が付加されています。 <i>time host program [pid]domain_id domain_tag:[msg_id hrtime_t level file_line] message</i> たとえば、次のメッセージが表示されます。 Feb 2 09:18:55 2002 sun15 mld[904]-B (engB): [314 2345678902 ERR LogManager.cc 424] message queue limit exceeded, messages will be dropped. ■ ドメイン syslog メッセージは、以下の場所に格納されています。 /var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/syslog 形式は、受信した形式と同様です。 |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> -f <i>config_file</i> 代替の遠隔メッセージ受信構成ファイルに対する絶対パスを表します。 -t (ドメイン syslog メッセージなどの) 遠隔メッセージ受信を無効にします。 |

| | |
|------|--|
| 名前 | moveboard - ドメイン間でのボードの移動 |
| 形式 | <p>moveboard -d <i>domain_indicator</i> [-c <i>function</i>] [-r <i>retry_count</i> [-t <i>timeout</i>]] [-q] [-f] [-y -n] <i>location</i></p> <p>moveboard -h</p> |
| 機能説明 | <p>moveboard(1M) は、ドメインから、現在割り当てられてアクティブになっている <i>location</i> を最初に unconfigure、disconnect、unassign にします。次に、ドメイン <i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> に対して <i>location</i> を assign、connect、configure します。</p> <p>-c <i>function</i> コマンドは、現在の設定状態から新しい設定状態へ、ボードの切り替えを指定する場合に使用します。設定状態は、assign、connect、または configure のいずれかとなります。-c オプションが指定されない場合は、デフォルトの設定状態は configure になります。</p> <p>注 - moveboard は、タスクを同期的に実行し、コマンドが完了するまで制御をユーザーに返しません。ボードの電源が入っていないか、またはテストされていない状態で、-c connect configure オプションを指定すると、このコマンドによってボードの電源が投入され、テストされます。</p> <p>注 - 指定されたボードが自動システム回復 (ASR) ブラックリストファイルに定義されている場合は、moveboard は、ボードの割り当て時にエラーメッセージを表示して、処理を続行します。connect または configure 機能を使用している場合は、moveboard はエラーメッセージを表示して終了します。</p> <p>注 - moveboard コマンドの実行が失敗しても、対象のボードは実行前の状態には戻りません。dxs エラーメッセージ (または dca エラーメッセージ) がドメインのログに出力されます。発生したエラーが回復可能であれば、コマンドを再試行できます。回復不能な場合、対象のボードを使用するためには、当該ドメインを再起動する必要があります。</p> |

| | |
|-------|---------------------|
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 |
|-------|---------------------|

-c function

function の有効な値は、`assign`、`connect`、および `configure` です。これらの値のうち 1 つを、設定状態の切り替えを制御する場合に使用します。

有効な切り替え状態とその意味は以下のとおりです。

`assign` ドメイン上で稼働している Solaris オペレーティングシステムからボードの構成を解除します。Solaris ソフトウェアは、ボード上のすべてのハードウェア資源の使用を停止します。`deleteboard -c unconfigure` を参照してください。ボードを切り離します。ボードを `disconnected|unconfigured` 状態に切り替えます。`deleteboard -c disconnect` を参照してください。現在のドメインからボードの割り当てを解除します。`deleteboard -c unassign` を参照してください。ボードの状態を `available` (使用可能) に変更して、論理ドメインからボードを移動します。ボードを新しい論理ドメインに割り当てます。この状態のボードには当該ドメインが独占的にアクセスしますが、ボード自体はアクティブではありません。割り当てが完了すると、`setkeyswitch on` を使用するか、あるいは `connect` オプションまたは `configure` オプションを使用することによって、ボードをドメインに接続または設定できます。

connect

ドメイン上で稼働している Solaris オペレーティングシステムからボードの構成を解除します。Solaris ソフトウェアは、ボード上のすべてのハードウェア資源の使用を停止します。(deleteboard -c unconfigure を参照してください)。ボードを切り離します。ボードを disconnected|unconfigured 状態に切り替えます。deleteboard -c disconnect を参照してください。現在のドメインからボードの割り当てを解除します。deleteboard -c unassign を参照してください。ボードの状態を available (使用可能) に変更して、論理ドメインからボードを移動します。ボードを新しい論理ドメインに割り当てます。このセクションの前の方で説明した assign、および addboard(1M) -c assign を参照してください。ボードを connected|unconfigured 状態に切り替えます。これで、ボードは論理ドメインに割り当て (assigned) られており、接続 (connected) されている (アクティブになっている) 状態になります。この状態では、標準システムでボード上のハードウェア資源を使用することができます。ただし、ボードのハードウェア資源は標準の Solaris ソフトウェアのデータ構造では表現されないため、Solaris オペレーティングシステムでは使用できません。ボード上で使用できる操作は、設定管理に限定されます (addboard -c connect も参照してください)。これは一時的な状態であり、ソフトウェアによるこの状態の実装は、現時点では存在しません。

configure

ドメイン上で稼働している Solaris オペレーティングシステムからボードの構成を解除します。Solaris ソフトウェアは、ボード上のすべてのハードウェア資源の使用を停止します。deleteboard -c unconfigure を参照してください。ボードを切り離します。ボードを disconnected|unconfigured 状態に切り替えます。deleteboard -c disconnect を参照してください。現在のドメインからボードの割り当てを解除します。(deleteboard -c unassign を参照してください)。ボードの状態を available (使用可能) に変更して、論理ドメインからボードを移動します。ボードを新しい論理ドメインに割り当てます。(上記の assign、および addboard -c assign も参照してください)。ボードを connected|unconfigured 状態に切り替えます。これで、ボードは論理ドメインに割り当てられており、接続されている (アクティブになっている) 状態になります。この状態では、標準システムでボード上のハードウェア資源を使用することができます。ただし、ボードのハードウェア資源は標準の Solaris ソフトウェアのデータ構造では表現されないため、Solaris オペレーティングシステムでは使用できません。ボード上で使用できる操作は、設定管理に限定されます。このセクションの前の方で説明した connect、および addboard -c connect を参照してください。ボードを connected|configured 状態に切り替えます。この状態では、ボードはドメインに割り当ておよび接続されているだけでなく、Solaris オペレーティングシステム用に設定されています。ボード上のハードウェア資源は、Solaris ソフトウェアで使用することができます (addboard -c configure も参照してください)。

- `-d domain_indicator` 次のいずれかを使ってドメインを指定します。
- domain_id* - ドメインの ID。有効な *domain_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。
- domain_tag* - `addtag(1M)` を使用してドメインに割り当てた名前。
- これは、ボードの移動先となるドメインです。
- `-f` 指定された処理を強制的に実行します。通常、このオプションを指定すると、安全機能がハードウェア側で制御されます。状態の強制的な変更では、条件が `ok` や `unknown` でない占有装置のハードウェア資源を、ハードウェアに基づく安全チェック機能に従って使用することができます。
- `-h` ヘルプ。使用方法を表示します。
- 注** - 単一で使用します。`-h` に追加で指定されたオプションは無視されます。
- `-n` すべてのプロンプトに自動的に `no` と応答します。プロンプトは、`-q` オプションとともに使用しない限り表示されます。
- `-q` 非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。
- 単独で使用すると `-q` は、デフォルトですべてのプロンプトに対して `-n` オプションを指定します。
- `-y` オプションまたは `-n` オプションのどちらかとともに使用すると、`-q` ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。
- `-r retry_count` このコマンド引数を使用すれば、状態の切り替え中に障害が発生した場合の再試行を指定できます。`-r retry_count` オプションは単独で使用できます。この引数には、設定状態の変更が失敗したときにドメインが再試行する回数を指定します。
- `-t timeout` このコマンド引数を使用すれば、状態の切り替え中に障害が発生した場合の再試行を指定できます。`-t timeout` オプションは常に `-r retry_count` オプションとともに使用し、失敗した時点から次の再試行まで、ドメインが待機する時間の長さ (秒数) を指定します。`-t timeout` を省略すると、*timeout* のデフォルト値 (0) が使用され、ただちに再試行が実行されます。
- `-y` すべてのプロンプトに対して自動的に `yes` と応答します。プロンプトは、`-q` オプションとともに使用しない限り表示されます。

オペランド | 次のオペランドがサポートされています。

location ボード位置で、スペースで区切ります。複数の *location* 引数は、許可されません。

指定できる *location* の範囲は次のとおりです。

Sun Fire 12K と E20K:

SB(0...8)

IO(0...8)

Sun Fire 15K と E25K:

SB(0...17)

IO(0...17)

注 – ボードタイプを使用する場合は、`showboards(1M)` を使用します。

拡張機能説明

必要なグループ特権

ボードが `assigned` の状態 (つまり実行中のドメインで `active` になっていない) 場合は、プラットフォーム管理者特権を持っているユーザーのみ `-c assign` オプションを実行することができます。

ドメイン管理者または設定者特権を持っているユーザーは、自身のドメインについてのみ、このコマンドを実行することができます。ユーザーは、影響を受ける 2 つのドメイングループに属していることが必要です。また、ボードをこれらの 2 つのドメインの使用可能構成要素リストにボードを定義しておく必要があります。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

すべての例で、ボードが他のドメインでアクティブになっている場合は、そのドメインに対するドメイン管理者特権を持っていない限りなりません。また、現在のドメインからボードを割り当て解除するには、プラットフォーム管理者特権を持っているか、またはボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

システムボードを新しいドメインに割り当てるには、プラットフォーム特権を持っているか、またはそのボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。ドメイン内でボードを接続または設定するには、新しいドメインのドメイン特権を持っている必要があります。

例 1 SB4 の CPU ボードをドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:> moveboard -d A -c assign SB4
SB4 assigned to domain: A
```

例 2 SB4 のブラックリストに定義されている CPU ボードをドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:> moveboard -d A -c assign SB4
SB4 assigned to domain: A
Warning: SB4 is blacklisted.
You will not be able to connect or configure it.
sc0:sms-user:>
```

例 3 IO ボードをドメイン A に設定する

注: デフォルトの機能は configure です。

```
sc0:sms-user:> moveboard -d A IO2
IO2 unassigned from domain: B
IO2 assigned to domain: A
assign IO2
assign IO2 done
poweron IO2
poweron IO2 done
test IO2
test IO2 done
connect IO2
connect IO2 done
configure IO2
configure IO2 done
notify online /devices/pci@5d,700000
notify online /devices/pci@5d,600000
notify online /devices/pci@5c,700000
notify online /devices/pci@5c,600000
notify add capacity IO2 done
```

例 4 IO7 の IO ボードをドメイン R に接続する

プラットフォーム特権を持っているか、またはボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> moveboard -d R -c connect IO7
```

例 5 ブラックリストに定義されているボードをドメイン C に接続する

```
sc0:sms-user:> moveboard -d C -c connect SB0
SB0 is blacklisted.Exiting.
sc0:sms-user:>
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

| | |
|----|--------------------------|
| 0 | 正常に終了しました。 |
| 1 | 応答なし |
| 2 | サポートされていない |
| 3 | 操作がサポートされていない |
| 4 | 不正な特権 |
| 5 | ビジー |
| 6 | システムビジー |
| 7 | データエラー |
| 8 | ライブラリエラー |
| 9 | ライブラリが存在しない |
| 10 | 条件が不十分 |
| 11 | 不正 |
| 12 | エラー |
| 13 | APID が存在しない |
| 14 | 不正な属性 |
| 30 | 不正なボード ID タイプ |
| 31 | 不正な特権 |
| 32 | 他のドメインに割り当てられている |
| 33 | 特権を取得できない |
| 34 | ドメインボード情報を取得できない |
| 35 | アクティブなボード一覧を取得できない |
| 36 | 割り当てられているボード一覧を取得できない |
| 38 | Solaris が稼働していない |
| 39 | ドメイン状態を割り当て / 割り当て解除できない |
| 40 | ドメイン特権を取得できない |
| 41 | プラットフォーム特権を取得できない |
| 51 | 不正なドメイン |
| 52 | 不正な特権 |
| 55 | ライブラリエラー |

| | |
|----|-------------------------|
| 56 | DR のコマンド構文エラー |
| 58 | 内部エラー |
| 59 | ブラックリストに登録済みのコンポーネント |
| 60 | ASR ブラックリストを取得できない |
| 61 | ドメインのブラックリストを取得できない |
| 62 | プラットフォームのブラックリストを取得できない |
| 64 | アクティビティチェックエラー |
| 65 | 割り当て解除チェックエラー |
| 66 | 割り当て解除、無制限チェックエラー |
| 67 | ドメイン特権チェックエラー |
| 70 | DR 操作の失敗 |

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

| | |
|--|---------------------------|
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist</code> | esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。 |
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/platform/blacklist</code> | 除外されるプラットフォームコンポーネントの一覧。 |
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/domain_id/blacklist</code> | 除外されるドメインコンポーネントのリスト |

注 - このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。ASR ブラックリストファイルから特定のコンポーネントを削除するには、`enablecomponent(1M)` を使用します。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`addtag(1M)`、`addboard(1M)`、`deleteboard(1M)`、`enablecomponent(1M)`、`esmd(1M)`、`showcomponent(1M)`

| 名前 | osd - OpenBoot PROM サーバーデーモン | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | osd | | | | |
| 機能説明 | <p>osd (1M) は、OpenBoot PROM に対するソフトウェアサポートを提供します。osd は、setkeyswitch (1M) に SMS イベントベースのインタフェースを提供します。これは、ドメインが示される前に IDPROM および REBOOTARGS 情報を定義するためのものです。</p> <p>osd は、OpenBoot PROM からメールボックスコマンドも受け取ります。これらのメールボックスコマンドは処置され、結果は OpenBoot PROM に返されます。コマンドには、get-time-of-day、set-time-of-day、get-idprom、get-nvram-data、set-nvram-data、get-reboot-args、set-reboot-args、do-tunnel-switch があります。システムコントローラ (SC) 上にある osd の 1 つのインスタンスが、すべてのドメインで共有されます。</p> <p>このデーモンは ssd (1M) によって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | |
| 拡張機能説明 | | | | | |
| 必要なグループ特権 | osd は、sms-osd ユーザーとして実行されます。 | | | | |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |
| 関連項目 | setkeyswitch(1M) | | | | |

| | |
|--------|---|
| 名前 | pcd - プラットフォーム構成データベースデーモン |
| 形式 | pcd |
| 機能説明 | <p>pcd (1M) は、プラットフォーム、ドメイン、およびシステムボードの構成データを使用できるようにして、その仕組みを管理します。pcd は、システムコントローラ (SC) 上で実行される SMS デーモンで、SMS 構成の主要なコンポーネントです。システム管理アプリケーションは、すべて pcd デーモンを使用してデータベース情報を使用します。</p> <p>pcd はプラットフォーム構成データを管理するだけでなく、対象のデータベースで変更が発生したことを、登録されているシステム管理アプリケーションに通知します。これらの通知はイベントとして登録され、ユーザーに認識されます。</p> <p>このデーモンは、ssd (1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> |
| 拡張機能説明 | <p>SMS 1.6 のプラットフォームデータには、次に示す項目が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> Platform Type Platform Name Rack ID Coherent Memory Address Slice Map Clock Frequency Clock Device Type SC IP Address SC Logical IP Host Address SC Host Netmask SC0 to SC1 IP Address SC1 to SC0 IP Address SC to SC IP Netmask COD Head Room Chassis Serial Number |

SMS 1.6 のドメインデータには、次に示す項目が含まれています。

```

Domain Number
Domain Tag
OS Version
OS Type
Slot 0 Available Board List
Slot 1 Available Board List
Slot 0 Assigned Board List
Slot 1 Assigned Board List
Slot 0 Active Board List
Slot 1 Active Board List
Golden SRAM Expansion Slot
Keyswitch
Active Ethernet Expansion Slot
Creation Time
Domain State
Bringup Priority
IP Host Address
Hostname
Host Netmask
Broadcast Address
OBP Virtual Address
OBP Physical Address
Domain Reserved RTU

```

SMS 1.6 のシステムボードデータには、次に示す項目が含まれています。

```

Expansion Number
Slot Number
Board Type Number
Board State Number
Domain Assigned Number
ABL State; Domain(s) Board Is In
Test Status
Test Level
Memory Clear State
COD Enable

```

シグナル

SIGHUP データベースファイルを読み取り、情報を再キャッシュします。

ファイル

注 - これらのファイルは手動で変更しないでください。

次のファイルがサポートされています。

/var/opt/SUNWSMS/.pcd/platform_info

プラットフォームデータベース情報が含まれています。

/var/opt/SUNWSMS/.pcd/domain_info

ドメインデータベース情報が含まれています。

/var/opt/SUNWSMS/.pcd/sysboard_info

システムボードデータベース情報が含まれています。

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

ssd(1M)

| | |
|-------|--|
| 名前 | poweroff - 電源切断の制御 |
| 形式 | poweroff [-q] [-y -n] [<i>location</i>] poweroff -h |
| 機能説明 | <p>poweroff (1M) は、指定されたデュアル 48V 電源装置、ファントレイ、またはボードの電源を切断します。プラットフォーム管理者特権を持っている場合に、引数を指定しないでこのコマンドを使用すると、システム全体 (ただし大容量電源装置、ファントレイ、予備のシステムコントローラ (SC) は除く) の電源が切断されます。電源が切断されるコンポーネントが、動作中のドメインで使用されている場合、デフォルトでそれらのドメインが一覧表示され、「Are you sure?」というプロンプトが表示されます。</p> <p>注 - poweroff で大容量電源装置の電源を切断すると、回路ブレーカが遮断されます。その場合、poweron コマンドだけで電源供給を再開することはできません。poweron を実行する前に、ブレーカを手動でふたたび投入する必要があります。</p> <p>プラットフォーム管理者特権を持っていない場合は、[<i>location</i>] コマンドのオペランドを必ず指定し、自身がドメイン管理者または設定者の特権を持っているドメインに、ボードを割り当てておく必要があります。</p> <p>注 - このコマンドは、仮想キースイッチの位置には作用しません。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-n すべてのプロンプトに自動的に no と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。</p> <p>-q 非出力。プロンプトを含むすべての stdout へのメッセージを抑制します。</p> <p>単独で使用すると -q は、デフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。</p> <p>-q オプションを -y または -n オプションとともに使用すると、ユーザープロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づいて「y」または「n」のいずれかで自動的に応答します。</p> <p>-y すべてのプロンプトに対して自動的に yes と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。</p> |

| | |
|-----------|---|
| オペランド | <p>次のオペランドがサポートされています。</p> <p><i>location</i> コンポーネントの位置で、空白文字で区切ります。複数の <i>location</i> を指定することはできません。</p> <p>指定できる <i>location</i> の範囲は次のとおりです。</p> <p>Sun Fire 12K/E20K</p> <p>SB(0...8)</p> <p>IO(0...8)</p> <p>CS(0 1)</p> <p>FT(0...7)</p> <p>PS(0...5)</p> <p>EX(0...8)</p> <p>SC(0 1) [スペア SC のみ電源切断することができます。]</p> <p>Sun Fire 15K /E25K</p> <p>SB(0...17)</p> <p>IO(0...17)</p> <p>CS(0 1)</p> <p>FT(0...7)</p> <p>PS(0...5)</p> <p>EX(0...17)</p> <p>SC(0 1) [スペア SC のみ電源切断することができます。]</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、ドメイン管理者または設計者の特権が必要です。</p> <p>ドメイン特権を持っている場合は、[<i>location</i>] オペランドも指定する必要があります。また、[<i>location</i>] は、自分が特権を持っているドメインに割り当て (assigned) られているドメイン構成単位 (DCU) に定義しておく必要があります。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| 使用例 | <p>例 1 電源装置の電源を切断する</p> |

この例では、poweroff が問い合わせを表示しています。

```
sc0:sms-user:> poweroff ps5

!!!WARNING!!!WARNING!!!WARNING!!!WARNING!!!WARNING!!!
!!!WARNING!!!WARNING!!!WARNING!!!WARNING!!!WARNING!!!

This will trip the breakers on PS at PS5, which must be turned on manually!
Are you sure you want to continue to power off this component? (yes/no)? y
```

例 2 拡張ボードの位置 0 の CPU ボードの電源を切断する

この例では、poweroff コマンドによって、ボードの電源が強制的に切断されます。stdout にメッセージは表示されず、すべてのプロンプトに対して自動的に yes で応答します。

```
sc0:sms-user:> poweroff -qy SB0
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```
0           正常に終了しました。
>0         エラーが発生しました。
```

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

poweron(1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | poweron - 電源投入の制御 |
| 形式 | poweron [-q] [-y -n] [<i>location</i>] |
| 機能説明 | poweron -h |
| | <p>poweron (1M) は、指定されたデュアル 48V 電源装置、ファントレー、またはボードの電源を投入します。プラットフォーム管理者特権を持っている場合に、引数を指定しないでこのコマンドを使用すると、(新しい電源装置をサポートするために追加の 48V 電源装置モジュールの電源を投入する必要がある)、システム全体の電源が投入されます。</p> <p>注 - poweroff で大容量電源装置の電源を切断すると、回路ブレーカが遮断されます。その場合、poweron コマンドだけで電源供給を復元することはできません。poweron を実行する前に、ブレーカを手動でふたたび投入する必要があります。</p> <p>プラットフォーム管理者特権を持っていない場合は、[<i>location</i>] コマンドのオペランドを必ず指定し、自身がドメイン管理者または設定者の特権を持っているドメインに、ボードを割り当てておく必要があります。対象のボードについて必要な電源および冷却機能が利用できない場合は、電源投入試行を継続するか中止するかを確認するプロンプトが表示されます。完全に設定されているシステムの電源を投入するには、48V の電源装置モジュール (4 KW モジュール) が 5 つ以上必要です。従って、N+1 の冗長性を考慮すると、6 つの電源装置モジュールが使用されます。あるコンポーネントの電源を投入する際に、他のコンポーネントの電源投入が必要な場合 (ボードで 48V の電源装置モジュールが必要な場合など) は、poweron は失敗します。</p> <p>SMS 1.5 以降のリリースについては、デフォルトの動作が変更されました。poweron コマンドが失敗する場合、自動的に終了せず、システムの電源投入試行を継続するかどうかを確認するメッセージが表示されます。</p> <pre>sc0:sms-user:> poweron SB0 EXB at EX0 is off.Attempt to poweron CPU at SB0 is discouraged. Are you sure you want to continue the power ON (yes/no)?</pre> <p>「Y」と入力すると、システムは電源投入試行を継続し、結果を表示します。「N」と入力すると、システムは電源投入試行を中止します。</p> <p>-y オプションと -q オプションを両方指定した場合、この質問に対して自動的に「No」という応答が選択され、前述のデフォルトの動作が繰り返されます。このプロンプトに -y オプションは適用されません。</p> <p>指定されたコンポーネントが自動システム回復 (ASR) ブラックリストファイルに定義されている場合は、エラーメッセージが表示されます。プラットフォーム管理者特権を持っている場合は、処理を続行するメッセージが表示されます。この特権を持っていない場合は、処理は終了し、エラーメッセージが表示されます。</p> |

オプション

次のオプションがサポートされています。

- h ヘルプ。使用方法を表示します。
- 注** – 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。
- n すべてのプロンプトに自動的に **no** と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。
- q 非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。
- 単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。
- q オプションを -y または -n オプションとともに使用すると、ユーザープロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づいて「y」または「n」のいずれかで自動的に応答します。
- Y poweron コマンドが失敗する場合に表示されるプロンプトを除き、すべてのプロンプトに対して自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。

オペランド 次のオペランドがサポートされています。

location コンポーネントの位置で、空白文字で区切ります。複数の *location* を指定することはできません。

指定できる *location* の範囲は次のとおりです。

Sun Fire 12K/E20K

SB(0...8)

IO(0...8)

CS(0|1)

FT(0...7)

PS(0...5)

EX (0...8)

Sun Fire 15K /E25K

SB(0...17)

IO(0...17)

CS(0|1)

FT(0...7)

PS(0...5)

EX (0...17)

SC(0|1) [スペア SC のみ電源投入できます。]

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、ドメイン管理者または設計者の特権が必要です。

ドメイン特権を持っている場合は、[*location*] オペランドも指定する必要があります。また、[*location*] は、自身が特権を持っているドメインに割り当てられているドメイン構成単位 (DCU) に定義しておく必要があります。

ASR ブラックリストファイルに定義されているボードの電源を投入するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 デュアル 48V 電源装置の電源を投入する

電源装置は、バンク位置 0 の正面にあります。

```
sc0:sms-user:> poweron PS0
```

例 2 48V デュアル電源装置の電源を投入する (AC 入力不正な場合)

AC 入力不正な場合、警告が表示されます。

```
sc0:sms-user:> poweron PS0
Both AC inputs to PS0 are bad, did you remember to turn on the breakers?
```

例 3 ASR ブラックリストファイル内の CPU の電源を投入する

プラットフォーム管理者特権を持っている必要があります。正しい特権がないと poweron は正しく実行されず、エラーメッセージが表示されます。

```
sc0:sms-user:> poweron SB0
Component SB0 is in the ASR blacklist.
Are you sure you want to continue the power ON (yes/no)?Y
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```
0          正常に終了しました。
>0        エラーが発生しました。
```

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist          esmd によって除外されるコンポーネントの一覧
```

注 - このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

esmd(1M)、poweroff(1M)

| | |
|------|--|
| 名前 | rcfgadm - 遠隔構成管理 |
| 形式 | <pre> rcfgadm -d <i>domain_indicator</i> [-f] [-y -n] [-v] [-o <i>hardware_options</i>] -c <i>function</i> [-r <i>retry_count</i> [-T <i>timeout</i>]] <i>ap_id</i>... rcfgadm -d <i>domain_indicator</i> [-f] [-y -n] [-v] [-o <i>hardware_options</i>] -x <i>hardware_function</i> <i>ap_id</i>... rcfgadm -d <i>domain_indicator</i> [-v] [-a] [-s <i>listing_options</i>] [-o <i>hardware_options</i>] [-l [<i>ap_id</i> <i>ap_type</i>]...] rcfgadm -d <i>domain_indicator</i> [-v] [-o <i>hardware_options</i>] -t <i>ap_id</i>... rcfgadm -d <i>domain_indicator</i> [-v] [-o <i>hardware_options</i>] -h [<i>ap_id</i> <i>ap_type</i>] </pre> |
| 機能説明 | <p>rcfgadm (1M) は、動的に再構成可能なハードウェア資源に関する遠隔構成管理を操作します。rcfgadm コマンドを使用して、指定したドメインの構成管理をシステムコントローラから操作することができます。これらの操作には、状態の表示 (-l)、テストの開始 (-t)、設定状態の変更の呼び出し (-c)、ハードウェア特有の機能の呼び出し (-x)、および構成管理のヘルプメッセージの取得 (-h) が含まれています。</p> <p>rcfgadm は、接続点の構成を管理します。この接続点は、Solaris を継続して使用する際に、システムのソフトウェアがハードウェア資源の動的再構成をサポートする場所です。</p> <p>構成管理によって、システムの物理的ハードウェア資源と Solaris 環境で構成された表示可能なハードウェア資源を区別します。構成管理の機能はハードウェア特有のもので、rcfgadm はハードウェア固有のライブラリを呼び出すことによって構成を実行します。</p> <p>構成管理は、接続点で行います。接続点にあるハードウェア資源は、システムを使用する際に物理的に交換できる場合も、できない場合もありますが、構成管理インタフェースによって、動的に再構成することができます。</p> <p>接続点では、2 つの固有の要素を定義しますが、これらの要素は、接続点の範囲外にあるハードウェア資源と区別されます。接続点の 2 つの要素は、受容体と占有装置です。ハードウェア資源の物理的な挿入と取り外しは接続点で行われ、具体的には受容体と占有装置を接続したり、切り離したりします。構成管理では、物理的な挿入と取り外しの操作、および接続点におけるその他の構成管理機能をサポートします。</p> <p>接続点には、関連する状態および条件の情報が定義されています。構成管理インタフェースには、接続点状態の切り替えに対する制御が用意されています。受容体の状態は、empty、disconnected、または connected の 3 つのいずれかであることが可能です。占有装置の状態は、configured または unconfigured の 2 つのいずれかであることが可能です。</p> <p>接続点に占有装置がない場合は、受容体の通常の状態は empty になります。通常のシステムの使用で、占有装置から受容体を切り離すことができる disconnected 状態になります。通常は、占有装置の資源がシステムで完全に利用</p> |

できるようになる前に、ハードウェア特有のさまざまなテストを行う場合、または占有装置の物理的な切り離したり、再構成の準備ステップとして、この状態が使用されます。disconnected 状態の受容体では、(ハードウェアで可能な場合に)システムから占有装置が切り離されていますが、テストと設定のために使用することは可能です。受容体は、connected 状態を提供する必要があります。この状態では、占有装置が含まれているハードウェア資源に対して、通常に使用することができます。受容体に占有装置が含まれており、構成管理の操作が行われている場合には、その受容体の通常の状態は connected になります。

unconfigured の状態の占有装置に含まれているハードウェア資源は、標準の Solaris ソフトウェアのデータ構造では表現されないため、Solaris オペレーティングシステムでは使用できません。unconfigured の状態の占有装置では、構成管理の操作のみ行うことができます。configured 状態の占有装置のハードウェア資源は、標準の Solaris ソフトウェアデータ構造で表現されるため、これらのハードウェア資源の任意のまたはすべての部分を、Solaris オペレーティングシステムで使用できます。すべての占有装置には、configured および unconfigured の状態があります。

接続点の条件は、unknown、ok、failing、failed、または unusable の 5 つのいずれかであることが可能です。接続点は、(揮発性レコードが存在しない場合に)電源投入テストの結果に従って、システムをいずれかの条件に設定します。

configured 状態の占有装置を持つ接続点の条件は、unknown、ok、failing、または failed の 4 つのいずれかになります。failing または failed 以外の条件の場合には、接続点は、ハードウェア特有の回復可能なエラーしきい値を超えたときに、操作の途中で failing に変更することができます。failed 以外の条件の場合には、接続点は、回復不可能なエラーの結果として、操作中に failed に変更することができます。

unconfigured 状態の占有装置を持つ接続点は、定義されているいずれの条件に設定することもできます。unconfigured されている占有装置を持つ接続点の条件は、システム特有の時間のしきい値を超えると、OK から unknown に変わります。テスト機能を開始すると、接続点の条件は、テストの結果に従って、OK、failing、または failed のいずれかに変わります。テスト機能が用意されていない接続点は、unknown の条件のままにしておくことが可能です。テストで割り込みが発生すると、接続点の条件は、前の条件(unknown または failed)に設定することができます。unknown、OK、failing、または failed の条件の接続点は、再テストすることができます。

接続点の条件が unusable になる場合には、受容体の電源・冷却が十分でない、占有装置が使用できないかサポートができない、または完全に設定されていない、などの理由があります。unusable の条件の接続点は、システムで使用できません。この条件は、物理的な原因が解消されるまで、そのままになります。

接続点では、(条件が変化している、または再評価中であることを表す)busy 情報も管理します。

接続点は、システムデバイス階層における接続点のタイプおよび位置に関連する、ハードウェア特有の識別子 (*ap_id*) を使用して指定します。*ap_id* は、必ず 1 つの接

接続点を特定できるようにします。*ap_id* の仕様では、物理および論理の 2 つのタイプがサポートされています。

物理的な *ap_id* には、完全指定されたパス名が含まれ、論理的な *ap_id* には、接続点をわかりやすく表すための簡単な説明が含まれています。

たとえば、システムボード 6 を表す接続点の物理的な *ap_id* は `/devices/pseudo/dr@0:SB6` となり、論理的な *ap_id* は `SB6` となります。

接続点は、動的に作成することもできます。動的な接続点は、システム内のベースの接続点に対して相対的に名前が定義されます。動的な接続点の *ap_ids* は、ベースのコンポーネントのあとに 2 つのコロン (::) を記述し、そのあとに動的なコンポーネントを記述する、という形式で構成されます。ベースコンポーネントは、ベースの接続点 *ap_id* です。動的なコンポーネントはハードウェア特有のもので、対応するハードウェア固有のライブラリから生成されます。

たとえば、システムボードを表すベースの接続点の物理的な *ap_id* が `/devices/pseudo/dr@0:SB16` で、論理的な *ap_id* が `SB16` であるとしてします。

このシステムボードに割り当てられている CPU は、論理的な *ap_id* が `SB16::cpu2` の動的な接続点として表すことができます。`SB16` はベースのコンポーネントで、`cpu2` はハードウェア特有の動的コンポーネントです。同様に、この動的な接続点の物理的な *ap_id* は、以下のようになります。

```
/devices/pseudo/dr@0:SB16::cpu2.
```

ap_type は論理的な *ap_id* の一部であり、特定の接続点を表すことはできません。*ap_type* は論理的な *ap_id* の部分文字列で、*ap_id* と同じになる場合もありますが、コロン (;) の区切り文字は含まれません。たとえば、`pci` の *ap_type* は、論理的な *ap_ids* で先頭文字が `pci` の接続点をすべて表します。

ap_type の使用は、推奨しません。`-s` オプションの新しい選択サブオプションを使用すると、より汎用的で柔軟性のある方法で接続点を選択することができます。「オプション」を参照してください。

`rcfgadm` は、ハードウェア固有のライブラリに含まれているハードウェア特有の機能と、最初に対話します。このため、`rcfgadm` の動作はハードウェアによって異なります。

それぞれの構成管理の操作では、サービスの割り込みが必要になる場合もあります。操作で、ユーザーと対話するための明確なサービスの割り込みが必要な場合は、操作が開始される前に確認が行われます。

標準入力の確認のために、標準エラー出力にプロンプトが表示されます。常に `yes` と応答する場合は `-y` オプションを、`no` と応答する場合は `-n` オプションをそれぞれ使用して、確認プロンプトが表示されないようにすることも可能です。`-o` オプションを使用すると、`test level` などのハードウェア特有のオプションがサブオプションとして提供されます。

システム設定の状態を変更する操作は、システムログデーモン `syslogd` (1M) で検査されます。

このコマンドの引数は、`getopt` (3C) と `getsubopt` (3C) の構文規則に準拠しています。

詳細については、『Sun Fire ハイエンド / ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

オプション

次のオプションがサポートされています。

注 - `rcfgadm` コマンドの実行が失敗しても、対象のボードは実行前の状態には戻りません。 `dxs` エラーメッセージ (または `dca` エラーメッセージ) がドメインのログに出力されます。発生したエラーが回復可能であれば、コマンドを再試行できます。

- ドメイン上で Solaris 8 または Solaris 9 OS が動作している場合は、次の事項を確認します。

- a. コマンドを再実行する前に、ドメイン上の `/etc/inetd.conf` に次に示す `dcs` エントリが存在することと、それらのエントリが無効になっていないことを確認してください。

```
sun-dr stream tcp wait root /usr/lib/dcs dcs
sun-dr stream tcp6 wait root /usr/lib/dcs dcs
```

- b. エラーが回復不可能なものである場合、そのボードを使用するにはドメインを再起動してください。

- ドメイン上で Solaris 10 OS が動作している場合は、`dcs` が SMF (サービス管理機能) の一部となっています。次の手順を実行します。

- a. 必ずスーパーユーザーとしてログインします。
- b. ドメインのシステムプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
% inetadm | grep dcs
disabled disabled svc: /platform/sun4u/dcs: default
```

- c. 前述した例のように `dcs` が使用不可になっている場合は、次のコマンドを入力して使用可能にします。

```
% svcadm enable svc:/platform/sun4u/dcs:tcp
```

- `-a` `-l` オプションも動的接続点を一覧表示することを指定します。
- `-c function` `ap_id` で指定された接続点で、状態の変更関数を実行します。
- `function` には、`disconnect`、`connect`、`configure`、または `unconfigure` のいずれかを指定します。これらの関数によってハードウェア固有のライブラリルーチンが呼び出され、接続点の状態が変更されます。

有効な切り替え状態とその意味は以下のとおりです。

■ **disconnect**

受容体が **disconnected** 状態に変わります。

占有装置が **configured** 状態の場合は、**disconnect** の機能は、最初に占有装置を **unconfigure** しようとします。デフォルトでは、**disconnect** 機能はボードの電源を切断します。このようにすると、スロットの対象ポイントでボードを取り外せるようになります。-o **nopoweroff** オプションは、電源切断のステップを行わずに、ボードの電源をそのままの状態にしておくよう指定します。デフォルトでは、ボードはドメインに割り当てられたままになります。-o **unassign** オプションは、ボードがいったん **disconnected** になると、ドメインからボードの所有権を削除するように指示します。ボードが **unassigned** になると、他のドメインが自身に **assigned** になっているボードを持っている可能性があるため、**cfgadm** はボードにアクセスできなくなります。

■ **connect**

ハードウェア特有の操作を実行して、受容体を **connected** 状態にします。これで、受容体を介して占有装置を通常に操作することができます。

■ **configure**

ハードウェア特有の操作を実行して、占有装置のハードウェア資源を **Solaris** ソフトウェアで使用できるようにします。設定済の占有装置はシステム構成の一部となり、**Solaris** ソフトウェアデバイスの操作保守コマンド (**psradm** (1M)、**mount** (1M)、および **ifconfig** (1M) など) で操作できるようになります。

■ **unconfigure**

ハードウェア特有の操作 (占有装置のハードウェア資源をシステムから削除する操作) を実行します。占有装置は **configured** 状態である必要があり、占有装置のハードウェア資源は、**Solaris** オペレーティングシステムで使用されてはいけません。

状態の切り替え機能は、接続点の条件、またはその他のハードウェアに依存した事項によって、失敗する場合があります。資源を追加する指示 (`connect` および `configure`) において状態を切り替える機能はすべて、接続点が `OK` または `unknown` の条件の場合に、ハードウェア特有のライブラリへ渡されます。その他の条件の場合は、すべて強制 (`-f`) オプションを使用して、これらの機能をハードウェア固有のライブラリに渡す必要があります。どのような接続点の条件であっても、システムからハードウェア資源を削除 (`disconnect` および `unconfigure`) する際に、ハードウェア固有のライブラリが呼び出されます。接続点の条件が `unknown` の場合は、ハードウェア固有のライブラリで状態の変更機能を拒否する場合があります。

接続点の条件は、状態の変更機能によって変更される場合だけでなく、状態の変更操作で発生したエラーによって、変更される場合もあります。強制オプション (`-f`) を指定すれば、通常なら条件を満たさずに失敗する状態変更も、条件を無視して実行できます。ハードウェア特有の安全性および完全性のチェックを行うと、強制オプションを実行しても何も処理されません。

`-d domain_indicator`

次のいずれかを使ってドメインを指定します。

domain_id - ドメインの ID。有効な *domain_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。

domain_tag - `addtag(1M)` を使用してドメインに割り当てた名前。

`-f`

指定された処理を強制的に実行します。通常、このオプションを指定すると、安全機能がハードウェア側で制御されます。強制的に状態を変更すると、条件が `OK` または `unknown` 以外の占有装置のハードウェア資源を、ハードウェア固有の安全性チェックに基づいて使用できるようになります。

`-h [ap_id | ap_type]`

ヘルプメッセージテキストを出力します。*ap_id* または *ap_type* が指定された場合は、引数によって示された接続点に対するハードウェア固有ライブラリのヘルプルーチンが呼び出されます。

| | |
|--------------------------------------|--|
| -l [<i>ap_id</i> <i>ap_type</i>] | 指定された接続点の状態および条件を表示します。 <i>-s</i> オプションとサブオプションを選択してフィルタを設定し、接続点を絞り込みます。処理オプションを指定しないで <i>rcfgadm</i> を呼び出すと、引数を指定しないで <i>-l</i> を呼び出した場合と同じになります。一覧表示の形式は、 <i>-v</i> および <i>-s</i> オプションによって制御されます。 <i>-a</i> オプションを指定すると、接続点が動的に拡張されます。 |
| -n | すべてのプロンプトに自動的に no と応答します。 |
| -o <i>hardware_options</i> | メインのコマンドオプションに対してハードウェア特有のオプションを提供します。 <i>hardware_options</i> の有効値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ parsable <i>-s</i> オプションが使用される場合のみ適用されます。<i>parsable</i> サブオプションを指定すると、システムボードと I/O アセンブリに関する情報だけが戻されます。 ■ unassign <i>-c</i> 切断オプションが使用される場合のみ適用されません。<i>unassign</i> サブオプションは、ボードの所有権を削除するよう指定します。 ■ nopoweroff <i>-c</i> 切断オプションが使用される場合のみ適用されません。<i>nopoweroff</i> サブオプションは、ボードが切り離された後に電源切断されないように指定します。 |
| -r <i>retry_count</i> | ドメインで、動的再構成 (DR) 要求が再試行される回数を指定します。デフォルトはゼロです。 |
| -s <i>listing_options</i> | 一覧 (<i>-l</i>) コマンドに対する一覧表示オプションを提供します。 <i>listing_options</i> は、 <i>getsubopt(3C)</i> の構文規則に準拠しています。サブオプションを使用して、接続点の選択基準 (<i>select=select_string</i>)、対象の照合タイプ (<i>match=match_type</i>)、一覧表示の順序 (<i>sort=field_spec</i>)、表示対象のデータ (<i>cols=field_spec</i> および <i>cols2=field_spec</i>)、列の区切り文字 (<i>delim=string</i>)、および列見出しの非表示 (<i>noheadings</i>) を指定します。 |

選択サブオプションを指定すると、指定された基準と一致する接続点のみが表示されます。選択サブオプションの構文は以下のとおりです。

```
rcfgadm -s
select=attr1(value1):attr2(value2)...
```

attr は、*ap_id*、*class*、または *type* のいずれかとなります。*ap_id* は論理的な *ap_id* フィールドを表します。*class* は接続点のクラスを、*type* はタイプフィールドを表します。*value1*、*value2* などは照合する値に対応します。照合のタイプは、以下の照合サブオプションで指定することができます。

```
rcfgadm -s
match=match_type,select=attr1(value1)...
```

match_type は *exact* または *partial* のいずれかとなります。デフォルトの値は *exact* です。

サブオプションには特殊文字を指定することもできますが、これは、*rcfgadm* サブオプションの一部としては解釈されません。たとえばコマンドには、サブオプションとして使用できる丸括弧を指定することができますが、これは、コマンド行に入力する際には特殊文字として解釈されます。選択サブオプションに対する引数は、UNIX C シェルで解釈されないように、引用符で囲むことができます。

field_spec は、*data-field:data-field:data-field* のようにコロン(:)を使用して連結され1つ、または複数のデータフィールドです。*data-field* は *ap_id*、*physid*、*r_state*、*o_state*、*condition*、*type*、*busy*、*status_time*、*status_time_p*、および *info* から構成されます。*ap_id* フィールドの出力には接続点の論理名で、*physid* フィールドには物理名が含まれます。*r_state* フィールドは、*empty*、*disconnected*、*connected* のいずれかとなります。*o_state* フィールドは *configured* または *unconfigured* となります。*busy* フィールドは、接続点がビジーの場合は *y*、それ以外の場合は *n* となります。*type* および *info* フィールドはハードウェアによって異なります。*status_time_p* フィールドは、*status_time* フィールドの解析可能なバージョンです。接続点がクラスに関連付けられている場合は、*class* フィールドにクラス名が表示されます。

field_spec のフィールドの順序は重要です。ソートサブオプションでは、最初のフィールドが第一ソートキーとなります。cols および cols2 サブオプションでは、要求された順序でフィールドが出力されます。ソートサブオプションでは、*field_spec* でデータフィールド名の前にマイナス (-) を指定すると、データフィールドのソート順が逆になります。ソートのデフォルト値は *ap_id* です。cols および cols2 のデフォルト値は、-v オプションが指定されたかどうかによって異なります。このオプションが指定されない場合は、cols は *ap_id:r_state:o_state:condition* で、cols2 は設定されません。-v を指定すると、cols は *ap_id:r_state:o_state:condition:info* となり、cols2 は *status_time:type:busy:physid* となります。

delim のデフォルト値は単一の空白文字です。*delim* の値には、任意の長さの文字列を使用することができます。区切り文字には、コンマ (,) は使用できません (*getsubopt* (3C) を参照してください)。これらの一覧表示オプションは、解析可能な出力を作成する際に使用します。

-T *timeout*

再試行を行う際の時間間隔 (秒) を指定します。このオプションは単独では使用できず、必ず -r *retry_count* オプションとともに使用します。デフォルト値は 0 で、これは DR 要求がすぐに再試行されることを意味します。

-t

1 つまたは複数の接続点のテストを実行します。このテスト機能は、接続点の条件を再評価する際に使用します。

テストの結果を使用して、障害が検出されない場合は特定の占有装置の条件を OK に変更し、回復可能な障害が検出された場合は *failing* に変更し、回復不可能な障害が検出された場合は *failed* に変更します。

テストが割り込みされた場合は、接続点の条件を以前の値に戻すことができます。エラーが検出されなかった場合は *unknown* に設定され、回復可能なエラーのみが検出された場合は *failing* に設定され、回復不可能なエラーが検出された場合は *failed* に設定されます。エラーなしでテストが正常終了した場合は、接続点の条件は必ず OK に設定されます。

- v 冗長モードで実行します。`-c`、`-t`、および `-x` オプションでは、実行したそれぞれの操作の結果を表すメッセージが出力されます。`-h` オプションの場合は、詳細なヘルプ情報が表示されます。`-l` オプションの場合は、それぞれの接続点について詳細な情報が表示されます。
- x *hardware_function* ハードウェア特有の機能を実行します。
- `rcfgadm -h ap_id` を使用し、ハードウェア固有のプライベート機能を表示します。
- hardware_function* の有効値は以下のとおりです。
- `assign ap_id`
ドメインにボードを割り当てます。
 - `unassign ap_id`
ドメインに対するボードの割り当てを解除します。
 - `poweron ap_id`
ボードの電源を投入します。
 - `poweroff ap_id`
ボードの電源を切断します。
- y すべてのプロンプトに対して自動的に `yes` と応答します。プロンプトは表示されません。

オペランド | 次のオペランドがサポートされています。

ap_id

接続点は、システムデバイス階層における接続点のタイプおよび位置に関連する、ハードウェア特有の識別子 (*ap_id*) によって参照します。*ap_id* は、必ず 1 つの接続点を特定できるようにします。*ap_id* の仕様では、物理および論理の 2 つのタイプがサポートされています。物理的な *ap_id* には、完全指定されたパス名が含まれ、論理的な *ap_id* には、接続点をわかりやすく表すための簡単な説明が含まれています。

物理的 *ap_ids*

```
/devices/pseudo/dr@0:IO4  
  
/devices/pseudo/dr@0:IO6  
  
/devices/pseudo/dr@0:IO14  
  
/devices/pseudo/dr@0:SB4  
  
/devices/pseudo/dr@0:SB6
```

論理的 *ap_ids*

```
IO4  
  
IO6  
  
IO14  
  
SB4  
  
SB6
```

ap_type は論理的な *ap_id* の一部であり、特定の接続点を表すことはできません。*ap_type* は論理的 *ap_id* の部分文字列で、*ap_id* と同じになる場合もありますが、コロン (:) の区切り文字は含まれません。たとえば、*pci* の *ap_type* は、論理的 *ap_id* で先頭文字が *pci* の接続点をすべて表します。2 種類の *ap_type*、すなわち静的 *ap_type* と動的 *ap_type* を次に示します。

静的 *ap_types*:

HPCI

CPU

MCPU

pci-pci/hp

動的 *ap_types*:

cpu

mem

io

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを使用するために必要な特権は、実行する操作によって異なります。`rcfgadm` は、ドメインに `connected` になっていないボードを `assign` または `unassign` にすることができます。ボードの `assign` または `unassign` を実行するには、指定したドメインのプラットフォーム管理者特権、またはドメイン管理者・設定者の特権を持っており、ボードがドメインの使用可能構成要素リストに定義されていることが条件になります。詳細は、`setupplatform (1M)` および `showplatform (1M)` を参照してください。

`assign` および `unassign` の操作は、専用ハードウェア特有の操作です。`rcfgadm -x assign ap_id` を使用して、ボードを `assign` します。`rcfgadm -x unassign ap_id` を使用して、ボードを `unassign` にします。`assign` および `unassign` で使用する *ap_id* は、SB0 や IO2 のように論理的 *ap_id* として指定する必要があります。

テスト、状態変更、リスト表示、またはハードウェア特有の操作を行うには、ドメイン管理者またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 ドメイン A のデバイスツリー内の接続点を一覧表示する

以下の例では、(動的接続点を除く)すべての接続点が一覧表示されています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a
Ap_Id      Type      Receptacle  Occupant    Condition
IO4        PCI       connected   configured  ok
IO6        MCPU     disconnected unconfigured unknown
IO14       PCI       connected   configured  ok
SB4        CPU      disconnected unconfigured unknown
SB6        CPU      connected   configured  ok
SB16       CPU      connected   configured  ok
```

例 2 ドメイン A の構成可能なハードウェア情報をすべて一覧表示する

以下の例では、構成可能なハードウェア情報がすべて(動的接続点の情報も含めて)一覧表示されています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -al
Ap_Id      Type      Receptacle  Occupant    Condition
IO4        PCI       connected   configured  ok
IO4::pci0  io        connected   configured  ok
IO4::pci1  io        connected   configured  ok
IO4::pci2  io        connected   configured  ok
IO4::pci3  io        connected   configured  ok
IO6        MCPU     disconnected unconfigured unknown
IO14       PCI       connected   configured  ok
IO14::pci0 io        connected   configured  ok
IO14::pci1 io        connected   configured  ok
IO14::pci2 io        connected   configured  ok
IO14::pci3 io        connected   configured  ok
SB4        CPU      disconnected unconfigured unknown
SB6        CPU      connected   configured  ok
SB6::cpu0  cpu      connected   configured  ok
SB6::cpu1  cpu      connected   configured  ok
SB6::cpu2  cpu      connected   configured  ok
SB6::cpu3  cpu      connected   configured  ok
SB6::memory memory    connected   configured  ok
SB16       CPU      connected   configured  ok
SB16::cpu0 cpu      connected   configured  ok
SB16::cpu1 cpu      connected   configured  ok
SB16::cpu2 cpu      connected   configured  ok
SB16::cpu3 cpu      connected   configured  ok
SB16::memory memory    connected   configured  ok
```


例 3 ドメイン A の接続点属性に基づいて選択したリストを作成する

以下の例では、*location* が SB6 で、*type* が cpu の接続点がすべて一覧表示されています。*-s* オプションの引数は引用符で囲み、シェルで解釈されないようにします。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -s match=partial,select="type(cpu)" -
la SB6
```

| Ap_Id | Type | Receptacle | Occupant | Condition |
|-----------|------|------------|------------|-----------|
| SB6::cpu0 | cpu | connected | configured | ok |
| SB6::cpu1 | cpu | connected | configured | ok |
| SB6::cpu2 | cpu | connected | configured | ok |
| SB6::cpu3 | cpu | connected | configured | ok |

例 4 ドメイン A に対する現行の構成可能なハードウェア情報を冗長モードで一覧表示する

以下の例では、現行の構成可能なハードウェア情報が冗長モードで一覧表示されています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -v -l SB16
```

| Ap_Id | Receptacle | Occupant | Condition | Information |
|-------------|------------|------------|--------------------------|----------------------|
| SB16 | connected | configured | ok | powered-on, assigned |
| When | Type | Busy | Phys_Id | |
| Mar 6 13:30 | CPU | n | /devices/pseudo/dr0:SB16 | |

例 5 ドメイン A で強制オプションを使用する

以下の例では、強制オプションを使用して、失敗状態の占有装置をシステムに設定します。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -f -c configure SB6
```

例 6 ドメイン A でシステムから占有装置を構成解除する

以下の例では、システムから占有装置が構成解除されています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -c unconfigure IO14
```

例 7 接続点で占有装置を構成する

以下に、占有装置を構成する例を示します。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -c configure SB6
```

例 8 *-o parsable* オプションを使用する

次の例は、システムボードと IO アセンブリの情報を、「名前 = 値」の形式で組み合わせ表示しています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d G -s cols=ap_id:type -o parsable
Ap_Id                               Type
IO0                                  unknown
IO5                                  HPCI
IO11                                 HPCI
SB0                                  CPU
SB11                                 CPU
```

例 9 SB0 を接続解除する (電源は切断しない)

次の例は、ドメイン G にボードの所有権を放棄させています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d G -c disconnect -o unassign,nopoweroff
SB0
```

環境変数

command_name の実行に影響を与える環境変数 LC_TIME、LC_MESSAGES、および TZ の説明については、**environ (5)** を参照してください。

LC_MESSAGES rcfgadm で列見出しとエラーメッセージをどのように表示するかを定義します。この変数を設定しても、出力データの表示は影響を受けません。

LC_TIME rcfgadm で、人間が読み取れる形式の「状態が変更された時刻」(*status_time*) をどのように表示するかを定義します。

TZ 状態が変化した時刻を変換する際のタイムゾーンを指定します。このタイムゾーンは、人間が読み取れる形式 (*status_time*) および解析可能な形式 (*status_time_p*) の両方に適用されます。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

| | |
|---|---------------|
| 0 | 正常に終了しました。 |
| 1 | 応答なし |
| 2 | サポートされていない |
| 3 | 操作がサポートされていない |
| 4 | 不正な特権 |
| 5 | ビジー |
| 6 | システムビジー |
| 7 | データエラー |
| 8 | ライブラリエラー |

| | |
|----|-------------------------|
| 9 | ライブラリが存在しない |
| 10 | 条件が不十分 |
| 11 | 不正 |
| 12 | エラー |
| 13 | APID が存在しない |
| 14 | 不正な属性 |
| 30 | 不正なボード ID タイプ |
| 31 | 不正な特権 |
| 32 | 他のドメインに割り当てられている |
| 33 | 特権を取得できない |
| 34 | ドメインボード情報を取得できない |
| 35 | アクティブなボード一覧を取得できない |
| 36 | 割り当てられているボード一覧を取得できない |
| 37 | ブラックリストの取得に失敗 |
| 38 | Solaris が稼働していない |
| 39 | 不正な特権 |
| 40 | ドメイン特権を取得できない |
| 41 | プラットフォーム特権を取得できない |
| 42 | ドメインのブラックリストを取得できない |
| 43 | プラットフォームのブラックリストを取得できない |
| 56 | DR のコマンド構文エラー |
| 70 | DR 操作の失敗 |

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag(1M)、cfgadm_sbd(1M)、setupplatform(1M)、showplatform(1M)

診断

標準のエラー出力では、診断メッセージが表示されます。このユーティリティでは、オプションおよび使用エラー以外に、以下の診断メッセージが作成されます。

rcfgadm: Configuration administration not supported on *ap_id*
rcfgadm: No library found for *ap_id*
rcfgadm: *ap_id* is ambiguous
rcfgadm: Operation: Insufficient privileges
rcfgadm: Attachment point is *busy*, try again
rcfgadm: No attachment points with specified attributes found
rcfgadm: System is *busy*, try again
rcfgadm: Operation: Operation requires a service interruption
rcfgadm: Operation: Data error: *error_text*
rcfgadm: Operation: Hardware specific failure: *error_text*
rcfgadm: Attachment point not found
rcfgadm: Configuration operation succeeded
rcfgadm: Configuration operation canceled
rcfgadm: Configuration operation invalid
rcfgadm: Configuration operation not supported
rcfgadm: Library error
rcfgadm: Insufficient condition
rcfgadm: SCDR/DCA door failure
rcfgadm: DCA/DCS communication error
rcfgadm: DCA internal failure
rcfgadm: PCD event failure
rcfgadm: Callback function failure
rcfgadm: SCDR library internal error
rcfgadm: Board is already assigned to another domain
rcfgadm: Unable to get active or assigned domain info
rcfgadm: Unable to get privileges
rcfgadm: DRCMD library invalid parameter

エラーメッセージに関する詳細は、`config_admin (3CFGADM)` を参照してください。

| | |
|-------|--|
| 名前 | reset - 指定されたドメインのすべての CPU ポートにリセットを送信 |
| 形式 | reset -d <i>domain_indicator</i> [, <i>domain_indicator</i>]... [-d <i>domain_indicator</i> [, <i>domain_indicator</i>]...]... [-q] [-y -n] [-x] reset -h |
| 機能説明 | reset(1M) は、1 つまたは複数のドメインをリセットします。具体的には、ハードウェアをリセットしてクリーンな状態にする方法と、外部で開始されたリセット (XIR) シグナルを送信する方法があります。デフォルトでは、ハードウェアをクリーンな状態にする方法が使用されます。仮想キースイッチが 安全 な位置にある場合は、エラーが示されます。デフォルトでは、reset は、確認プロンプトを表示します。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。 <i>domain_id</i> - ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。 <i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。 注 - <i>domain_indicator</i> を複数指定する場合には、それぞれをコンマ (,) で区切ります。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -n すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。 |

- q** 非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。
- 単独で使用されると、`-q` はデフォルトですべてのプロンプトに対して `-n` オプションを指定します。
- `-y` オプションまたは `-n` オプションのどちらかとともに使用すると、`-q` ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。
- x** 指定されたドメインのプロセッサに、`XIR` シグナルを送信します。
- y** すべてのプロンプトに対して自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、`-q` オプションとともに使用しない限り表示されます。

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、ドメイン管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 ドメイン C をリセットする

```
sc0:sms-user:> reset -d C
Do you want to send RESET to domain C? [y|n]: y

RESET initiated for domain: C

Powering on: CSB at CS0
Already powered on: CSB at CS0

Powering on: CSB at CS1
Already powered on: CSB at CS1

Powering on: EXB at EX0
Already powered on: EXB at EX0

Powering on: HPCI at IO0
...
...
...
```

例 2 ドメイン C を XIR リセットする

```
sc0:sms-user:> reset -d C -x
Do you want to send XIR to domain C? [y|n]:y
XIR to processor SB3/P0 initiated
XIR to processor SB3/P1 initiated
XIR to processor SB3/P2 initiated
XIR to processor SB3/P3 initiated
XIR initiated to all processors for domain: C
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```
0                    正常に終了しました。
>0                   エラーが発生しました。
```

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag (1M)

| | |
|-----------|--|
| 名前 | resetsc - ほかのシステムコントローラ (SC) のリセット |
| 形式 | resetsc [-q] [-y -n] resetsc -h |
| 機能説明 | resetsc (1M) は、他の SC をリセットします。この操作は通常、フェイルオーバーの後で行われます。このコマンドは、メイン SC から実行してスベア SC をリセットするか、またはスベア SC から実行してメイン SC をリセットします。SC は自身をリセットすることはできません。選択した SC の電源が投入されていない場合は、 resetsc は、電源を投入するようユーザーにメッセージを表示します。選択した SC の電源が投入されていない場合は、 resetsc はそのまま終了し、エラーが返されます。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -n すべてのプロンプトに自動的に no と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。 -q 非出力。プロンプトを含むすべての <code>stdout</code> へのメッセージを抑制します。 単独で使用すると -q は、デフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。 -y オプションまたは -n オプションのどちらかとともに使用すると、-q ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。 -Y すべてのプロンプトに対して自動的に yes と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。 |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |
| 使用例 | 例 1 プロンプトを使用して他の SC をリセットする sc0:sms-user:> resetsc About to reset other SC. Are you sure you want to continue?(y or [n]) |

例 2 他の SC が電源切断されている場合に、他の SC をリセットする

```
sc0:sms-user:> resetsc
The other SC is not powered on.
Do you want to try to power it on? (y or [n])
```

例 3 すべてのプロンプトに「yes」と応答して他の SC をリセットする

```
sc0:sms-user:> resetsc -y
About to reset other SC.
Are you sure you want to continue? [y]
```

例 4 すべてのプロンプトを非表示にして他の SC をリセットする

```
sc0:sms-user:> resetsc -q
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 ユーザーが有効なアクセス権を持っていません。
- 2 記憶域の割り当てに失敗
- 3 他の SC の存在を特定できない
- 4 他の SC が存在しない
- 5 他の SC の電源状態を特定できない
- 6 他の SC の電源を投入できない
- 7 他の SC をリセットできない
- 8 フラグの登録に失敗
- 9 不正なコマンド行引数

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

| | |
|-----------|---|
| 名前 | runcmdsync - フェイルオーバー後の回復のために、指定されたスクリプトを準備 |
| 形式 | runcmdsync <i>script_name</i> [<i>parameters</i>] runcmdsync -h |
| 機能説明 | <p>runcmdsync(1M) コマンドは、フェイルオーバー後に自動的に同期をとる (回復を行う) ために、指定されたスクリプトを準備します。runcmdsync は、回復するスクリプトを特定するコマンド同期記述子を作成します。この記述子は、コマンド同期リストに追加されます。このリストは、フェイルオーバーの後で回復するスクリプトを特定するリストです。また、runcmdsync コマンドは、スクリプトが終了すると、コマンド同期リストからこの記述子を削除します。</p> <p>スクリプト内で再起動ポイントを指定するには、initcmdsync(1M)、および同期コマンド群を参照してください。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p><i>script_name</i> コマンドを同期化するために準備するスクリプトを表します。 <i>script_name</i> には、実行可能ファイルの名前を絶対パスで指定します。このコマンドは、両方の SC で同じ場所に位置している必要があります。</p> <p><i>parameters</i> 指定されたスクリプトに関するオプションまたはパラメータを指定します。これらのパラメータはスペアシステムコントローラ (SC) に格納されており、自動フェイルオーバーの後で指定されたコマンドまたはスクリプトを再起動する際に使用します。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> |

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | cancelcmdsync (1M)、initcmdsync (1M)、savecmdsync (1M)、
showcmdsync (1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | savecmdsnc - コマンド同期コマンド |
| 形式 | <pre>cancelcmdsnc cmdsync_descriptor initcmdsnc script_name [parameters] savecmdsnc -M identifier cmdsync_descriptor</pre> <p>[cancel init save]cmdsnc -h</p> |
| 機能説明 | <p>これらのコマンド同期コマンドはともに機能し、システムコントローラ (SC) のフェイルオーバーによって中断されたユーザー定義のスクリプトの回復を制御します。コマンドを同期化するには、ユーザー定義のスクリプトに次のコマンドを挿入します。</p> <p>initcmdsnc 回復するスクリプトを特定するための、コマンド同期記述子を作成します。</p> <p> この記述子は、コマンド同期リストの中に定義されます。このリストは、フェイルオーバーが発生した後で、新しいメインの SC で再起動するスクリプトとコマンドを特定します。</p> <p>savecmdsnc フェイルオーバーが発生した後で、スクリプト内のどの場所から処理を再開するかを特定するためのマーカーを追加します。</p> <p>cancelcmdsnc コマンド同期リストからコマンド同期記述子を削除します。これによって、スクリプトは 1 度だけ実行され、それ以降のフェイルオーバーの後には実行されません。</p> <p> コマンド同期リストから記述子を削除するために、スクリプトのすべての出力先には、必ず 1 つの cancelcmdsnc シーケンスを定義します。記述子が削除されていない場合にフェイルオーバーが発生すると、スクリプトは、新しいメイン SC 上で実行されます。</p> <p>注 - initcmdsnc と cancelcmdsnc のシーケンスは、コマンドが同期化されるように必ず 1 つのスクリプトに定義します。savecmdsnc はオプションのコマンドで、スクリプト内の場所をマークして処理を再開する場所を特定する場合のみ使用します。特別な再開ポイントが必要ない場合は、代わりに runcmdsync(1M) を使用することもできます。</p> |

| | |
|---------------------------|--|
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 |
| <i>cmdsycn_descriptor</i> | コマンド同期記述子 (ユーザー定義スクリプトを指定する記述子) を表します。この記述子は、 <code>initcmdsycn</code> コマンドの標準の出力値として返されます。 |
| -h | ヘルプ。使用方法を表示します。 |
| -M <i>identifier</i> | <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>フェイルオーバーの後に、スクリプトを再開する場所を指定します。この記述子は、正の整数とします。</p> |
| <i>parameters</i> | ユーザー定義スクリプトに関連するオプションまたはパラメータを表します。これらのパラメータは、スペア SC に格納されており、フェイルオーバーの後で指定されたスクリプトを再起動する際に使用します。 |
| <i>script_name</i> | 同期的に処理されるユーザー定義スクリプトの名前を表します。 <i>script_name</i> には、実行可能ファイルの名前を絶対パスで指定します。このコマンドは、両方の SC で同じ場所に位置している必要があります。 |
| 拡張機能説明 | コマンド同期コマンドは、ユーザー定義スクリプト内の特定の論理ポイントに挿入します。 |

たとえば、**Korn** シェルスクリプトは、以下のようになります。

```
# MAIN CODE STARTS HERE
# Be sure to use a cleanup procedure to handle any
# interrupts.
# Use the cancelcmdsync to remove the script from the
# command synchronization list. Otherwise, the command
# will get restarted on the new main SC.
#
clean_up () {
    cancelcmdsync $desc
    exit
}

# Declare the clean_up function to capture system signals
# and cleanup.
trap "clean_up" INT HUP TERM QUIT PWR URG
goto_label=1
# Process the arguments, capturing the -M marker point
# if provided
#
for arg in $*; do
    case $arg in
        -M )
            goto_label=$arg;;
        .
        .
        .
    esac
done
# Place this script and all its parameters in the command
# synchronization list, which indicates the commands to
# be restarted after an SC failover.
#
# NOTE: The script must be executable by the user defined
# in fomd.cf and reside in the same directory on both the
# main and the spare SC.
```

```

# If the command is not part of the defined PATH for
# the user, the absolute filename must be passed with the
# initcmdsycn command
#
initcmdsycn script_name parameters
# The marker point is stored in the goto_label variable.
# Keep executing this script until all cases have been
# processed or an error is detected.
#
while (( $goto_label != 0 )) ; do
#
# Each case should represent a synchronization point
# in the script.
#
case $goto_label in
#
# Step 1: Do something
#
1 )          do_something
            .
            .
            .

# Execute the savecmdsycn command with the script's
# descriptor and a unique marker to save the position.
# If a failover occurs here, the commands represented in
# the next goto_label (2) will be resumed.
#
            savecmdsycn -M $(( $goto_label + 1 )) $desc
            goto_label=$(( $goto_label + 1 ))
            ;;

#
# Step 2: Do more things
#
2 )          do_more_things
            .
            .
            .
            savecmdsycn -M $(( $goto_label + 1 )) $desc
            goto_label=$(( $goto_label + 1 ))
            ;;

#
# Step 3: Finish the last step and set the goto_label to 0
# so that the script ends.
3 )
            finish_last_step
            .
            .
            .
            goto_label=0
            ;;

        esac
done
# END OF MAIN CODE
# Remember to execute cancelcmdsycn to remove the script from the
# command synchronization list. Otherwise, the command will be restarted
# after the failover.
#
cancelcmdsycn $desc

```


必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

注 - `initcmdsyc` の標準出力には、コマンド同期記述子が含まれています。(フェイルオーバーが終了した場合や、単一の SC 環境などで) フェイルオーバーが使用できない場合は、同期コマンドが含まれているスクリプトでは、プラットフォームのログファイルに対してエラーメッセージを生成し、ゼロ以外の終了コードを返します。これらのメッセージは無視することもできます。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`runcmdsync(1M)`、`showcmdsyc(1M)`

| | |
|-------|---|
| 名前 | setbus - ドメイン内のアクティブな拡張ボードで動的バスの再構成を実行 |
| 形式 | setbus [-q] [-y -n] -c <i>csb</i> [-b <i>buses</i>] [<i>location</i> ...] setbus -h |
| 機能説明 | <p>setbus(1M) は、ドメイン内のアクティブな拡張ボード上のバストラフィックを動的に再構成してセンタープレーンサポートボード (CSB) を使用します。両方の CSB を使用するの normal モードです。1 つの CSB を使用するの degraded モードです。</p> <p>この機能を使用すると、システムの電源を切ることなく CSB を交換できます。</p> |
| オプション | <p>-y および -n は、setbus が、以下に示されるような確認メッセージを表示する場合のみ有効な、オプションの引数です。-y 引数により、確認メッセージに自動的に肯定応答を指定します。-n 引数により、確認メッセージに自動的に否定応答を指定します。</p> <p>選択した拡張ボードの構成を変更する場合は、追加の拡張ボードの構成を変更することが必要です。setbus によって次のプロンプトが表示されます。</p> <pre>The expander board in position <i>location</i> communicates with expanders not already listed, and will be added to the list of boards to reconfigure. Are you sure you want to continue the reconfiguration? (yes/no)?</pre> <p>さらに、setbus は電源が投入された状態のボードのうち、アクティブでないすべてのボードをリセットします。その結果、接続可能状態のボードはなくなります。ボードを接続可能状態に戻すには、『Sun Fire ハイエンド / ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。</p> <p>注 - すべての拡張ボードを 1 つの CSB に縮退させた後、いずれか 1 つの拡張ボードだけを通常モードに戻すことはできません。通常モードへの復帰は必ず、すべての拡張ボードを対象に実行すべきであり、そうしないと setbus の実行は失敗します。</p> |

次のオプションがサポートされています。

- b buses** 構成するバスを指定します。構成するバスは3つあります。有効なバスは、次のとおりです。
- | | |
|---|-------------|
| a | アドレスバスを構成する |
| d | データバスを構成する |
| r | 応答バスを構成する |
- デフォルトでは3つすべてのバスを構成します。
- c csb** 使用するCSBを指定します。
- | | |
|----------|---------------------------------------|
| CS0 | CS0を使用するようハードウェアを構成する (degraded モード) |
| CS1 | CS1を使用するようハードウェアを構成する (degraded モード) |
| CS0, CS1 | 両方のCSBを使用するようハードウェアを構成する (normal モード) |
- h** ヘルプ。使用方法を表示します。
- 注** – 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。
- n** **setbus** コマンドによって表示されるすべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。
- q** 非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。
- 単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。
- y オプションまたは -n オプションのどちらかとともに使用すると、-q ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。
- y** **setbus** コマンドによって表示されるすべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。

オペランド 次のオペランドがサポートされています。

拡張機能説明
必要なグループ特
権

location 構成する拡張ボードスロットを指定します。デフォルトではすべてのスロットを構成します。*location* が複数の場合は、スペースで区切ります。

有効な *location* は、次のとおりです。

Sun Fire 12K/E20K:

EX (0...8)

Sun Fire 15K/E25K:

EX (0...17)

システム内の通信拡張ボード (SOCX) のセットを再構成するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

ドメイン管理者または構成者が再構成できるのは、自身が特権を持っているドメインに割り当てられている SOCX のみです。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 すべてのアクティブドメイン上のすべてのバスで CS0 を使用する

1 つ以上のドメインで、アクティブでないボードに電源が投入されている場合の、*setbus* の出力例を示します。

```
sc0:sms-user:> setbus -c CS0
The following boards are powered on but are not active in a domain:
SB13
IO9 assigned to domain J
IO16 assigned to domain Q
SB17
These boards will be reset, and any attach-ready state will be lost.
```

例 2 すべてのアクティブドメイン上のすべてのバスで両方の CSB を使用する

```
sc0:sms-user:> setbus -c CS0,CS1
```

例 3 すべてのドメイン上のアドレスバスで CS0 を使用する

```
sc0:sms-user:> setbus -c CS0 -b a
```

例 4 アクティブな EX1 上のアドレスバスおよびデータバスで CS1 を使用する
sc0:sms-user:> **setbus -c CS1 -b ad EX1**

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- >0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

showbus(1M)

| | |
|-----------|--|
| 名前 | setcsn - Sun Fire ハイエンドシステム用のシャーシシリアル番号の設定 |
| 形式 | setcsn -c chassis_serial_number setcsn -h |
| 機能説明 | <p>setcsn(1M) により、Sun Fire ハイエンドシステムを識別するシャーシのシリアル番号を記録できます。シャーシのシリアル番号は、システムシャーシ正面の下部中央付近に貼付されているラベルに印刷されています。</p> <p>SMS の前のバージョンから SMS 1.6 にアップグレードする場合は、シャーシのシリアル番号を記録するために、setcsn コマンドを実行してください。シャーシのシリアル番号は 1 回だけ記録できます。このコマンドは、指定したシリアル番号を検証します。その番号がすでに記録されている場合、このコマンドは別のシリアル番号の設定を許可しません。</p> <p>このコマンドは、メインシステムコントローラで実行してください。シャーシのシリアル番号はプラットフォーム構成情報の一部として維持されています。</p> <p>注 - Sun の製造工程では、SMS 1.6 をインストールして出荷される Sun Fire ハイエンドシステムのシャーシシリアル番号を記録しています。使用しているシステムにすでにシャーシのシリアル番号が割り当てられているかどうかを判別するには、showplatform(1M) コマンドを実行します。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-c chassis_serial_number Sun Fire ハイエンドシステム用のシャーシシリアル番号を指定します。この番号は、システムシャーシの前面、ボトムセンターの近くにあるラベルでわかります。シリアル番号は、最大 20 文字の英数字です。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権またはプラットフォームサービステ権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| 使用例 | <p>例 1 シャーシのシリアル番号の設定</p> <pre>sc0:sms-user:> setcsn -c 352A00008</pre> |

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 2 使用法に関するエラーが発生しました。
- 4 権限エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

pcd(1M)、showplatform(1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | setdatasync - データ同期で使用されるデータ伝達リストの変更 |
| 形式 | setdatasync [-i interval] schedule <i>filename</i> setdatasync cancel <i>filename</i> setdatasync push <i>filename</i> setdatasync backup setdatasync -h |
| 機能説明 | <p>setdatasync では、ユーザー作成ファイルのデータ伝達リストへの追加またはリストからの削除を指定できます。データ伝達リストは、メインシステムコントローラからスペアシステムコントローラ (SC) に自動フェイルオーバー用のデータ同期の一部としてコピーするファイルを識別します。指定されたユーザーファイルおよびファイルが存在するディレクトリは、両方の SC のユーザーに対する読み取り書き込み特権を持っている必要があります。</p> <p>データ同期プロセスでは、メイン SC 上のユーザー作成ファイルが変更されているかどうかチェックされます。メイン SC 上のユーザー作成ファイルが最後の伝達以降に変更されている場合は、スペア SC にも再伝達されています。データ同期プロセスで、デフォルトでは、指定したファイルは 60 分ごとにチェックされます。ただし、setdatasync を使用してユーザーファイルの変更をチェックする頻度を指定しなければなりません。</p> <p>注 - ファイルがメイン SC からスペア SC に伝達された後、ファイルはメイン SC 上のファイルが更新されたときのみスペア SC に再伝達されます。伝達されたファイルをスペア SC から削除すると、そのファイルはメイン SC 上の対応するファイルが更新されるまで自動的に再伝達されません。</p> <p>setdatasync を使用すると、次のことができます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 指定したファイルをデータ伝達リストに追加することなくスペア SC に伝達することができます。■ メイン SC およびスペア SC 上の SC 構成ファイルを再同期することができます。 |

オプション

次のオプションがサポートされています。

backup

SMS 以外の原因によってスペア SC 上の SMS ファイルに望ましくない変更が加えられたときに、強制的に再同期を実行します。

setdatasync backup は、SMS のすべての構成、データ、およびログファイルを再伝達します。fomd では、この処理は自動的に実行されます。setdatasync backup を使用すると、fomd による自動ファイル伝達の速度を低下させる可能性があります。

setdatasync backup の実行に要する時間の長さは、転送されるファイル数におおよそ比例します。ファイル転送速度に影響を与えるその他の要素には、転送ファイルの平均サイズ、SC 上の利用可能メモリー量、SC の負荷 (CPU サイクルとディスクトラフィック)、I2 ネットワークが機能しているかどうかなどがあります。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

setdatasync backup は、次に挙げる場合のみ使用してください。

- メイン SC で SMS が動作している間に、スペア SC に SMS を再インストールした場合

注 – SMS ユーザーグループは、setdatasync backup を実行する前に正しく設定する必要があります。

- メイン SC で SMS が動作している間に、スペア SC 上の SMS ファイルが削除された場合
- スペア SC 上の SMS ファイルが上書きされたか壊れている場合 (SMS の動作の有無は問わない)

cancel *filename*

指定したファイルをデータ伝達リストから削除 (取り消し) します。指定したファイルはスペア SC には適用されなくなります。このオプションでは指定したファイルが実際にスペア SC から削除されることはありません。ファイル名には絶対パスを含める必要があり、別のファイルへのシンボリックリンクであってはなりません。

-h

ヘルプ。使用方法を表示します。

注 – 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。

| | |
|--------------------------------|--|
| <code>-i interval</code> | 指定したファイルが変更されたかどうかをチェックする頻度を示します。デフォルトの間隔は 60 分です。指定できる間隔は、1 から 1440 分 (24 時間) です。 |
| <code>push filename</code> | 指定したファイルをデータ伝達リストに追加することなくスペア SC に伝達 (プッシュ) します。ファイル名には絶対パスを含める必要があり、別のファイルへのシンボリックリンクであってはなりません。 |
| <code>schedule filename</code> | 指定したファイルをデータ伝達リストに追加します。ファイル名には絶対パスを含める必要があり、別のファイルへのシンボリックリンクであってはなりません。データ同期時には、ファイルはスペア SC の同じ絶対パスへ伝達されません。 |

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第 2 章「SMS のセキュリティーオプションと管理特権」を参照してください。

使用例

例 1 ユーザーファイルをメインからスペアに 30 分ごとに適用する

ユーザー指定ファイルへのパスは絶対パスであることが必要であり、シンボリックリンクを含んでいてはなりません。

```
sc0:sms-user:> setdatasync -i 30 schedule /path/filename
```

例 2 データ適用リストからのファイル名の削除

ユーザー指定ファイルへのパスは絶対パスであることが必要であり、シンボリックリンクを含んでいてはなりません。

```
sc0:sms-user:> setdatasync cancel /path/filename
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

showdatasync (1M)、smsbackup (1M)

| | |
|-------|--|
| 名前 | setdate - システムコントローラ (SC) またはドメインの日付と時刻の設定 |
| 形式 | setdate [-d <i>domain_indicator</i>] [-u] [-q] [<i>mmdd</i>]HHMM <i>mmdd</i> HHMM[<i>cc</i>] <i>yy</i> [<i>SS</i>] setdate -h |
| 機能説明 | setdate(1M) を使用すると、SC プラットフォーム管理者は SC またはオプションでドメインの日付と時刻値を設定できます。ドメイン管理者は、これらのドメインに対して日付と時刻を設定することができます。日付と時刻を設定すると、setdate(1M) は現在の日付と時刻を表示します。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。 <i>domain_id</i> - ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。 <i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。 ドメインのキースイッチが OFF または STANDBY の位置にあるときにドメインの時刻 (TOD) を設定します。このオプションは setdate の主な使用方法ではありません。通常、setdate はこのオプションなしで SC の TOD の設定に使用されます。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -q 新しい値を設定した後は現在の日付と時刻を表示しません。 -u グリニッジ標準時刻 (GMT) を使用して時刻を表示します。デフォルトでは該当地域のタイムゾーンが使用されます。 |
| オペラント | 次のオペラントがサポートされています。 <i>[mmdd]</i> HHMM[<i>SS</i>] 日付と時刻のフォーマット。mm は月 (1-12)、dd は日 (1-31)、HH は時 (0-23)、MM は分 (0-59)、SS は秒 (0-59) です。 <i>mmdd</i> HHMM[<i>cc</i>] <i>yy</i> [<i>SS</i>] 日付と時刻のフォーマット。mm は月 (1-12)、dd は日 (1-31)、HH は時 (0-23)、MM は分 (0-59)、cc は世紀から 1 を引いた値、yy は年を 2 桁で表したものの、SS は秒 (0-59) です。 |

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権またはドメイン管理者特権が必要です。プラットフォーム管理者特権を持っている場合は、自身のドメインに対してのみこのコマンドを実行することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 太平洋標準時での日付設定

```
sc0:sms-user:> setdate 020210302002.00
System Controller: Sat Feb 2 10:30:00 PST 2002
```

例 2 GMT を使用した日付設定

```
sc0:sms-user:> setdate -u 020218302002.00
System Controller: Sat Feb 2 18:30:00 GMT 2002
```

例 3 ドメイン A の太平洋標準時での日付設定

```
sc0:sms-user:> setdate -d a 020210302002.00
Domain a: Sat Feb 2 10:30:00 PST 2002
```

例 4 ドメイン A の GMT を使用した日付設定

```
sc0:sms-user:> setdate -d a -u 020218302002.00
Domain a: Sat Feb 2 18:30:00 GMT 2002
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
 >0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag(1M)、setkeyswitch(1M)、showdate(1M)

| | |
|--------|---|
| 名前 | setdefaults - 直前にアクティブであったドメインのすべてのインスタンスの削除、および Capacity on Demand (COD) 情報をリセット |
| 形式 | setdefaults [-d <i>domain_indicator</i> [-p]] [-y -n] setdefaults -h |
| 機能説明 | <p>setdefaults(1M) は、直前にアクティブであったドメインのすべての SMS インスタンスと Capacity on Demand (COD) 情報を削除します。ドメインインスタンスには、ネットワーク情報を除くすべての pcd エントリ、すべてのメッセージ、コンソール、シスログファイルと、オプションですべての NVRAM および起動パラメータが含まれます。pcd エントリと NVRAM および起動パラメータはシステムのデフォルト設定に戻ります。IDPROM データは影響を受けません。</p> <p>削除される COD 情報には、インスタントアクセス CPU と、ドメイン用に予約されていた COD RTU (right-to-use) ライセンスが含まれます。インスタントアクセス CPU の値をリセットできるのは、プラットフォーム管理者だけです。ドメインに予約している COD RTU ライセンスをリセットできるのは、プラットフォーム管理者とドメイン管理者です。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-n すべてのプロンプトに自動的に no と応答します。</p> <p>-p NVRAM および起動パラメータデータを保持します。デフォルトでは、NVRAM および起動パラメータデータを削除するかどうか尋ねられます。-p オプションが使用されている場合は、プロンプトは表示されずにデータが保持されます。</p> <p>-y すべてのプロンプトに対して自動的に yes と応答します。</p> |
| 拡張機能説明 | -d <i>domain_indicator</i> を指定すると、setdefaults コマンドはドメイン情報をリセットします。対象のドメインはアクティブではなく、仮想キースイッチがオフに設定されていることが条件になります。この条件を満たさないと、setdefaults コマンドはエラーで終了します。プラットフォーム管理者はアクセス制御リスト |

(ACL) とドメインの COD RTU ライセンスをリセットできますが、これらの操作はドメイン管理者には許可されません。

プラットフォーム管理者特権を持つユーザーが `-d domain_indicator` を指定せずに `setdefaults` コマンドを実行すると、COD RTU ライセンス違反にならない場合のみ、COD インスタントアクセス CPU がリセットされます。

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、指定されたドメインに対するプラットフォーム管理者特権またはドメイン管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 ドメイン A に対するドメイン、NVRAM および起動パラメータのプロンプト付きデフォルトの設定

```
sc0:sms-user:> setdefaults -d a
Are you sure you want to remove domain info? y
Do you want to remove NVRAM and boot parameter data? y
```

例 2 ドメイン A に対するプロンプトなしで NVRAM および起動パラメータデータを保持するデフォルトの設定

```
sc0:sms-user:> setdefaults -d a -p -y
```

例 3 ドメイン A に対するプロンプトなしで NVRAM および起動パラメータデータを保持しないデフォルトの設定

```
sc0:sms-user:> setdefaults -d a -y
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 不正なドメインが指定されました。
- 2 不正なオプションが入力されました。
- 3 ドメインがないか、または複数のドメインが指定されました。
- 4 ユーザーが有効なアクセス権を持っていません。
- 5 キースイッチが無効な位置にあります。
- 6 ドメインが現在アクティブです。
- 7 pcd への接続中にエラーが発生しました。
- 8 m1d への接続中にエラーが発生しました。
- 9 osd への接続中にエラーが発生しました。

- 10 内部エラーが発生しました。
 11 ユーザーが操作を取り消しました。
 12 codd との通信中にエラーが発生しました。

ファイル

このコマンドでは次のファイルが影響を受けます。

| | |
|--|--|
| <code>/var/opt/SUNWSMS/.pcd/domain_info</code> | ドメイン pcd 情報ファイル。 |
| <code>/var/opt/SUNWSMS/.pcd/sysboard_info</code> | プラットフォーム pcd 情報ファイル。 |
| <code>/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/console</code> | ドメインコンソールログファイル。最大 10 までのコンソールファイルがどの時点においてもシステム上に格納されます (console.0 から console.9)。 |
| <code>/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/messages</code> | ドメインログファイル。最大 10 までのメッセージファイルがどの時点においてもシステム上に格納されます (message.0 から message.9)。 |
| <code>/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/syslog</code> | ドメインシスログファイル。最大 10 までの syslog ファイルがどの時点においてもシステム上に格納されます (syslog.0 から syslog.9)。 |
| <code>/var/opt/SUNWSMS/data/domain_id/bootparamdata</code> | ドメイン起動パラメータ情報ファイル。 |
| <code>/var/opt/SUNWSMS/data/domain_id/nvramdata</code> | ドメイン nvram 情報ファイル。 |

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | addtag (1M)、mld (1M)、osd (1M)、pcd (1M)、setobpparams (1M)、
showobpparams (1M)

| | |
|-------|---|
| 名前 | setfailover - システムコントローラ (SC) フェイルオーバーメカニズムの状態の変更 |
| 形式 | setfailover [-q] [-y -n] on off force setfailover -h |
| 機能説明 | setfailover(1M) は、SC フェイルオーバーメカニズムの状態を変更する機能です。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -q 「非出力」オプション。on、off、または force オプションとともに使用すると、出力メッセージが表示されません。-y または -n オプションおよび force オプションとともに使用すると、確認メッセージが表示されません。単独で使用すると、コマンドのデフォルトが -n オプションになります。 -y -n force オプションとともに使用すると、確認メッセージが省略されます (使用例 3 を参照)。-y を指定すると、確認を求めずに強制処理を継続できます。-n を指定すると、強制フェイルオーバーが発生しません。-q オプションとともに -y オプションを使用すると、スピーアロック警告プロンプトなどのすべてのプロンプトが表示されなくなることに注意してください (使用例 4 を参照)。 |

オペランド | 次のオペランドがサポートされています。

on|off|force 有効なアクションは次のとおりです。

| | |
|-------|---|
| force | フェイルオーバーをスペア SC に強制します。スペア SC が利用可能であることが必要です。スペア SC のクロックに不具合がある場合にこのコマンドを実行すると、フェイルオーバーの強制によってボード上でドメイン停止 (Dstop) が発生する可能性があるという警告が表示されます。使用例 4 を参照してください。このプロンプトに yes と応答すると、フェイルオーバーが強制されます。no と応答すると、フェイルオーバーが取り消されます。force オプションを -q および -y の両方のオプションとともに使用したときに、スペア SC のクロックに不具合がある場合は、スペアクロック警告などのすべてのメッセージが表示されません。フェイルオーバーが強制されますが、Dstop が発生する可能性があります。 |
| off | フェイルオーバーメカニズムを使用不可にします。これにより、メカニズムがふたたび使用可能になるまでフェイルオーバーが行われません。 |
| on | フェイルオーバーまたはオペレータの要求によって以前にフェイルオーバーを使用不可にしたシステムのフェイルオーバーを使用可能にします。on は、フェイルオーバーのみをふたたび使用可能にするようコマンドに指示します。フェイルオーバーをふたたび使用可能にできない場合は、後続の showfailover コマンドの使用により使用可能を妨げている現在のエラーを示します。 |

拡張機能説明

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

これらのコマンドは正常に完了した場合は何も出力しません。これらのコマンドの結果を表示するには、showfailover コマンドを使用します。アクションを実行できなかった場合に、エラーメッセージが表示されます。

例 1 フェイルオーバーをオンにする

```
sc0:sms-user:> setfailover on
```

例 2 フェイルオーバーをオフにする

```
sc0:sms-user:> setfailover off
```

例 3 フェイルオーバーを強制する

```
sc0:sms-user:> setfailover force  
Forcing failover.Do you want to continue (yes/no)? yes
```

例 4 スペアクロックに不具合がある場合にフェイルオーバーを強制する

```
sc0:sms-user:> setfailover force  
Forcing failover.Do you want to continue (yes/no)? yes  
The spare clock input on some boards might be bad.Forcing a failover now  
is likely to cause the affected domains to domain stop (Dstop).  
Do you want to continue (yes/no)? no
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

showfailover (1M)

| | |
|-------|---|
| 名前 | setkeyswitch - 仮想キースイッチ位置の変更 |
| 形式 | setkeyswitch -d <i>domain_indicator</i> [-q] [-y -n] <i>position</i> -l <i>level</i> setkeyswitch -h |
| 機能説明 | <p>setkeyswitch(1M) は、仮想キースイッチの位置を指定した値に変更します。setkeyswitch は、ボードの電源の投入 / 停止とドメインの起動に使用します。詳細については、「オペランド」を参照してください。新しいファームウェアは hpost が実行されるまでシステムボード上でアクティブにならないことに注意してください。</p> <p>指定したドメインが、自動システム回復 (ASR) ブラックリストファイルにボードを含んでいる場合は、エラーメッセージが表示されて setkeyswitch はそのボードの電源投入をスキップして処理を続行します。</p> <p>各仮想キースイッチの状態はシステムコントローラ (SC) の電源の再投入の間または pcd(1M) による電源供給の物理的電源再投入によって維持されます。showkeyswitch を使用して仮想キースイッチの現在の位置を表示します。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>注 - -y および -n は、setkeyswitch(1M) コマンドに対するオプションの引数です。オプションの引数の 1 つが指定されていない場合は、on、diag、または secure 位置から off または standby 位置に変更するとき setkeyswitch によって、確認プロンプトが表示されます。</p> <p>-d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-n すべてのプロンプトに自動的に no と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されません。</p> |

- q** 非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。
- 単独で使用すると `-q` は、デフォルトですべてのプロンプトに対して `-n` オプションを指定します。
- `-y` オプションまたは `-n` オプションのどちらかとともに使用すると、`-q` ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「`y`」または「`n`」のどちらかで応答します。
- y** すべてのプロンプトに対して自動的に `yes` と応答します。プロンプトは、`-q` オプションとともに使用しない限り表示されます。
- l *level*** システム起動時に使用される `hpost` レベルを指定できます。このオプションによって、デフォルトの `hpost` レベルを上書きできます。この値は、`setkeyswitch` コマンドによって呼び出される任意の `hpost (1M)` プロセスに渡されます。`hpost` はユーザーによって呼び出されることを意図していませんが、`level` の値は `hpost` ログに表示されることに注意してください。このオプションは、ご購入先からの指導のもとにおいてのみ使用してください。

オペランド

この項では、**position** オプションのオペランドについて説明します。次のオペランドがサポートされています。

| | |
|-----------------|---|
| <i>position</i> | オペランドの有効値は次のとおりです。 |
| on | off または standby の位置からは、on はドメインに割り当てられたすべてのボードの電源を投入します (電源が未投入の場合)。それによりドメインがアクティブになります。diag 位置からは、on は単なる位置変更に過ぎず、動作しているドメインには影響を与えません。secure の位置からは、on は書き込み権をドメインに戻します。 |
| standby | on、diag、または secure の位置からは、standby はオプションとして確認プロンプトを表示します。「yes」と応答すると、ドメインがリセットおよび構成解除に適した状態にあるかどうか (OS の動作の有無など) が確認されます。ドメインがリセットと構成解除が可能な状態にある場合には、setkeyswitch がそのドメインに割り当てられていたすべてのボードをリセットして構成解除します。適した状態にない場合、setkeyswitch はリセットと構成解除を実行する前に、ドメインを安全に終了させます。off の位置からは、standby はドメインに割り当てられたすべてのボードの電源を投入します (電源が未投入の場合)。 |

| | |
|------|---|
| off | on、diag、または secure の位置からは、off はオプションとして確認プロンプトを表示します。「yes」と応答すると、ドメインが電源切断に適した状態かどうか (OS の動作の有無など) が確認されます。ドメインが電源を切断できる状態にある場合には、setkeyswitch がそのドメインに割り当てられていたすべてのボードの電源を切断します。電源を切断できる状態にない場合には、setkeyswitch は中止し、メッセージをドメインのログに記録します。standby の位置からは、off はドメインのすべてのボードの電源を切断します。 |
| diag | off または standby の位置からは、diag はドメインに割り当てられたすべてのボードの電源を投入します (電源が未投入の場合)。その結果、位置が on と同様に、ドメインは稼働状態になります (ただし、POST が冗長モードで呼び出され、診断レベルがデフォルト以上のレベルに設定される点を除きます)。現在の位置が on の場合、diag を指定しても位置が変更されるにすぎません。ただし、ドメインの自動システム復元 (ASR) 時には、POST が冗長モードで呼び出され、診断レベルがデフォルト以上のレベルに設定されます。現在の位置が secure の場合、diag を指定するとドメインへの書き込み許可が復元されます。さらに、ASR の実行時には post が冗長モードで呼び出され、診断レベルがデフォルト以上のレベルに設定されます。ASR については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |

| | | |
|--------------------------------|---|--|
| | secure | off または standby の位置からは、secure はドメインに割り当てられたすべてのボードの電源を投入します (電源が未投入の場合)。次にドメインが on 位置にあるときのようにアクティブになりますが、secure 位置がドメインへの書き込みアクセス権を削除して、たとえば、flashupdate および reset が機能しなくなります。on 位置からは、secure は上記のようにドメインへの書き込みアクセス権を削除します。diag の位置からは、secure はドメインに対する書き込み権を削除します (前の説明を参照)。 |
| <p>拡張機能説明</p> <p>必要なグループ特権</p> | | <p>このコマンドを実行するには、指定したドメインに対するドメイン管理者特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| <p>使用例</p> | <p>例 1 ドメイン A のキースイッチのオン設定</p> <pre>sc0:sms-user:> setkeyswitch -d A on</pre> <p>例 2 ASR ブラックリストファイルにボードを含むドメイン上のキースイッチの使用</p> <pre>sc0:sms-user:> setkeyswitch -d A on SB0 is in the ASR Blacklist.</pre> <p>例 3 hpost レベルの変更</p> <pre>sc0:sms-user:> setkeyswitch -d A -l 7 on</pre> | |
| <p>終了ステータス</p> | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> | |

| ファイル | <p>このコマンドでは次のファイルが使用されます</p> <p><code>/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist</code> esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。</p> <p>注 – このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。</p> | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 属性 | <p>次の属性の説明については、<code>attributes(5)</code> を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="361 487 1333 598"> <thead> <tr> <th data-bbox="361 487 845 539">属性タイプ</th> <th data-bbox="845 487 1333 539">属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="361 539 845 598">Availability</td> <td data-bbox="845 539 1333 598">SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |
| 関連項目 | <p><code>addtag(1M)</code>、<code>esmd(1M)</code>、<code>flashupdate(1M)</code>、<code>pcd(1M)</code>、<code>reset(1M)</code>、<code>showkeyswitch(1M)</code></p> | | | | |

| | |
|-------|--|
| 名前 | setobpparams - ドメインの OpenBoot PROM 変数の設定 |
| 形式 | setobpparams -d <i>domain_indicator</i> <i>param=value...</i> setobpparams -h |
| 機能説明 | <p>setobpparams(1M) を使用すると、ドメイン管理者は、setkeyswitch(1M) によって OpenBoot PROM に渡される仮想 NVRAM および REBOOT 変数を設定できます。-d オプションと <i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> が必要です。変更内容を有効にするにはドメインを再起動する必要があります。</p> <p>このコマンドはエラー回復用であり、日常のシステム管理用ではありません。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> |

| | |
|-------|---------------------|
| オペランド | 次のオペランドがサポートされています。 |
|-------|---------------------|

param=value

NVRAM および REBOOT 変数値。有効な変数は、次のとおりです。

■ **diag-switch?**

デフォルト値 : **false**

false に設定すると、デフォルトの起動ドライブは `boot-device` で指定され、デフォルトの起動ファイルは `boot-file` で指定されます。

true に設定すると **OpenBoot PROM** が診断モードで実行され、正しいデフォルトの起動デバイスまたはファイルを指定するには `diag-device` または `diag-file` の設定が必要になります。これらのデフォルトの起動デバイスとファイルの設定には、`setobpparams` は使用できません。**OpenBoot PROM** の `setenv(1)` を使用してください。

■ **auto-boot?**

デフォルト値 : **false**

true に設定すると、ドメインは電源投入または全リセットの後、自動的に起動します。使用される起動デバイスと起動ファイルは、`diag-switch` の設定で決まります (前述の説明を参照)。`boot-device` と `boot file` は、どちらも `setobpparams` で設定することはできません。繰り返しパニックに陥る場合など、OK プロンプトが利用できないときには、`setobpparams` を使用して `auto-boot?` を **false** に設定してください。

`setobpparams` を使用して変数 `auto-boot?` を **false** に設定すると、再起動変数は無効になり、システムは自動起動せずに **OpenBoot PROM** で停止します。この **OpenBoot PROM** で、新しい NVRAM 変数を設定できます。

■ **fcode-debug?**

デフォルト値 : **false**

true に設定すると、この変数はプラグインデバイスの FCodes の名前フィールドを組み込みます。

■ **use-nvramrc?**

デフォルト値 : **false**

true に設定すると、この変数はシステム起動時に NVRAMRC でコマンドを実行します。

■ **security-mode**

デフォルト値 : **none**

ファームウェアのセキュリティーレベルです。

セキュリティーモードを除くすべてに対して有効な変数値は次のとおりです。

- true
- false

セキュリティーモードに対して有効な変数値は次のとおりです。

- none
- command
- full

ここで次の点に留意します。

none - パスワードは必要ありません (デフォルト)

command - boot(1M) と go 以外のすべてのコマンドでパスワードが必要

full - go 以外のすべてのコマンドでパスワードが必要

注 - セキュリティーパスワードを忘れないこと、セキュリティーモードを設定する前にセキュリティーパスワードを設定することが重要です。このパスワードを忘れた場合は、システムを使用することはできなくなります。システムをふたたび起動するにはベンダーのカスタマサポートサービスにお問い合わせください。security-mode およびその他の OpenBoot PROM 変数の詳細については、『OpenBoot 4.x Command Reference Manual』を参照してください。

注 - ほとんどのシェルでは、変数値を単一引用符で囲んで疑問符 (?) が特殊文字として処理されるのを防ぎます。使用例 1 を参照してください。

拡張機能説明

必要なグループ特権

指定されたドメインについて、ドメイン管理者または設定者の特権を持っている必要があります。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 ドメイン A に対する OpenBootPROM 変数 diag-switch をオンに設定

```
sc0:sms-user:> setobpparams -d a 'diag-switch?=true'
```

例 2 ドメイン A に対する OpenBootPROM 変数 security-mode の Full 設定

```
sc0:sms-user:> setobpparams -d a security-mode=full
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
 >0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag (1M), setkeyswitch (1M), showobpparams (1M)

| | |
|-----------|---|
| 名前 | setpcimode - PCI-X スロットに PCI モードでの動作を強制 |
| 形式 | setpcimode pci_only normal slot_spec... setpcimode -h |
| 機能説明 | <p>このコマンドを実行すると、使用しているサーバーの V2HPCIX I/O ボード上の PCI-X スロットの設定が変更されます。PCI-X スロットを強制的に PCI モードで動作させるか、PCI-X モードに戻すには、このコマンドを使用します。</p> <p>このコマンドを使用する前に、スロットを切り離された状態にする必要があります。そうでないと、setpcimode はエラーを返します。setpcimode コマンドを使用した後、connect コマンドを使用してスロットを接続済みの状態に戻してください。</p> <p>ドメインで HPOST または OBP が実行中である場合は、PCI-X アダプタが接続されています。ドメインがそのどちらかの状態のときに setpcimode を実行すると、エラーが返されます。ドメインで HPOST または OBP が実行されているときに setpcimode コマンドを使用するには、Solaris の起動時にカードを切り離すか、ドメインのキースイッチ位置を standby に設定します。</p> <p>V2HPCIX ボードでない I/O ボードを指定すると、このコマンドによってエラーが返されます。</p> <p>注 - このコマンドはメイン SC からのみ実行できます。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-pci_only PCI-X スロットを強制的に PCI モードで動作させます。</p> <p>-normal PCI-X スロットを PCI-X モードに戻します。</p> |
| オペラント | <p>次のオペラントがサポートされています。</p> <p><i>slot_spec</i> 変更されるスロットを示します。<i>slot_spec</i> は、IO#/slot_name という形式で指定します。</p> <p>IO# # は 0 ~ 17 の整数で、ボード上のスロット 0 ~ 7 に対応します。</p> <p>slot_name スロット名: c3v0、c3v1、または c3v2。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、ドメイン管理者特権またはプラットフォーム管理者特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |

エラーメッセージ

setpcimode は、特定のエラー条件を検出した場合にエラーメッセージを返します。それらのエラーメッセージと、エラーメッセージが表示される原因となった条件を次の表に示します。

ERROR: Invalid location: %s

コマンド行引数に指定された位置が無効です。このエラーは、指定された位置が V2HPCIX I/O ボード上の PCI-X スロットでない場合、または位置指定文字列 (%s) が適切な形式でない場合に発生する可能性があります。

ERROR: PCI mode cannot be set for %s

コマンド行引数に指定された位置に setpcimode コマンドを適用できません。このエラーは、ユーザーが位置としてスロット c5v0 を指定した場合にのみ返されます。

ERROR: Slot is not on a V2HPCIX board: %s

このエラーは、コマンド行引数に指定された位置が V2HPCIX ボードに含まれていない場合に返されます。

ERROR: unable to get domain board info for %s

このエラーは、setpcimode が、指定された位置の PCI スロットの状態を取得できない場合、または指定されたスロットに対応する I/O ボードを含むドメインを検出できない場合に表示されます。SMS が正常に機能していれば、このエラーは発生しないはずです。

ERROR: unable to set PCI mode setting for %s

このエラーは、setpcimode が指定された位置の PCI スロットの状態を設定できない場合に表示されます。SMS が正常に機能していれば、このエラーは発生しないはずです。

ERROR: slot is still connected: %s

このエラーは、まだカセットが接続されている PCI-X スロットに対して setpcimode コマンドを実行した場合に表示されます。

この問題を解決するには、指定したスロットのドメイン側で `cfgadm -c disconnect` コマンドを実行してから、setpcimode コマンドを再実行してください。

ERROR: You do not have the appropriate privilege to execute this command for %s

このエラーは、指定した位置に対して setpcimode コマンドを実行するために適切なドメイン / プラットフォーム特権を持たない場合に表示されます。

ERROR: Invalid state: %s

このエラーは、setpcimode コマンドに認識できないオプション (`pci_only` または `normal` 以外) を指定した場合に表示されます。

ERROR: an error occurred while processing %s

このエラーは、コマンドに対して内部エラーが発生した場合に表示されます。たとえば、メモリー不足や、その他のタイプの予期しないエラーなどです。SC が正常に機能していれば、このエラーは発生しないはずですが。

使用例

例 1 PCI モードで動作するように PCI-X スロットを設定

```
sc0:sms-user:> setpcimode -pci_only IO17/C3V2 IO3/C3V1
IO17/C3V2: pci_only
IO3/C3V1: pci_only
```

例 2 PCI-X スロットを PCI モードから PCI-X モードに戻す設定

```
sc0:sms-user:> setpcimode -normal IO17/C3V0
IO17/C3V0: normal
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

esmd (1M)、pcd (1M)、showpcimode (1M)

| | |
|------------------|---|
| オペランド | 次のオペランドがサポートされています。 |
| <i>domainRTU</i> | ドメイン用に予約する COD RTU (right-to-use) ライセンスの数 |
| <i>headroom</i> | 有効にするヘッドルーム (プロセッサ) の数量 |
| <i>location</i> | ボード位置で、スペースで区切ります。 |
| | 指定できる <i>location</i> の範囲は次のとおりです。 |
| | Sun Fire 12K/E20K: |
| | SB(0...8) |
| | IO(0...8) |
| | Sun Fire 15K/E25K: |
| | SB(0...17) |
| | IO(0...17) |
| 拡張機能説明 | <p>オプションをいっさい指定せずに <code>setupplatform</code> コマンドを実行すると、プラットフォームと COD の情報を入力するように促すコマンドプロンプトが表示されます。18 のドメインすべてを対象として、使用可能構成要素リスト、COD ヘッドルームの数量、および予約する COD RTU ライセンス数を指定するように求められます。COD 情報を入力するプロンプトには、許容される最大値が丸カッコ (()) 内、デフォルト値が角カッコ ([]) 内にそれぞれ表示されます。</p> <p>COD ヘッドルーム (必要に応じて使用できるプロセッサ) を有効にするには、<code>setupplatform</code> コマンドを <code>-p cod</code> オプション付きで実行します。<code>-p cod</code> オプションとともに <code>-d domain_indicator</code> を指定すれば、ドメイン用に予約する COD RTU ライセンスの数を指定できます。</p> <p>ドメインの使用可能構成要素リストと COD RTU ライセンスの予約数をリセットするには、<code>setupplatform</code> コマンドを <code>domain_indicator</code> および <code>-</code> オプションを指定して実行します。</p> |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| 使用例 | <code>setupplatform</code> を実行した後は、 <code>showplatform(1M)</code> を使用して使用可能構成要素リストを表示します。 |

例 1 全てのドメイン用の使用可能構成要素リストの設定

```

sc0:sms-user:> setupplatform
Available component list for domain domainA [SB3 SB2 SB1 IO5 IO4 IO3]?
-r SB1
Are you sure[no]: (yes/no)? Y
Available for domain DomainB [SB6 SB4 SB1 IO3 IO2 ]? -
Are you sure[no]: (yes/no)? Y
Available for domain C [SB7 SB5 IO8 IO7]?-a SB17 SB16
Available for domain D [SB9 SB8 SB4 SB2 IO6 IO5 IO1]?
Available for domain E [SB0 IO0]?
Available for domain F []?
Available for domain G []?
Available for domain H []?
Available for domain I []?
Available for domain J []?
Available for domain K []?
Available for domain L []?
Available for domain M []?
Available for domain N []?
Available for domain O []?
Available for domain P []?
Available for domain Q []?
Available for domain R []?
PROC Headroom Quantiy (0 to disable, 8 MAX) [0]? 4
PROC RTUs reserved for domain A (10 MAX) [0]? 3
PROC RTUs reserved for domain B (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain C (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain D (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain E (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain F (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain G (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain H (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain I (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain J (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain K (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain L (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain M (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain N (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain O (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain P (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain Q (7 MAX) [0]? 0
PROC RTUs reserved for domain R (10 MAX) [3]? 3

```

```
sc0:sms-user:> showplatform -p available
Available for domain DomainA:
  SB3 SB2
  IO0 IO4 IO3
Available for domain DomainB:
  None
  None
Available for domain DomainC:
  SB1 SB6 SB7 SB5
  IO8 IO7
Available for domain D:
  SB9 SB8 SB4
  IO6 IO5 IO1
Available for domain E:
  SB0
  IO0
Available for domain DomainF:
  None
  None
Available for domain DomainG:
  None
  None
Available for domain DomainH:
  None
  None
Available for domain I:
  None
  None
Available for domain J:
  None
  None
Available for domain DomainK:
  None
  None
Available for domain L:
  None
  None
Available for domain M:
  None
  None
Available for domain N:
  None
  None
Available for domain O:
  None
  None
Available for domain P:
  None
  None
Available for domain Q:
  None
  None
Available for domain R:
  None
  None
```

例 2 ドメイン engB 用の使用可能構成要素リストの SB0、IO1、IO2 のボード

への設定

```
sc0:sms-user:> setupplatform -p available -d engB SB0 IO1 IO2
```

例 3 ドメイン engB の使用可能構成要素リストに含まれるすべてのボードと
COD RTU 予約数のリセット

```
sc0:sms-user:> setupplatform -d engB -
```

例 4 SB0 および IO2 での engB 使用可能構成要素リストへのボードの追加

```
sc0:sms-user:> setupplatform -p available engB -a SB0 IO2
```

例 5 SB3 および IO3 での engB 使用可能構成要素リストからのボードの削除

```
sc0:sms-user:> setupplatform -p available -d engB -r SB3 IO3
```

例 6 COD CPU ヘッドルームの数量とドメイン用に予約する COD RTU ライセ
ンス数の設定

```
sc0:sms-user:> setupplatform -p cod  
PROC Headroom Quantity (0 to disable, 8 MAX) [0]? 4  
PROC RTUs reserved for domain A (10 MAX) [0]? 3  
PROC RTUs reserved for domain B (7 MAX) [0]? 0  
PROC RTUs reserved for domain C (9 MAX) [2]? 0  
.  
.  
.  
PROC RTUs reserved for domain R (7 MAX) [0]? 0
```

例 7 COD ヘッドルーム CPU を 8 に設定

```
sc0:sms-user:> setupplatform -p cod 8
```

例 8 ドメイン engB 用に予約する COD RTU 数を 6 に設定

```
sc0:sms-user:> setupplatform -p cod -d engB 6
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

>0 内部エラーが発生しました。詳細は、`/var/opt/SUNWSMS/adm/
platform/messages` を参照してください。

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | addtag (1M)、showplatform (1M)

| | |
|-----------|--|
| 名前 | showboards - ボードの割り当て情報と状態の表示 |
| 形式 | showboards [-d <i>domain_indicator</i>] [-v] showboards [-d <i>domain_indicator</i>] -c showboards -h |
| 機能説明 | <p>showboards(1M) は、ボードの割り当てと状態 (全ボードのクロックのソースと状態を含む) を表示します。 <i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> を指定した場合、このコマンドは指定されたドメインに割り当てられているか、そのドメインで利用可能なボードを表示します。また、ボードが Capacity on Demand (COD) ボードであるかどうかを示す情報も表示されます。</p> <p>-v オプションを使用すると、showboards は「ドメイン構成ユニット (DCU)」、システムコントローラ (SC)、DCU ではないコンポーネントなど、すべてのコンポーネントを表示します (DCU には CPU、MCPU、HPCI、HPCI+、WPCI などが含まれる)。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p>-c クロックソース。すべてのシステム、拡張ボード、I/O、センタープレーンサポートボード、および SC のクロックのソースと状態を表示します。使用例 6 を参照してください。</p> <p>ドメインが指定されている (-d オプション) 場合、-c オプションはそのシステムとそのドメインがアクセス可能な I/O ボードだけのクロック情報を表示します。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-v 冗長。DCU を含むすべてのコンポーネントを表示します。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、指定されたドメインに対するプラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。</p> |

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

プラットフォーム管理者特権

- オプションが何も指定されていない場合、showboards では assigned または available な DCU を含むすべてのコンポーネントを表示します。
- *domain_id* または *domain_tag* が指定されている場合、showboards では指定ドメインに assigned または available な DCU に関する情報を表示します。他のドメインに assigned されている DCU は、表示されません。
- *-v* オプションが指定されている場合、showboards では、すべての assigned または available な DCU に関する情報を表示します。また、showboards ではその他すべてのコンポーネントに関する情報も表示します。
- *domain_id* または *domain_tag* および *-v* オプションが指定されている場合、showboards では指定ドメインに assigned または available な DCU に関する情報を表示します。また、showboards ではその他すべてのコンポーネントに関する情報も表示します。他のドメインに assigned されている DCU は、表示されません。

ドメイン管理者または構成者特権：

- オプションが何も指定されていない場合、showboards では assigned または available な DCU を含む、ユーザーが特権を持つすべてのドメイン用のすべてのボードを表示します。
- *domain_id* または *domain_tag* が指定されている場合、showboards では指定ドメインに assigned および available な DCU に関する情報を表示します。他のドメインに assigned されている DCU は、表示されません。Available DCU は、ドメインの使用可能構成要素リスト内にあるボードです。setupplatform(1M) および showplatform(1M) を参照してください。指定したドメインに対するドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権が必要です。
- このユーザーは *-v* オプションを利用できません。

ステータスフィールドの表示内容

ここでは、showboards のコマンド出力に表示されるステータス情報について説明します。

Pwr フィールドには、次の 5 つの値の中の 1 つが含まれます。

| | |
|-----|-------------------------|
| On | フル電圧 |
| Off | 電圧なし |
| Min | 電圧あり |
| Unk | 不明。ボードの電源状態を判別できません。 |
| - | スロットが空で該当する電源の状態がありません。 |

Min は、ボードが使用されていることを示すのではなく、単にボード上で電圧が検出されたことを意味します。電源が入れられるまで使用しないでください。反対に、電源を切るまではシステムから取り外さないでください。

Board Status フィールドには、次の 4 つの中のいずれかの値が含まれます。

| | |
|-----------|------------------------------------|
| Active | ボードはドメインに割り当てられ、POST を通過しています |
| Assigned | ボードはドメインに割り当てられています。 |
| Available | ボードはドメインに割り当てることができます。 |
| — | ドメイン割り当てまたはアクティビティがこのボードに適応していません。 |

Test Status フィールドの値は、前回の POST で PCD データベースに登録されたエントリを反映しており、次の 6 つの値のいずれかになります。

| | |
|----------|--|
| Passed | ボードが POST を通過しました。 |
| Degraded | ボードが degraded モードです。 |
| Failed | ボードが POST に失敗しました。 Sun のサービス担当者に連絡し、ボードの交換が必要かどうかの判断を仰いでください。 |
| iPOST | ボードが POST 中です。 |
| Unknown | ボードはテストされていません。 |
| — | このボードのテスト状態がありません。 |

Domain フィールドには、次の 4 つの中のいずれかの値が含まれます。

| | |
|-------------------|---------------------------------|
| <i>domain_id</i> | ドメインの ID。 |
| <i>domain_tag</i> | addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられた名前。 |
| Isolated | ボードはどのドメインにも割り当てられていません。 |
| — | ドメイン割り当てはこのボードには適用されません。 |

-c オプションによって表示されるステータスフィールド

ここでは、showboards -c 出力によって表示されるステータス情報について説明します。

Clock Signal Status フィールドには、以下の 3 つのインジケータが表示されます。

| | |
|---------|------------------------------|
| Good | ハードウェアにより、良好なクロック信号が検出されました。 |
| Failed | ハードウェアにより、不正なクロック信号が検出されました。 |
| Unknown | クロックステータスが不明です。 |

Clock Source フィールドには、以下の 3 つのインジケータが表示されます。

| | |
|-----------|-----------------------------|
| SC0 Clock | システムコントローラ 0 はクロック信号を提供中です。 |
| SC1 Clock | システムコントローラ 1 はクロック信号を提供中です。 |
| Unknown | 現在のクロックソースが不明です。 |

SC0 および SC1 Clock Status フィールドには、それぞれ次のインジケータが表示されます。

| | |
|--------|--|
| Good | システムコントローラに電源が入り、稼働しています。 |
| Failed | システムコントローラが停止しました。 |
| SC-Off | システムコントローラに電源が入っていません。 |
| No-SC | Clock Status フィールドにシステムコントローラが存在しません。 |

Auto-Clock Selection フィールドには、以下の 3 つのインジケータが表示されます。

| | |
|----------|--|
| Enabled | 必要に応じて、ハードウェアはクロックソースを自動的に切り替えようとする可能性があります。 |
| Disabled | ハードウェアは、クロックソースを自動的に切り替えません。 |
| Unknown | クロック選択モードが不明です。 |

使用例

例 1

Sun Fire 15K/E25K システムのプラットフォーム管理者用のボードの一覧

```
sc0:sms-user:> showboards
```

| Location | Pwr | Type | Board Status | Test Status | Domain |
|----------|-----|------------|--------------|-------------|----------|
| ---- | --- | ---- | ----- | ----- | ----- |
| SB0 | On | CPU | Active | Passed | domainC |
| SB1 | On | V3CPU | Active | Passed | A |
| SB2 | On | V3CPU | Active | Passed | D |
| SB3 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB4 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB5 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB6 | On | CPU | Active | Passed | A |
| SB7 | On | CPU | Active | Passed | domainC |
| SB8 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB9 | On | CPU | Active | Passed | dmnJ |
| SB10 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB11 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB12 | Off | CPU | Assigned | Unknown | engB |
| SB13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| SB14 | Off | CPU | Assigned | Failed | domainC |
| SB15 | On | CPU | Active | Passed | P |
| SB16 | On | CPU | Active | Passed | domainC |
| SB17 | - | Empty Slot | Assigned | - | dmnR |
| IO0 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO1 | On | HPCI | Active | Passed | A |
| IO2 | On | MCPU | Active | Passed | engB |
| IO3 | On | MCPU | Active | Passed | domainC |
| IO4 | On | HPCI+ | Available | Degraded | domainC |
| IO5 | Off | HPCI+ | Assigned | Unknown | engB |
| IO6 | On | HPCI | Active | Passed | A |
| IO7 | On | HPCI | Active | Passed | dmnJ |
| IO8 | On | WPCI | Active | Passed | Q |
| IO9 | On | HPCI+ | Assigned | iPOST | dmnJ |
| IO10 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO11 | Off | HPCI | Assigned | Failed | engB |
| IO12 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO14 | Off | HPCI+ | Available | Unknown | Isolated |
| IO15 | On | HPCI | Active | Passed | P |
| IO16 | On | HPCI | Assigned | Unknown | Q |
| IO17 | - | Empty Slot | Assigned | - | dmnR |

次の例では、プラットフォーム管理者特権を持っていて、Sun Fire 15K/E25 システム上のドメインを指定した場合の showboards コマンドの出力を示します。出力には、他のドメインに割り当てられているボードは含まれません。

例 2 ドメイン B 用のプラットフォーム管理者用のボードの一覧

```
sc0:sms-user:> showboards -d b
```

| Location | Pwr | Type | Board Status | Test Status | Domain |
|----------|-----|------------|--------------|-------------|----------|
| SB3 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB4 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB5 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB8 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB10 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB11 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB12 | Off | CPU | Assigned | Unknown | engB |
| SB13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO0 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO2 | On | MCPU | Active | Passed | engB |
| IO5 | Off | HPCI+ | Assigned | Unknown | engB |
| IO10 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO11 | Off | HPCI | Assigned | Failed | engB |
| IO12 | On | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO14 | Off | HPCI+ | Available | Unknown | Isolated |

次の例では、プラットフォーム管理者特権を持っていて、Sun Fire 15K/E25K システム上で `-v` オプションを使用した場合の `showboards` コマンドの出力を示します。このコマンドは、すべてのコンポーネントを表示します。ボードが COD ボードの場合には、その旨が `Type` フィールドに示されます。

例 3 `-v` オプションを使用したプラットフォーム管理者用のボードの一覧

```
sc0:sms-user:> showboards -v
```

| Location | Pwr | Type of Board | Board Status | Test Status | Domain |
|----------|-----|---------------|--------------|-------------|--------|
| SC0 | On | SC | Main | - | - |
| SC1 | On | SC | Spare | - | - |
| PS0 | On | PS | - | - | - |
| PS1 | On | PS | - | - | - |
| PS2 | On | PS | - | - | - |
| PS3 | On | PS | - | - | - |
| PS4 | Off | PS | - | - | - |
| PS5 | On | PS | - | - | - |
| FT0 | On | FANTRAY | - | - | - |
| FT1 | On | FANTRAY | - | - | - |
| FT2 | On | FANTRAY | - | - | - |
| FT3 | On | FANTRAY | - | - | - |
| FT4 | On | FANTRAY | - | - | - |
| FT5 | On | FANTRAY | - | - | - |
| FT6 | On | FANTRAY | - | - | - |
| FT7 | On | FANTRAY | - | - | - |
| CS0 | On | CSB | - | - | - |
| CS1 | On | CSB | - | - | - |
| EX0 | - | EXB | - | - | - |
| EX1 | - | EXB | - | - | - |
| EX2 | - | EXB | - | - | - |
| EX3 | - | EXB | - | - | - |

| | | | | | |
|-----------|-----|------------|-----------|----------|----------|
| EX4 | On | EXB | - | - | - |
| EX5 | - | EXB | - | - | - |
| EX6 | On | EXB | - | - | - |
| EX7 | - | EXB | - | - | - |
| EX8 | - | EXB | - | - | - |
| EX9 | - | EXB | - | - | - |
| EX10 | - | EXB | - | - | - |
| EX11 | - | EXB | - | - | - |
| EX12 | Off | EXB | - | - | - |
| EX13 | - | EXB | - | - | - |
| EX14 | - | EXB | - | - | - |
| EX15 | - | EXB | - | - | - |
| EX16 | On | EXB | - | - | - |
| EX17 | - | EXB | - | - | - |
| IO4/C3V0 | On | C3V | - | - | domainC |
| IO4/C5V0 | On | C5V | - | - | domainC |
| IO4/C3V1 | On | C3V | - | - | domainC |
| IO4/C5V1 | On | C5V | - | - | domainC |
| IO6/C3V0 | On | C3V | - | - | A |
| IO6/C5V0 | On | C5V | - | - | A |
| IO6/C3V1 | On | C3V | - | - | A |
| IO6/C5V1 | On | C5V | - | - | A |
| IO9/C3V0 | On | C3V | - | - | dmnJ |
| IO9/C5V0 | On | C3V | - | - | dmnJ |
| IO9/C3V1 | On | C3V | - | - | dmnJ |
| IO9/C3V2 | On | C3V | - | - | dmnJ |
| IO12/C3V0 | Off | Unknown | - | - | engB |
| IO12/C5V0 | Off | Unknown | - | - | engB |
| IO12/C3V1 | Off | Unknown | - | - | engB |
| IO12/C5V1 | Off | Unknown | - | - | engB |
| IO16/C3V0 | On | C3V | Assigned | Unknown | Q |
| IO16/C5V0 | On | C5V | Assigned | Unknown | Q |
| IO16/C3V1 | On | C3V | Assigned | Unknown | Q |
| IO16/C5V1 | On | C5V | Assigned | Unknown | Q |
| SB0 | On | CPU | Active | Passed | domainC |
| SB1 | On | V3CPU | Active | Passed | A |
| SB2 | On | V3CPU | Active | Passed | D |
| SB3 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB4 | On | CPU (COD) | Active | Passed | engB |
| SB5 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB6 | On | CPU (COD) | Active | Passed | A |
| SB7 | On | CPU | Active | Passed | domainC |
| SB8 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB9 | On | CPU | Active | Passed | dmnJ |
| SB10 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB11 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB12 | Off | CPU (COD) | Assigned | Unknown | engB |
| SB13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| SB14 | Off | CPU | Assigned | Failed | domainC |
| SB15 | On | CPU | Active | Passed | P |
| SB16 | On | CPU (COD) | Active | Passed | domainC |
| SB17 | - | Empty Slot | Assigned | - | dmnR |
| IO0 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO1 | On | HPCI | Active | Passed | A |
| IO2 | On | MCPU | Active | Passed | engB |
| IO3 | On | MCPU | Active | Passed | domainC |
| IO4 | On | HPCI | Available | Degraded | domainC |
| IO5 | Off | HPCI+ | Assigned | Unknown | engB |
| IO6 | On | HPCI | Active | Passed | A |
| IO7 | On | HPCI | Active | Passed | dmnJ |

| | | | | | |
|------|-----|------------|-----------|---------|----------|
| IO8 | On | wPCI | Active | Passed | Q |
| IO9 | On | HPCI+ | Assigned | iPOST | dmnJ |
| IO10 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO11 | Off | HPCI | Assigned | Failed | engB |
| IO12 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO14 | Off | HPCI+ | Available | Unknown | Isolated |
| IO15 | On | HPCI | Active | Passes | Isolated |
| IO16 | On | HPCI | Assigned | Unknown | Q |
| IO17 | - | Empty Slot | Assigned | - | dmnR |

次の例では、Sun Fire 15K/E25K システム上でドメイン B、J、R に対するドメイン特権を持っている場合の `showboards` コマンドの出力を示します。`showboards` は、ドメイン B、J、R に `assigned` または `available` なボードの情報を表示します。ほかのドメインに `assigned` されているボードまたはドメイン B、J、R の使用可能構成要素リストに表示されないボードは表示されません。

例 4 ドメイン B、J、R に対する特権を持つドメイン管理者用のボードの一覧

```
sc0:sms-user:> showboards
```

| Location | Pwr | Type | Board Status | Test Status | Domain |
|----------|-----|------------|--------------|-------------|----------|
| SB3 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB4 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB5 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB8 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB9 | On | CPU | Active | Passed | dmnJ |
| SB10 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB11 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB12 | Off | CPU | Assigned | Unknown | engB |
| SB13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| SB17 | - | Empty Slot | Assigned | - | dmnR |
| IO0 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO2 | On | MCPU | Active | Passed | engB |
| IO5 | Off | HPCI+ | Assigned | Unknown | engB |
| IO7 | On | HPCI | Active | Passed | dmnJ |
| IO9 | On | HPCI+ | Assigned | iPOST | dmnJ |
| IO10 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO11 | Off | HPCI | Assigned | Failed | engB |
| IO12 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO14 | Off | HPCI+ | Available | Unknown | Isolated |
| IO17 | - | Empty Slot | Assigned | - | dmnR |

次の例では、Sun Fire 15K/E25K システム上のドメイン B、J、R に対するドメイン特権を持っている場合の `showboards` コマンドの出力を示します。このコマンドは、指定したドメインに `assigned`、または `available` な DCU のボード情報を表示します。他のドメインに `assigned` されている DCU または、指定したドメインの使用可能構成要素リストに表示されない DCU は表示されません。

例 5 ドメイン B 用のドメイン管理者用のボードの一覧

```
sc0:sms-user:> showboards -d b
```

| Location | Pwr | Type | Board Status | Test Status | Domain |
|----------|-----|------------|--------------|-------------|----------|
| ---- | --- | ---- | ----- | ----- | ----- |
| SB3 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB4 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB5 | On | CPU | Active | Passed | engB |
| SB6 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| SB8 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB8 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB10 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB11 | Off | CPU | Available | Unknown | Isolated |
| SB12 | Off | CPU | Assigned | Unknown | engB |
| SB13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO0 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO2 | On | MCPU | Active | Passed | engB |
| IO5 | Off | HPCI+ | Assigned | Unknown | engB |
| IO6 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO10 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO11 | Off | HPCI | Assigned | Failed | engB |
| IO12 | Off | HPCI | Assigned | Unknown | engB |
| IO13 | - | Empty Slot | Available | - | Isolated |
| IO14 | Off | HPCI+ | Available | Unknown | Isolated |

例 6 全ボードのクロックのソースと状態の一覧

```
sc0:sms-user:> showboards -c
```

| Location | Pwr | Current Clock Source | SC0 Clock Status | SC1 Clock Status | Auto-Clock Selection |
|----------|-----|----------------------|------------------|------------------|----------------------|
| ----- | --- | ----- | ----- | ----- | ----- |
| CS0 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |
| CS1 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |
| EX0 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |
| . | | | | | |
| . | | | | | |
| EX15 | Off | - | - | - | - |
| EX16 | Off | - | - | - | - |
| EX17 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |
| SB0 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |
| SB1 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |
| . | | | | | |
| . | | | | | |
| SB17 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |
| IO0 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |
| . | | | | | |
| . | | | | | |
| IO17 | On | SC0 Clock | Good | Good | Disabled |

終了ステータス 次の終了値が返されます。

- | | |
|---|------------------------|
| 0 | 正常に終了しました。 |
| 1 | 不正なドメインが指定されました。 |
| 2 | 不正なコマンド行オプションが指定されました。 |
| 3 | 不正な数のドメインが指定されました。 |
| 4 | ユーザーが有効な特権を持っていません。 |
| 5 | 内部エラーが発生しました。 |
| 6 | ボード情報の取得中にエラーが発生しました。 |

属性 次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |
| Interface Stability | Evolving |
| Command Output | Unstable |

関連項目 addtag(1M)、setupplatform(1M)、showcodusage(1M)、showplatform(1M)

| | |
|-----------|---|
| 名前 | showbus - アクティブドメイン内の拡張ボードのバス構成を表示 |
| 形式 | showbus [-v] showbus -h |
| 機能説明 | showbus(1M) は、アクティブドメイン内の拡張ボードのバス構成を表示します。この情報は、スロット順序 EX0-EX17 で構成を表示するようデフォルト設定されます。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。拡張ボード構成に加えて、ドメイン、ドメインキースイッチ位置、スロット 0 およびスロット 1 ボード割り当てが表示されます。 |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | システム内の通信拡張ボード (SOCX) のすべてのセットを表示するには、プラットフォームの管理者特権、オペレータ特権または保守特権が必要です。 ドメイン管理者または構成者が表示できるのは、自身が特権を持っているドメインに割り当てられている SOCX のみです。 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |

使用例

例 1 全てのドメインに対するバス構成の表示

この表示はプラットフォーム管理者のデフォルトです。ドメイン管理者または構成者は、これを表示するにはすべてのドメインに対する特権を持っている必要があります。それ以外の場合は、ユーザーが特権を持っているドメインのみが表示されません。

```
sc0:sms-user:> showbus
```

| Location | Address | Data | Response | SOCX |
|----------|---------|--------|----------|---------|
| EX0 | CS0 | CS1 | CS0 | 0x0001 |
| EX1 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX2 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX3 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX4 | BOTH | BOTH | BOTH | 0x14010 |
| EX5 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX6 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX7 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX8 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX9 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX10 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX11 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX12 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX13 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX14 | BOTH | BOTH | BOTH | 0x14010 |
| EX15 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |
| EX16 | BOTH | BOTH | BOTH | 0x14010 |
| EX17 | UNCONF | UNCONF | UNCONF | UNCONF |

例 2 -v を使用したすべてのドメインに対する Showbus 表示

```
sc0:sms-user:> showbus -v
-----
SOCX: 0x00002
-----
Address: BOTH
       Data: BOTH
Response: BOTH
-----
Domain:A - - ON/Running OBP
       Location: EX1   SB1: On/active           IO1: On/active
-----
UNCONFIGURED
-----
Domain: B - - OFF/Powered Off
       Location: EX12  SB12: Off/assigned       IO12: Off/assigned
Domain: C - - OFF/Powered Off
       Location: EX10  SB10: Off/assigned       IO10: Off/assigned
-----
UNASSIGNED
-----
Location: EX0   SB0: On/unassigned           IO0: Off/unassigned
Location: EX2   SB2: Off/unassigned          IO2: On/unassigned
Location: EX6   SB6: Off/unassigned          IO6: On/unassigned
Location: EX9   SB9: On/unassigned           IO0: Off/unassigned
Location: EX11  SB11: Off/unassigned         IO11: Off/unassigned
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- >0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

setbus(1M)

| | |
|-----------|---|
| 名前 | showcmdsyc - 現在のコマンド同期リストの表示 |
| 形式 | showcmdsyc [-v] showcmdsyc -h |
| 機能説明 | <p>showcmdsyc は、SC のフェイルオーバー後に再起動する必要があるコマンドまたはスクリプトを判別するためにスペアシステムコントローラ (SC) で使用されるコマンド同期リストを表示します。</p> <p>コマンド同期リストは <i>Descriptor</i>、<i>Identifier</i>、<i>Cmd</i> フォーマットで表示されます。</p> <p><i>Descriptor</i> 特定のスクリプトを表すコマンド同期記述子です。</p> <p><i>Identifier</i> 自動フェイルオーバーが発生した後にスクリプトを新しいメイン SC 上に再開可能なスクリプト内のマーカーポイントを識別します。識別子 -1 は、スクリプトがマーカーポイントを持っていないことを示します。</p> <p><i>Cmd</i> 再開するスクリプトの名前です。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p> 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| 使用例 | <p>例 1 コマンド同期リストの表示</p> <pre>sc0:sms-user:> showcmdsyc DESCRIPTOR IDENTIFIER CMD 0 -1 c1 a1 a2</pre> |

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
 >0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

cancelcmdsync (1M)、initcmdsync (1M)、runcmdsync (1M)、
savecmdsync (1M)

| | |
|-----------|---|
| 名前 | showcodlicense - Capacity on Demand (COD) ライセンスデータベースに登録されている COD RTU (right-to-use) ライセンスの表示 |
| 形式 | showcodlicense [-r] [-v] showcodlicense -h |
| 機能説明 | showcodlicense(1M) は、COD ライセンスデータベースに登録されている COD ライセンスの情報を表示します。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -r ライセンス情報を加工せずに、COD ライセンスデータベース内と同じ形式 (<i>license-signature</i>) で表示します。 -v 冗長。ライセンス情報を、加工した形式と未加工の <i>license-signature</i> 形式の両方で表示します。 |
| 拡張機能説明 | showcodlicense コマンドが表示する COD 情報は次のとおりです。 説明 資源の種類 (プロセッサ) Lic Ver ライセンスのバージョン番号 (常に 01) Expiration なし Count 該当する資源に与えられている RTU ライセンス数 Status 該当する資源のライセンスが有効 (GOOD) か失効している (EXPIRED) かを示します。 Cls サポートされていない階層クラスの値は常に 1 です。 Tier Num サポートされていない階層番号は常に 1 です Req サポートされていない必要な下位ライセンス数は常に 0 です。 |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者グループまたはプラットフォームオペレータグループの特権が必要です。 詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第 2 章「SMS のセキュリティーオプションと管理特権」を参照してください。 |
| 使用例 | COD ライセンス情報の表示例を以下に示します。 |

例 1 ライセンスデータを加工した形式で表示

```
sc0:sms-user:> showcodlicense

      Lic
Description Ver  Expiration  Count  Status  Cls  Tier
-----
PROC         01      NONE       16    GOOD   1    1    0
```

例 2 ライセンスデータを未加工の形式で表示

```
sc0:sms-user:> showcodlicense -r

01:5014936C37048:03001:0201010100:16:00000000:RKQhd8zKNnTwvxT5DJ1ZNQ
```

例 3 ライセンスデータを加工した形式と未加工形式の両方で表示

```
sc0:sms-user:> showcodlicense -v

      Lic
Description Ver  Expiration  Count  Status  Cls  Tier
-----
PROC         01      NONE       16    GOOD   1    1    0
01:5014936C37048:03001:0201010100:16:00000000:RKQhd8zKNnTwvxT5DJ1ZNQ
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 不正な使用方法。
- 2 ユーザーが有効な特権を持っていません。
- >2 内部エラーが発生しました。詳細は、`/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages` を参照してください。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

`addcodlicense(1M)`、`codd(1M)`、`deletcodlicense(1M)`、`showcodusage(1M)`

| | |
|--------|---|
| 名前 | showcodusage - Capacity on Demand (COD) 資源の現在の使用状況統計の表示 |
| 形式 | showcodusage [-v] [-p resource domains] showcodusage -h |
| 機能説明 | showcodusage(1M) は、COD RTU (right-to-use) ライセンスの現在の使用状況に関する情報を表示します。デフォルトでは、使用中およびインストール済みの COD RTU ライセンスの要約が、各資源の現在の状態とともに表示されます。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -p domains ライセンスの使用状況をドメイン別に表示します。表示される統計情報には、ドメインで使用されている COD RTU ライセンス数、ドメインに割り当てられている資源、およびドメインに予約されている COD RTU ライセンス数が含まれます。 -p resource ライセンスの使用状況を資源の種類別に表示します。 -v 冗長。COD の使用状況に関する利用可能な全情報 (システムとそのメインでの COD RTU ライセンスの使用状況を含む) を表示します。 |
| 拡張機能説明 | showcodusage -p resource コマンドが表示するシステムの COD 使用状況情報は次のとおりです。 Resource 利用可能な COD 資源の種類 (プロセッサ) In Use システムで使用されている COD CPU の数 |

| | |
|---|---|
| Installed | システムに取り付けられている COD CPU の数 |
| License | インストール済みの COD RTU ライセンスの数 |
| Status | 次のいずれかの COD 属性 |
| | OK 使用中の COD CPU 数と対比して、十分な数のライセンスが利用できることを示します。追加して利用できる COD 資源の数と、利用可能なインスタントアクセス CPU (ヘッドルーム) の数も示されます。 |
| | HEADROOM 使用中のインスタントアクセス COD CPU の数 |
| | Violation 現在の COD RTU ライセンス違反の数。使用中の COD CPU 数のうち、利用可能な COD RTU ライセンスを超過する部分がライセンス違反になります。COD RTU ライセンスデータベースから COD RTU ライセンスキーを強制的に削除したときに、削除したライセンスに対応する COD RTU の使用をそのまま継続すると、ライセンス違反になる可能性があります。 |
| | |
| showcodusage -p domain コマンドがドメインごとに表示する COD 使用状況情報は次のとおりです。 | |
| Domain/Resource | 各ドメインの COD RTU 資源 (プロセッサ)。Unused と表示されているプロセッサは、ドメインに割り当てられていない COD CPU です。 |
| In Use | ドメインで使用されている COD CPU の数 |
| Installed | ドメインに取り付けられている COD CPU 資源の数 |
| Reserved | ドメインに割り当てられている COD RTU ライセンスの数 |
| Status | -v オプションを指定したときに、次のいずれかの値が表示されます。 |
| | Licensed このドメイン COD CPU は使用中で、対応する COD RTU ライセンスが存在する。 |
| | Unlicensed このドメイン COD CPU は使用されておらず、対応する COD RTU ライセンスは存在しない。 |
| | Unused この COD CPU は使用されていない |

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、またはドメイン管理者のグループ特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

プラットフォーム管理者特権を持つユーザーは、資源とドメインの使用状況サマリーをともに表示できます。ドメイン管理者特権を持つユーザーが表示できるのは、特権を持つドメインの使用状況サマリーと、未使用ライセンスのレポートだけです。

例 1 COD 使用状況の表示 (資源の種類別)

```
sc0:sms-user:> showcodusage -p resource
Resource  In Use  Installed  Licensed  Status
-----  -
PROC      4       4          16       OK: 12 available
```

例 2 COD 使用状況の表示 (ドメイン別)

```
sc0:sms-user:> showcodusage -p domains
Domain/Resource  In Use  Installed  Reserved
-----
A - PROC         0       0          0
B - PROC         0       0          0
C - PROC         0       0          0
D - PROC         4       4          0
E - PROC         0       0          0
F - PROC         0       0          0
G - PROC         0       0          0
H - PROC         0       0          0
I - PROC         0       0          0
J - PROC         0       0          0
K - PROC         0       0          0
L - PROC         0       0          0
M - PROC         0       0          0
N - PROC         0       0          0
O - PROC         0       0          0
P - PROC         0       0          0
Q - PROC         0       0          0
R - PROC         0       0          0
Unused - PROC    0       0          12
```

例3 COD使用状況の表示(資源およびドメイン別)

```

sc0:sms-user:> showcodusage -v
Resource  In Use  Installed  Licensed  Status
-----  -
PROC      4       4          16      OK: 12 available

Domain/Resource  In Use  Installed  Reserved  Status
-----
A - PROC          0       0          0
B - PROC          0       0          0
   SB6 - PROC      0       0
       SB6/P0
       SB6/P1
       SB6/P2
       SB6/P3
C - PROC          0       0          0
   SB12 - PROC     0       0
       SB12/P0
       SB12/P1
       SB12/P2
       SB12/P3
D - PROC          4       4          0
   SB4 - PROC      4       4
       SB4/P0
       SB4/P1
       SB4/P2
       SB4/P3
   SB16 - PROC     4       4
       SB16/P0
       SB16/P1
       SB16/P2
       SB16/P3
E - PROC          0       0          0
F - PROC          0       0          0
G - PROC          0       0          0
H - PROC          0       0          0
I - PROC          0       0          0
J - PROC          0       0          0
K - PROC          0       0          0
L - PROC          0       0          0
M - PROC          0       0          0
N - PROC          0       0          0
O - PROC          0       0          0
P - PROC          0       0          0
Q - PROC          0       0          0
R - PROC          0       0          0
Unused - PROC     0       0          12

```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 ユーザーによる取り消し

- 2 不正な使用方法
- 3 ユーザーが有効な特権を持っていません。
- >3 内部エラーが発生しました。詳細は、`/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages` を参照してください。

属性 次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 `showcodlicense(1M)`、`codd(1M)`

| | |
|-------|---|
| 名前 | showcomponent - コンポーネントのブラックリスト状態の表示 |
| 形式 | showcomponent [-a -d <i>domain_indicator</i>] [-v] [<i>location</i>]... showcomponent -h |
| 機能説明 | <p>showcomponent(1M) は、指定したコンポーネントがプラットフォーム、ドメイン、または ASR ブラックリストファイルにリストされているかどうかを示します。</p> <p>-a または -d オプションのいずれも指定していない場合は、showcomponent はプラットフォームブラックリストを表示します。<i>location</i> が指定されていない場合は、showcomponent では指定したブラックリスト内のすべてのコンポーネントを表示します。</p> <p><i>blacklist</i> は、POST が起動時に使用できないコンポーネントを一覧した内部ファイルです。POST はシステムを起動用に準備する前にブラックリストファイルを読み取り、正常にテストが完了したコンポーネントだけを含むリストを OpenBoot PROM に渡します (ブラックリストに含まれるコンポーネントは除外されます)。</p> <p>SMS は、ドメインボード用、プラットフォームボード用、内部 ASR (自動システム回復) 用にそれぞれ 1 つずつ、合計 3 つのブラックリストをサポートしています。</p> <p>使用方法と、プラットフォームおよびドメインのブラックリストの編集方法については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-a ASR ブラックリストを指定します。</p> <p>-d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p> |

| | |
|-------|---------------------|
| オペランド | 次のオペランドがサポートされています。 |
|-------|---------------------|

location

コンポーネントの場所。次のいずれかの形式で、スラッシュで区切って指定します。

board_loc/proc/bank/logical_bank

board_loc/proc/bank/all_dimms_on_that_bank

board_loc/proc/all_banks_on_that_proc

board_loc/all_banks_on_that_board

board_loc/proc

board_loc

board_loc/procs

board_loc/cassette

board_loc/bus

board_loc/paroli_link

location 引数が複数の場合は、スペースで区切ります。

location 形式は、オプションであり、特定の位置にあるボード上の特定のコンポーネントを指定するために使用されます。

たとえば、*location* が SB5/P0/B1/L1 の場合、

SB5 にあるプロセッサ 0 上のバンク 1 の論理バンク 1 を示します。

location が SB0/PP1 の場合、SB0 にあるプロセッサペア 1 を示します。

location が CS0/ABUS1 の場合、CS0 にあるアドレスバス 1 を示します。

次の *board_loc* 形式が使用できます。

Sun Fire 12K/E20K:

SB(0...8)

IO(0...8)

CS(0|1)

EX(0...8)

Sun Fire 15K/E25K:

SB(0...17)

IO(0...17)

CS(0|1)

EX(0...17)

プロセッサ位置は、単一のプロセッサまたはプロセッサペアを示します。

1枚のCPU/メモリーボードでは、4つのプロセッサが使用できます。ボード上のプロセッサペアは、procs 0と1、およびprocs 2と3です。

MaxCPUには、2つのプロセッサがあります。procs 0と1、およびproc ペア (PP0) が1つのみです。このボードにPP1を使用すると、showcomponent が終了し、エラーメッセージが表示されます。

次のproc形式が使用できます。

P(0...3) PP(0|1)

次のbank形式が使用できます。

B(0|1)

次のlogical_bank形式が使用できます。

L(0|1)

次のall_dimms_on_that_bank形式が使用できます。

D

次のall_banks_on_that_proc形式が使用できます。

B

次のall_banks_on_that_board形式が使用できます。

B

次のparoli_linkの形式が使用できます。

PAR(0|1)

hsPCI アセンブリには、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI* 形式が使用できます。

C(3|5)V(0|1)

hsPCI+ アセンブリには、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI+* 形式が使用できます。

C3V(0|1|2) および C5V0

バス位置には、アドレス、データおよび応答の 3 つがあります。

次の *bus* 形式が使用できます。

ABUS|DBUS|RBUS (0|1)

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。ドメイン特権を持っている場合は、特権を持っているドメインに対してのみこのコマンドを実行することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 SB0 が ASR ブラックリストにあるかどうかの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -a SB0
Component SB0 is disabled: #High Voltage
```

例 2 SB15 (V3CPU) が ASR ブラックリストにあるかどうかの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -a SB15
Component V3CPU at SB15 is NOT disabled in the specified blacklist
```

例 3 SB11 (CPU) が ASR ブラックリストにあるかどうかの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -a SB11
Component CPU at SB11 is disabled in the specified blacklist: # ESMD sensor
read failure 0528.1306.24
```

例 4 ドメイン B 内の 4 つのボード / コンポーネントがブラックリストにある

かどうかの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -dB IO4/PP0 SB5 IO6/C5V0 EX7/ABUS0
Component IO4/PP0 is disabled: #High temp
Component SB5 is disabled: <no reason given>
Component IO6/C5V0 is NOT disabled.
Component EX7/ABUS0 is NOT disabled.
```

例5 ドメイン B 内の IO7 上の論理バンクがブラックリストに登録されている
かどうかの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -dB IO7/P0/B1/L0
Component IO7/P0/B1/L0 is disabled: <no reason given>
```

例6 すべてのプラットフォームブラックリスト掲載コンポーネントの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent
Component SB0 is disabled: #High temp
Component SB3 is disabled:
Component IO2 is disabled. <no reason given>
```

例7 ドメイン B のブラックリストに含まれる全コンポーネントの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -dB
Component IO4/PP0 is disabled: #High temp
Component SB5 is disabled: <no reason given>
```

例8 ASR ブラックリストに含まれる全コンポーネントの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -a
Component SB0 is disabled: #High temp
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

| | |
|--|---------------------------|
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist</code> | esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。 |
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/platform/blacklist</code> | 除外されるプラットフォームコンポーネントの一覧。 |
| <code>/etc/opt/SUNWSMS/config/domain_id/blacklist</code> | 除外されるドメインコンポーネントのリスト |

注 – ASR ブラックリストファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。

属性 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 enablecomponent (1M)、disablecomponent (1M)、esmd (1M)

| | |
|--------|--|
| 名前 | <code>showdatasync</code> - フェイルオーバーに対するシステムコントローラ (SC) のデータ同期状態の表示 |
| 形式 | <code>showdatasync [-l -Q] [-v]</code> <code>showdatasync -h</code> |
| 機能説明 | <code>showdatasync</code> は、メイン SC からスベア SC に適用 (コピー) されたファイルの現在の状態を提供します。データ適用は、スベア SC 上のデータをメイン SC 上のデータと同期して、SC フェイルオーバーが発生した場合にスベア SC がメイン SC とともに最新の状態になっているようにします。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -l 現在のデータ適用リスト内にファイルを一覧表示します。表示される情報の詳細については、「拡張機能説明」の節を参照してください。 -Q 適用のため待ち行列に入れられているファイルを一覧表示します。各ファイル名には、ファイルへの絶対パスが含まれます。 -v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。 |
| 拡張機能説明 | ここでは、 <code>showdatasync</code> コマンドによって表示される情報について説明します。 オプションを <code>showdatasync</code> コマンドとともに指定していない場合は、次の情報が表示されます。 <pre>File Propagation Status: Active File: Queued files:</pre> |

ここで、

| | |
|-------------------------|--|
| File Propagation Status | データ同期の現在の状態を表示します。 |
| Active | データ同期プロセスが使用可能になっていて、正常に機能していることを示します。 |
| Disabled | SC フェイルオーバーが使用不可になっているためにデータ同期プロセスが使用不可になっていることを示します。 |
| Failed | データ同期プロセスがファイルをスペア SC に適用できないことを示します。 |
| Active File | 現在適用されているファイルの絶対パスまたはリンクがアイドル状態であることを示すダッシュ (-) のどちらかを表示します。 |
| Queued files | 適用するファイルで、まだ処理されていないファイルの数を指定します。 |

-l オプションを showdatasync コマンドとともに指定した場合、データ適用リスト内の各エント리는次の形式で表示されます。

| TIME PROPAGATED | INTERVAL | FILE |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| <i>time</i> | <i>interval</i> | <i>filename</i> |

ここで、

| | |
|-----------------|--|
| <i>time</i> | ファイルがメイン SC からスペア SC に適用された最後の時刻を示します。 |
| <i>interval</i> | ファイルの変更をチェックする間隔を分単位で指定します。デフォルトの間隔は 60 分です。 |
| <i>filename</i> | 適用されたファイルの絶対パスと名前を示します。 |

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 データ同期の状態の表示

```
sc0:sms-user:> showdatasync
File Propagation State: ACTIVE
Active File: -
Queued files: 0
```


例 2 データ同期リストの表示

```
sc0:sms-user:> showdatasync -l
TIME PROPAGATED      INTERVAL      FILE
Mar 23 16:00:00      60           /tmp/t1
```

例 3 データ同期キューの表示

```
sc0:sms-user:> showdatasync -Q
FILE
/tmp/t1
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- >0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

setdatasync(1M)

例 3 太平洋標準時でのドメイン A の現在のローカル日付表示

```
sc0:sms-user:> showdate -d a
Domain a: Sat Feb 2 15:33:20 PST 2002
```

例 4 GMT を使用したドメイン A の現在の日付表示

```
sc0:sms-user:> showdate -d a -u
Domain a: Sat Feb 2 23:33:20 GMT 2002
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

>0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag(1M)、setdate(1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | showdevices - システムボードデバイスおよび資源使用状況情報の表示 |
| 形式 | showdevices [-v] [-p bydevice byboard query force] <i>location...</i> showdevices [-v] [-p bydevice byboard] -d <i>domain_indicator</i> showdevices -h |
| 機能説明 | <p>showdevices(1M) は、システムボード上の構成された物理デバイスおよびこれらのデバイスで利用可能な資源を表示します。使用状況情報は、システム資源をアクティブに管理しているアプリケーションおよびサブシステムによって提供されます。管理対象資源のオフライン照会を実行することによってシステムボード DR 操作の予測される影響を表示できます。非管理対象のデバイスはデフォルトでは表示されません。-v オプションを使用する必要があります。</p> <p>showdevices は、1 つ以上の Sun Fire ハイエンドシステムドメインからデバイス情報を収集します。このコマンドでは、dca(1M) をプロキシとして使用してドメインから情報を収集します。</p> |

オプション

次のオプションがサポートされています。

- d *domain_indicator*** 次のいずれかを使ってドメインを指定します。
- domain_id* - ドメインの ID。有効な *domain_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。
- domain_tag* - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。
- h** ヘルプ。使用方法を表示します。
- 注** - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。
- p** 特定のレポートを表示します。
- p に対する有効な引数は次のとおりです。
- | | |
|-----------------|--|
| bydevice | リスト出力はデバイスのタイプ (CPU、メモリー、IO) によってグループ化されます。これはデフォルト設定です。 |
| byboard | リスト出力はシステムボードによってグループ化されます。デフォルトの出力はデバイスのタイプ (CPU、メモリー、IO) でグループ化された表形式です。 |
| query | 出力されるリストには、システムボードの削除の影響予測を照会した結果が表示されません。 |
| force | オフライン照会を強制します。資源消費プログラムは、システム資源の使用を破棄できるかどうかを予測するときに強制セマンティックを適用するよう要求されます。(cfgadm(1M) を参照してください)。 |
- 注** - 引数 query および force は、-d とともに使用することはできません。
- v** すべての I/O デバイスを表示します。管理対象および非管理対象 I/O デバイスの両方が含まれます。管理対象デバイスはアクティブに管理されている資源をエクスポートします。非管理対象デバイスは物理的に構成されていますが、アクティブに管理されている資源をエクスポートしません。非管理対象デバイスの使用状況情報は利用できません。

| | |
|--------|--|
| オペランド | 次のオペランドがサポートされています。 |
| | <p><i>location</i> ボード位置のリストで、スペースで区切ります。複数の <i>location</i> 引数を使用できます。</p> <p>指定できる <i>location</i> の範囲は次のとおりです。</p> <p>Sun Fire 12K/E20K:</p> <p style="padding-left: 40px;">SB(0...8)</p> <p style="padding-left: 40px;">IO(0...8)</p> <p>Sun Fire 15K/E25K:</p> <p style="padding-left: 40px;">SB(0...17)</p> <p style="padding-left: 40px;">IO(0...17)</p> |
| 拡張機能説明 | <i>showdevices</i> のフィールドは次のとおりです。 |
| | <p><i>domain</i> タグまたは識別子</p> <p><i>board</i> ボード識別子</p> |
| | CPU: |
| | <p><i>id</i> プロセッサ ID</p> <p><i>state</i> プロセッサの状態</p> <p><i>speed</i> CPU の周波数 MHz 単位</p> <p><i>ecache</i> CPU キャッシュサイズ MB 単位</p> |
| | メモリー: |
| | <p><i>board mem</i> ボードのメモリーサイズ MB 単位</p> <p><i>perm mem</i> ボード上の再配置不可能メモリー量 MB 単位</p> <p><i>base address</i> ボード上のメモリーのベース物理アドレス</p> <p><i>domain mem</i> システムメモリーサイズ MB 単位</p> <p><i>board</i> ボード識別子</p> |

メモリーの消耗が進行している場合は、次の項目が利用できます。

| | |
|--------------|-----------------------|
| target board | ターゲットボード識別子 |
| deleted | すでに削除されているメモリー量 MB 単位 |
| remaining | 削除可能な残りのメモリー量 MB 単位 |

I/O デバイス :

| | |
|----------|-------------------|
| device | I/O デバイスのインスタンス名 |
| resource | 管理対象資源名 |
| usage | リソース使用状況インスタンスの説明 |
| query | リソースのオフライン照会の結果 |

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、指定したすべてのボードに対するドメイン管理者特権または構成者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 ボード IO1 上のデバイスの表示

```
sc0:sms-user:> showdevices IO1
IO Devices
-----
domain board  device      resource      usage
A      IO1      sd3         /dev/dsk/c0t3d0s0  mounted filesystem "/"
A      IO1      sd3         /dev/dsk/c0t3s0s1  dump device (swap)
A      IO1      sd3         /dev/dsk/c0t3s0s1  swap area
A      IO1      sd3         /dev/dsk/c0t3d0s3  mounted filesystem "/var"
A      IO1      sd3         /var/run          mounted filesystem "/var/run"
```

例 2 SB1 と IO1 上のデバイスの表示

```

sc0:sms-user> showdevices sb1 io1
CPU
---
domain    board  id    state      speed  ecache  usage
B         SB1    32    online     1050   8
B         SB1    33    online     1050   8
B         SB1    34    online     1050   8
B         SB1    35    online     1050   8
B         SB1    36    online     1050   8
B         SB1    37    online     1050   8
B         SB1    38    online     1050   8
B         SB1    39    online     1050   8

Memory
-----
domain    board  board  perm    base      domain
          SB1    mem MB mem MB  address   mem MB
B         SB1    16384  934    0x2000000000 16384

IO Devices
-----
domain    board  device  resource                                usage
B         IO1    ce0     SUNW_network/ce0                        ce0 hosts IP
addresses: 10.1.134.133
B         IO1    sd0     /dev/dsk/c0t0d0s0                        mounted filesystem "/"
B         IO1    sd0     /dev/dsk/c0t0d0s1                        swap area
B         IO1    sd0     /dev/dsk/c0t0d0s1                        dump device (swap)

```

例 3 システムボード IO1 に対するオフライン照会の結果表示

```

sc0:sms-user:> showdevices -p query IO1

Location IO1 - Domain A
=====
IO Devices
-----
device  resource                                query  usage/reason
sd3     /dev/dsk/c0t3d0s0                        fail   mounted filesystem "/"
sd3     /dev/dsk/c0t3s0s1                        fail   dump device (swap)
sd3     /dev/dsk/c0t3s0s1                        fail   swap area
sd3     /dev/dsk/c0t3d0s3                        fail   mounted filesystem "/var"
sd3     /var/run                                  -      mounted filesystem "/var/run"

```

query フィールドは、資源を除去した結果の予測を表示します。マウントされたファイルシステム var をオフラインにするのに失敗した場合は、照会がレイヤーマウントポイント /var/run に達することができなくなります。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 不正なドメインが指定されました。
- 2 不正なオプションなどのコマンド行エラーが検出されました。
- 3 複数のドメインが指定されました。
- 4 pcd との通信中にエラーが発生しました。
- 5 ドメインとの通信中にエラーが発生しました。
- 6 デバイス情報の処理中にエラーが発生しました。
- 7 メモリー割り当ての失敗などの内部エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag (1M)、dca (1M)、pcd (1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | showenvironment - 環境データの表示 |
| 形式 | showenvironment [-d <i>domain_indicator</i> [, <i>domain_indicator</i>]...]...[-p temps volts currents fans powers [,temps volts currents fans powers]..] [-v] showenvironment [-d <i>domain_indicator</i> [, <i>domain_indicator</i>]...]... [-p faults] [-v] showenvironment -h |
| 機能説明 | <p>showenvironment(1M) は、環境データ (温度、電圧など) を表示します。<i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> が指定されている場合、ユーザーがドメイン特権を持っている場合、そのドメインに関係している環境データが表示されます。ドメインが指定されていない場合は、そのユーザーに許可されるすべてのドメインデータが表示されます。</p> <p>注 - ドメイン構成ユニット (DCU) (たとえば、CPU または I/O) のみがドメインに属します。ファントレイ、バルク電源またはその他のボード (<i>exb</i>、<i>csb</i> など) に関連する環境データを表示するには、プラットフォーム特権が必要です。また、温度、電圧、電流、バルク電源状態、およびファントレイ状態について個々のレポートを指定することも、あるいは <i>-p</i> オプションを使用して障害を指定することもできます。<i>-p</i> オプションがない場合は、すべてのレポートが表示されます。</p> |

オプション

次のオプションがサポートされています。

- d *domain_indicator*** 次のいずれかを使ってドメインを指定します。
- domain_id* - ドメインの ID。有効な *domain_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。
- domain_tag* - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。
- h** ヘルプ。使用方法を表示します。
- 注** - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。
- p** 特定のレポートを表示します。レポート引数が複数の場合は、コンマで区切ります。
- 有効なレポートは次のとおりです。
- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| temps | リスト出力は温度によってグループ化され ます。 |
| volts | リスト出力は電圧によってグループ化され ます。 |
| currents | リスト出力は電流によってグループ化され ます。 |
| fans | リスト出力はファンによってグループ化され ます。 |
| powers | リスト出力はバルク電源供給によってグルー プ化されます。 |
- p faults** リスト出力は最適なスレッシュホールド内に収まらないすべてのコンポーネント読み取り値です。
- 注** - faults 引数はその他のレポート引数と一緒に使用されません。
- v** 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。

拡張機能説明

Unit フィールドには、次の 3 つの値の中の 1 つが含まれます。

| | |
|---|------|
| C | 摂氏 |
| V | ボルト |
| A | アンペア |

Status フィールドには、次の 16 の状態のいずれかの値が含まれます。

温度測定値：

| | |
|-----------|------|
| OVERLIMIT | 制限超過 |
| HIGH_CRIT | 危険・高 |
| HIGH_WARN | 警告・高 |
| LOW_CRIT | 危険・低 |
| LOW_WARN | 警告・低 |
| OK | 最適 |
| INVALID | 測定失敗 |

電圧測定値：

| | |
|----------|------|
| HIGH_MAX | 最高 |
| LOW_MIN | 最低 |
| OK | 許容範囲 |
| INVALID | 測定失敗 |

電流測定値：

| | |
|---------|----------------------------------|
| OK | 組み合わせコンポーネントの両方の測定値の違いが許容範囲内である。 |
| BAD | 組み合わせコンポーネントの両方の測定値の違いが許容範囲外である。 |
| INVALID | 測定失敗 |

その他：

| | |
|----------|----------------------|
| ON | 電源投入 |
| OFF | 電源切断 |
| PRESENCE | スロット 1 にホットプラグカードがある |
| FAIL | 障害状態 |
| HIGH | 高速に設定 |
| NORMAL | 標準速度に設定 |

| | |
|---------|---------------------------|
| INVALID | 測定失敗 |
| AGE | 測定時間 |
| UNKNOWN | 電源 / ボードのタイプが unknown である |

必要なグループ特
権

ドメイン管理者特権または構成者特権を持つドメイン情報のみが表示されます。それ以外の場合は、プラットフォームの管理者、オペレータ、または保守特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例 | 例 1 showenvironment の出力

| LOCATION | SENSOR | VALUE | UNIT | AGE | STATUS |
|-----------------|--------------|--------|------|----------|--------|
| SC at SC0 | RIO Temp | 35 | C | 41.3 sec | OK |
| SC at SC0 | IOA Temp | 28 | C | 41.3 sec | OK |
| SC at SC0 | PS0 Temp | 43 | C | 41.3 sec | OK |
| SC at SC0 | PS1 Temp | 37 | C | 41.3 sec | OK |
| SCPER at SCPER0 | AMB 0 Temp | 21 | C | 43.8 sec | OK |
| SCPER at SCPER0 | AMB 1 Temp | 22 | C | 43.8 sec | OK |
| SCPER at SCPER0 | AMB 2 Temp | 22 | C | 43.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 1.5 VDC | 1.48 | V | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 3.3 VDC | 3.28 | V | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 3.3 VDC HK | 3.28 | V | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 5.0 VDC | 4.99 | V | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | +12.0 VDC | 12.03 | V | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | -12.0 VDC | -12.01 | V | 19.8 sec | OK |
| SCPER at SCPER0 | 3.3 VDC HK | 3.30 | V | 19.2 sec | OK |
| SCPER at SCPER0 | 5.0 VDC | 5.02 | V | 19.2 sec | OK |
| SCPER at SCPER0 | +12.0 VDC | 12.48 | V | 19.2 sec | OK |
| SC at SC0 | 1.5 CVT0 VDC | 1.58 | A | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 1.5 CVT1 VDC | 1.66 | A | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 3.3 V_PS0 | 6.29 | A | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 3.3 V_PS1 | 6.44 | A | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 5.0 V_PS0 | 6.34 | A | 19.8 sec | OK |
| SC at SC0 | 5.0 V_PS1 | 6.46 | A | 19.8 sec | OK |
| SC at SC1 | RIO Temp | 33 | C | 41.3 sec | OK |
| SC at SC1 | IOA Temp | 27 | C | 41.3 sec | OK |
| SC at SC1 | PS0 Temp | 37 | C | 41.3 sec | OK |
| SC at SC1 | PS1 Temp | 48 | C | 41.3 sec | OK |
| SC at SC1 | SBBC Temp | 40 | C | 41.3 sec | OK |
| SC at SC1 | CBH Temp | 45 | C | 41.3 sec | OK |
| SCPER at SCPER1 | AMB 0 Temp | 20 | C | 43.8 sec | OK |
| SCPER at SCPER1 | AMB 1 Temp | 20 | C | 43.8 sec | OK |
| SCPER at SCPER1 | AMB 2 Temp | 20 | C | 43.8 sec | OK |
| SC at SC1 | 1.5 VDC | 1.50 | V | 19.4 sec | OK |
| SC at SC1 | 3.3 VDC | 3.26 | V | 19.4 sec | OK |
| SC at SC1 | 3.3 VDC HK | 3.28 | V | 19.4 sec | OK |
| SC at SC1 | 5.0 VDC | 5.12 | V | 19.4 sec | OK |
| SC at SC1 | +12.0 VDC | 12.03 | V | 19.4 sec | OK |
| SC at SC1 | -12.0 VDC | -12.01 | V | 19.4 sec | OK |
| SCPER at SCPER1 | 3.3 VDC HK | 3.30 | V | 19.1 sec | OK |
| SCPER at SCPER1 | 5.0 VDC | 4.99 | V | 19.1 sec | OK |
| SCPER at SCPER1 | +12.0 VDC | 12.03 | V | 19.1 sec | OK |
| SC at SC1 | 1.5 CVT0 VDC | 0.98 | A | 19.5 sec | OK |
| SC at SC1 | 1.5 CVT1 VDC | 0.97 | A | 19.5 sec | OK |
| SC at SC1 | 3.3 V_PS0 | 5.27 | A | 19.5 sec | OK |
| SC at SC1 | 3.3 V_PS1 | 10.69 | A | 19.5 sec | OK |
| SC at SC1 | 5.0 V_PS0 | 4.51 | A | 19.5 sec | OK |
| SC at SC1 | 5.0 V_PS1 | 9.27 | A | 19.5 sec | OK |
| CSB at CS0 | AMB Top Temp | 27 | C | 41.4 sec | OK |
| CSB at CS0 | AMB Bot Temp | 28 | C | 41.4 sec | OK |
| CSB at CS0 | SBBC Temp | 39 | C | 41.4 sec | OK |
| CSB at CS0 | 1.5 VDC | 1.51 | V | 20.0 sec | OK |
| CSB at CS0 | 3.3 VDC | 3.28 | V | 20.0 sec | OK |
| CSB at CS0 | 2.5 VDC | 2.54 | V | 20.0 sec | OK |
| CSB at CS0 | 3.3 VDC HK | 3.28 | V | 20.0 sec | OK |
| CSB at CS1 | AMB Top Temp | 25 | C | 41.3 sec | OK |
| CSB at CS1 | AMB Bot Temp | 26 | C | 41.3 sec | OK |
| CSB at CS1 | 1.5 VDC | 1.51 | V | 19.9 sec | OK |

| | | | | | | |
|-------------|--------------|------|---|------|-----|----|
| CSB at CS1 | 3.3 VDC | 3.30 | V | 19.9 | sec | OK |
| CSB at CS1 | 2.5 VDC | 2.54 | V | 19.9 | sec | OK |
| CSB at CS1 | 3.3 VDC HK | 3.28 | V | 19.9 | sec | OK |
| CP at CP0 | DMX0 Temp | 32 | C | 41.5 | sec | OK |
| CP at CP0 | DMX1 Temp | 30 | C | 41.5 | sec | OK |
| CP at CP0 | DMX3 Temp | 28 | C | 41.5 | sec | OK |
| CP at CP0 | DMX5 Temp | 24 | C | 41.5 | sec | OK |
| CP at CP0 | AMX0 Temp | 32 | C | 41.5 | sec | OK |
| CP at CP0 | AMX1 Temp | 32 | C | 41.5 | sec | OK |
| CP at CP0 | RMX Temp | 32 | C | 41.5 | sec | OK |
| CP at CP0 | DARB Temp | 28 | C | 41.5 | sec | OK |
| CP at CP1 | DMX0 Temp | 30 | C | 41.4 | sec | OK |
| CP at CP1 | DMX1 Temp | 28 | C | 41.4 | sec | OK |
| CP at CP1 | DMX3 Temp | 28 | C | 41.4 | sec | OK |
| CP at CP1 | DMX5 Temp | 26 | C | 41.4 | sec | OK |
| CP at CP1 | AMX0 Temp | 34 | C | 41.4 | sec | OK |
| CP at CP1 | AMX1 Temp | 34 | C | 41.4 | sec | OK |
| CP at CP1 | RMX Temp | 35 | C | 41.4 | sec | OK |
| CP at CP1 | DARB Temp | 30 | C | 41.4 | sec | OK |
| EXB at EX0 | AMB Top Temp | 33 | C | 41.9 | sec | OK |
| EXB at EX0 | AMB Bot Temp | 30 | C | 41.9 | sec | OK |
| EXB at EX0 | SBBC Temp | 44 | C | 41.9 | sec | OK |
| EXB at EX0 | AXQ Temp | 37 | C | 41.9 | sec | OK |
| EXB at EX0 | SDIM Temp | 43 | C | 41.9 | sec | OK |
| EXB at EX0 | SDISC Temp | 43 | C | 41.9 | sec | OK |
| EXB at EX0 | SDISE Temp | 37 | C | 41.9 | sec | OK |
| EXB at EX0 | 1.5 VDC | 1.50 | V | 21.0 | sec | OK |
| EXB at EX0 | 3.3 VDC | 3.28 | V | 21.0 | sec | OK |
| EXB at EX0 | 2.5 VDC | 2.49 | V | 21.0 | sec | OK |
| EXB at EX0 | 3.3 VDC HK | 3.30 | V | 21.0 | sec | OK |
| CPU at SB0 | PROC 0 Temp | 50 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | PROC 1 Temp | 53 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | PROC 2 Temp | 54 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | PROC 3 Temp | 50 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | SDC0 Temp | 66 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | AR0 Temp | 60 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | DX0 Temp | 59 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | DX1 Temp | 58 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | DX2 Temp | 54 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | DX3 Temp | 50 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | SBBC0 Temp | 55 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | SBBC1 Temp | 56 | C | 0.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | 1.5 VDC | 1.51 | V | 23.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | 3.3 VDC | 3.30 | V | 23.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | Core 0 Volt | 1.39 | V | 23.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | Core 1 Volt | 1.40 | V | 23.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | Core 2 Volt | 1.39 | V | 23.1 | sec | OK |
| CPU at SB0 | Core 3 Volt | 1.38 | V | 23.1 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | PS0 Temp | 42 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | PS1 Temp | 34 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | SDC0 Temp | 62 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | AR0 Temp | 57 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | DX0 Temp | 53 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | DX1 Temp | 46 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | SBBC Temp | 35 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | IOA0 Temp | 45 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | IOA1 Temp | 46 | C | 43.8 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 1.5 VDC | 1.49 | V | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 3.3 VDC | 3.30 | V | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 5.0 VDC | 4.99 | V | 22.7 | sec | OK |

| | | | | | | |
|--------------|-----------------|--------|-----|------|-----|----------|
| HPCI at IO0 | +12.0 VDC | 11.88 | V | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | -12.0 VDC | -12.01 | V | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 3.3 VDC HK | 3.30 | V | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 1.5 CVT0 VDC | 1.49 | A | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 1.5 CVT1 VDC | 0.00 | A | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 3.3 V_PSO | 10.25 | A | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 3.3 V_PSI | 10.25 | A | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 5.0 V_PSO | 3.78 | A | 22.7 | sec | OK |
| HPCI at IO0 | 5.0 V_PSI | 3.90 | A | 22.7 | sec | OK |
| Schizo0.0 | Schizo 0 Slot 0 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| Schizo1.0 | Schizo 1 Slot 0 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| Schizo0.1 | Schizo 0 Slot 1 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| Schizo1.1 | Schizo 1 Slot 1 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| EXB at EX1 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| CPU at SB1 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| HPCI at IO1 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| EXB at EX3 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| V3CPU at SB3 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| HPCI at IO3 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| EXB at EX6 | AMB Top Temp | 22 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | AMB Bot Temp | 23 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | SBBC Temp | 36 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | AXQ Temp | 29 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | SDIM Temp | 33 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | SDISC Temp | 35 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | SDISE Temp | 29 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | 1.5 VDC | 1.51 | V | 21.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | 3.3 VDC | 3.32 | V | 21.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | 2.5 VDC | 2.51 | V | 21.1 | sec | OK |
| EXB at EX6 | 3.3 VDC HK | 3.30 | V | 21.1 | sec | OK |
| CPU at SB6 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| MCPU at IO6 | PROC 0 Temp | 31 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | PROC 1 Temp | 31 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | SBBC0 Temp | 32 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | SDC0 Temp | 44 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | AR0 Temp | 39 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | DX0 Temp | 39 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | DX1 Temp | 39 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | DX2 Temp | 38 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | DX3 Temp | 37 | C | 3.5 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | 1.5 VDC | 1.49 | V | 22.8 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | 3.3 VDC | 3.28 | V | 22.8 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | 3.3 VDC HK | 3.28 | V | 22.8 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | Core 0 Volt | 1.38 | V | 22.8 | sec | OK |
| MCPU at IO6 | Core 1 Volt | 1.37 | V | 22.8 | sec | OK |
| EXB at EX7 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| MCPU at IO7 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| EXB at EX8 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| MCPU at IO8 | -- | -- | -- | -- | | OFF |
| EXB at EX9 | AMB Top Temp | 34 | C | 4.2 | sec | OK |
| EXB at EX9 | AMB Bot Temp | 31 | C | 4.2 | sec | OK |
| EXB at EX9 | SBBC Temp | 46 | C | 4.2 | sec | OK |
| EXB at EX9 | AXQ Temp | 36 | C | 4.2 | sec | OK |
| EXB at EX9 | SDIM Temp | 40 | C | 4.2 | sec | OK |
| EXB at EX9 | SDISC Temp | 42 | C | 4.2 | sec | OK |
| EXB at EX9 | SDISE Temp | 36 | C | 4.2 | sec | OK |
| EXB at EX9 | 1.5 VDC | 1.51 | V | 20.9 | sec | OK |
| EXB at EX9 | 3.3 VDC | 3.30 | V | 20.9 | sec | OK |
| EXB at EX9 | 2.5 VDC | 2.49 | V | 20.9 | sec | OK |
| EXB at EX9 | 3.3 VDC HK | 3.28 | V | 20.9 | sec | OK |

| | | | | | | |
|--------------|----------------|--------|-----|------|-----|----------|
| CPU at SB9 | PROC 0 Temp | 39 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | PROC 1 Temp | 41 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | PROC 2 Temp | 43 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | PROC 3 Temp | 41 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | SDC0 Temp | 62 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | AR0 Temp | 56 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | DX0 Temp | 56 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | DX1 Temp | 56 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | DX2 Temp | 53 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | DX3 Temp | 47 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | SBBC0 Temp | 49 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | SBBC1 Temp | 54 | C | 1.0 | sec | OK |
| CPU at SB9 | 1.5 VDC | 1.51 | V | 43.7 | sec | OK |
| CPU at SB9 | 3.3 VDC | 3.34 | V | 43.7 | sec | OK |
| CPU at SB9 | Core 0 Volt | 1.63 | V | 43.7 | sec | OK |
| CPU at SB9 | Core 1 Volt | 1.63 | V | 43.7 | sec | OK |
| CPU at SB9 | Core 2 Volt | 1.62 | V | 43.7 | sec | OK |
| CPU at SB9 | Core 3 Volt | 1.62 | V | 43.7 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | D147#0_0 | 34 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | D147#0_1 | 41 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | D147#0_2 | 33 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | D147#1_0 | 36 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | D147#1_1 | 42 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | D147#1_2 | 39 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | XMITS0 Temp | 37 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | XMITS1 Temp | 49 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | SBBC Temp | 35 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | SDC0 Temp | 58 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | AR0 Temp | 57 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | DX0 Temp | 55 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | DX1 Temp | 48 | C | 9.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 1.5 VDC0 | 1.51 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 2.5 VDC0 | 2.48 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 3.3 VDC0 | 3.28 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 5.0 VDC0 | 5.05 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | +12.0 VDC0 | 12.34 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | -12.0 VDC0 | -12.18 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 3.3 VDC HK0 | 3.32 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 1.5 VDC1 | 1.52 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 2.5 VDC1 | 2.48 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 3.3 VDC1 | 3.28 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 5.0 VDC1 | 5.05 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | +12.0 VDC1 | 12.34 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | -12.0 VDC1 | -12.10 | V | 28.3 | sec | OK |
| HPCI+ at IO9 | 3.3 VDC HK1 | 3.32 | V | 28.3 | sec | OK |
| XMITS0.0 | XMITS 0 Slot 0 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| XMITS1.0 | XMITS 1 Slot 0 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| XMITS0.1 | XMITS 0 Slot 1 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| XMITS1.1 | XMITS 1 Slot 1 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| EXB at EX13 | AMB Top Temp | 22 | C | 42.0 | sec | OK |
| EXB at EX13 | AMB Bot Temp | 23 | C | 42.0 | sec | OK |
| EXB at EX13 | SBBC Temp | 37 | C | 42.0 | sec | OK |
| EXB at EX13 | AXQ Temp | 29 | C | 42.0 | sec | OK |
| EXB at EX13 | SDIM Temp | 33 | C | 42.0 | sec | OK |
| EXB at EX13 | SDISC Temp | 33 | C | 42.0 | sec | OK |
| EXB at EX13 | SDISE Temp | 29 | C | 42.0 | sec | OK |
| EXB at EX13 | 1.5 VDC | 1.50 | V | 20.8 | sec | OK |
| EXB at EX13 | 3.3 VDC | 3.30 | V | 20.8 | sec | OK |
| EXB at EX13 | 2.5 VDC | 2.49 | V | 20.8 | sec | OK |
| EXB at EX13 | 3.3 VDC HK | 3.28 | V | 20.8 | sec | OK |

| | | | | | |
|---------------|-----------------|--------|-----|----------|----------|
| CPU at SB13 | -- | -- | -- | -- | OFF |
| WPCI at IO13 | IOA0 Temp | 26 | C | 43.2 sec | OK |
| WPCI at IO13 | DX0 Temp | 47 | C | 43.2 sec | OK |
| WPCI at IO13 | DX1 Temp | 42 | C | 43.2 sec | OK |
| WPCI at IO13 | SDC Temp | 46 | C | 43.2 sec | OK |
| WPCI at IO13 | SBBC Temp | 33 | C | 43.2 sec | OK |
| WPCI at IO13 | AR Temp | 42 | C | 43.2 sec | OK |
| WPCI at IO13 | WCI0 Temp | 26 | C | 43.2 sec | OK |
| WPCI at IO13 | WCI1 Temp | 26 | C | 43.2 sec | OK |
| WPCI at IO13 | +12 VDC | 12.03 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | -12 VDC | -11.92 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 3.3 HK | 3.28 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 3.3 VDC | 3.28 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 1.5 VDC | 1.49 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 2.5 VDC | 2.47 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 5.0 VDC | 4.96 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 1.5 VDC PAR0 | 1.51 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 1.5 VDC PAR1 | 1.52 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 3.3 VDC PAR0 | 3.26 | V | 22.4 sec | OK |
| WPCI at IO13 | 3.3 VDC PAR1 | 3.24 | V | 22.4 sec | OK |
| Schizo0.0 | Schizo 0 Slot 0 | N/A | N/A | N/A | PRESENCE |
| Schizo0.1 | Schizo 0 Slot 1 | N/A | N/A | N/A | PRESENCE |
| EXB at EX15 | AMB Top Temp | 23 | C | 42.1 sec | OK |
| EXB at EX15 | AMB Bot Temp | 24 | C | 42.1 sec | OK |
| EXB at EX15 | SBBC Temp | 37 | C | 42.1 sec | OK |
| EXB at EX15 | AXQ Temp | 29 | C | 42.1 sec | OK |
| EXB at EX15 | SDIM Temp | 31 | C | 42.1 sec | OK |
| EXB at EX15 | SDISC Temp | 35 | C | 42.1 sec | OK |
| EXB at EX15 | SDISE Temp | 31 | C | 42.1 sec | OK |
| EXB at EX15 | 1.5 VDC | 1.50 | V | 20.8 sec | OK |
| EXB at EX15 | 3.3 VDC | 3.28 | V | 20.8 sec | OK |
| EXB at EX15 | 2.5 VDC | 2.49 | V | 20.8 sec | OK |
| EXB at EX15 | 3.3 VDC HK | 3.36 | V | 20.8 sec | OK |
| CPU at SB15 | -- | -- | -- | -- | OFF |
| HPCI+ at IO15 | D147#0_0 | 25 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | D147#0_1 | 29 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | D147#0_2 | 29 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | D147#1_0 | 28 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | D147#1_1 | 31 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | D147#1_2 | 37 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | XMITS0 Temp | 32 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | XMITS1 Temp | 53 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | SBBC Temp | 30 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | SDC0 Temp | 40 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | AR0 Temp | 36 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | DX0 Temp | 36 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | DX1 Temp | 36 | C | 43.2 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 1.5 VDC0 | 1.51 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 2.5 VDC0 | 2.49 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 3.3 VDC0 | 3.28 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 5.0 VDC0 | 5.02 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | +12.0 VDC0 | 12.34 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | -12.0 VDC0 | -12.26 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 3.3 VDC HK0 | 3.35 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 1.5 VDC1 | 1.52 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 2.5 VDC1 | 2.49 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 3.3 VDC1 | 3.28 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | 5.0 VDC1 | 4.99 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | +12.0 VDC1 | 12.34 | V | 22.3 sec | OK |
| HPCI+ at IO15 | -12.0 VDC1 | -12.18 | V | 22.3 sec | OK |

| | | | | | | |
|---------------|-----------------|--------|-----|------|-----|----------|
| HPCI+ at IO15 | 3.3 VDC HK1 | 3.35 | V | 22.3 | sec | OK |
| XMITS1.0 | XMITS 1 Slot 0 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| XMITS0.1 | XMITS 0 Slot 1 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| XMITS1.1 | XMITS 1 Slot 1 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| EXB at EX16 | AMB Top Temp | 31 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX16 | AMB Bot Temp | 30 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX16 | SBBC Temp | 42 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX16 | AXQ Temp | 37 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX16 | SDIM Temp | 39 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX16 | SDISC Temp | 39 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX16 | SDISE Temp | 39 | C | 42.1 | sec | OK |
| EXB at EX16 | 1.5 VDC | 1.51 | V | 20.7 | sec | OK |
| EXB at EX16 | 3.3 VDC | 3.30 | V | 20.7 | sec | OK |
| EXB at EX16 | 2.5 VDC | 2.51 | V | 20.7 | sec | OK |
| EXB at EX16 | 3.3 VDC HK | 3.28 | V | 20.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | PROC 0 Temp | 51 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | PROC 1 Temp | 54 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | PROC 2 Temp | 56 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | PROC 3 Temp | 53 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | SDC0 Temp | 62 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | AR0 Temp | 56 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | DX0 Temp | 56 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | DX1 Temp | 54 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | DX2 Temp | 54 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | DX3 Temp | 49 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | SBBC0 Temp | 54 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | SBBC1 Temp | 52 | C | 10.7 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | 1.5 VDC | 1.51 | V | 23.4 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | 3.3 VDC | 3.30 | V | 23.4 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | Core 0 Volt | 1.20 | V | 23.4 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | Core 1 Volt | 1.20 | V | 23.4 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | Core 2 Volt | 1.20 | V | 23.4 | sec | OK |
| V3CPU at SB16 | Core 3 Volt | 1.20 | V | 23.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | PS0 Temp | 51 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | PS1 Temp | 37 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | SDC0 Temp | 68 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | AR0 Temp | 64 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | DX0 Temp | 56 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | DX1 Temp | 47 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | SBBC Temp | 38 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | IOA0 Temp | 56 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | IOA1 Temp | 49 | C | 42.4 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 1.5 VDC | 1.49 | V | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 3.3 VDC | 3.28 | V | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 5.0 VDC | 4.96 | V | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | +12.0 VDC | 11.88 | V | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | -12.0 VDC | -12.01 | V | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 3.3 VDC HK | 3.30 | V | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 1.5 CVT0 VDC | 1.49 | A | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 1.5 CVT1 VDC | 0.00 | A | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 3.3 V_PS0 | 10.54 | A | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 3.3 V_PS1 | 10.10 | A | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 5.0 V_PS0 | 4.27 | A | 22.0 | sec | OK |
| HPCI at IO16 | 5.0 V_PS1 | 4.27 | A | 22.0 | sec | OK |
| Schizo0.0 | Schizo 0 Slot 0 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| Schizo1.0 | Schizo 1 Slot 0 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |
| Schizo0.1 | Schizo 0 Slot 1 | N/A | N/A | N/A | | PRESENCE |

FANTRAY POWER SPEED FAN0 FAN1 FAN2 FAN3 FAN4 FAN5

| FT0 | ON | NORMAL | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
|-----|----|--------|----|----|----|----|----|----|
| FT1 | ON | NORMAL | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
| FT2 | ON | NORMAL | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
| FT3 | ON | NORMAL | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
| FT4 | ON | NORMAL | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
| FT5 | ON | NORMAL | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
| FT6 | ON | NORMAL | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
| FT7 | ON | NORMAL | OK | OK | OK | OK | OK | OK |

| POWER | UNIT | AC0 | AC1 | DC0 | DC1 | FAN0 | FAN1 |
|-----------|------|-----|------|-----|-----|------|------|
| PS at PS0 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS1 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS2 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS3 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS4 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS5 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |

| POWER | VALUE | UNIT | STATUS |
|-------------|---------|------|--------|
| PS at PS0 | | | |
| Current0 | 13.94 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 48.60 | V | N/A |
| Power | 677.48 | W | N/A |
| PS at PS1 | | | |
| Current0 | 12.35 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 50.20 | V | N/A |
| Power | 619.97 | W | N/A |
| PS at PS2 | | | |
| Current0 | 14.34 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 49.40 | V | N/A |
| Power | 708.40 | W | N/A |
| PS at PS3 | | | |
| Current0 | 12.35 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 50.20 | V | N/A |
| Power | 619.97 | W | N/A |
| PS at PS4 | | | |
| Current0 | 11.95 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 50.60 | V | N/A |
| Power | 604.67 | W | N/A |
| PS at PS5 | | | |
| Current0 | 13.54 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 50.80 | V | N/A |
| Power | 687.83 | W | N/A |
| Total Power | 3918.32 | W | N/A |

例 2 電源出力の表示

| POWER | UNIT | AC0 | AC1 | DC0 | DC1 | FAN0 | FAN1 |
|-----------|------|-----|------|-----|-----|------|------|
| PS at PS0 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |

| | | | | | | | |
|-----------|----|------|------|----|----|----|----|
| PS at PS1 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS2 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS3 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS4 | OK | FAIL | OK | ON | ON | OK | OK |
| PS at PS5 | OK | OK | FAIL | ON | ON | OK | OK |

| POWER | VALUE | UNIT | STATUS |
|-------------|----------|-------|--------|
| ----- | ----- | ----- | ----- |
| PS at PS0 | | | |
| Current0 | 41.83 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 49.20 | V | N/A |
| Power | 2058.04 | W | N/A |
| PS at PS1 | | | |
| Current0 | 39.84 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 47.01 | V | N/A |
| Power | 1872.88 | W | N/A |
| PS at PS2 | | | |
| Current0 | 39.84 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 48.21 | V | N/A |
| Power | 1920.69 | W | N/A |
| PS at PS3 | | | |
| Current0 | 38.25 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 48.41 | V | N/A |
| Power | 1851.68 | W | N/A |
| PS at PS4 | | | |
| Current0 | 0.00 | A | N/A |
| Current1 | 39.84 | A | N/A |
| 48VDC | 48.60 | V | N/A |
| Power | 1936.22 | W | N/A |
| PS at PS5 | | | |
| Current0 | 41.03 | A | N/A |
| Current1 | 0.00 | A | N/A |
| 48VDC | 48.60 | V | N/A |
| Power | 1994.06 | W | N/A |
| Total Power | 11633.57 | W | N/A |

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 不正なドメインが使用されました。
- 2 不正なコマンド行オプションが使用されました。
- 3 アクセス権が無効です。
- 4 内部エラーが発生しました。

属性 | 次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |
| Interface Stability | Evolving |
| Command Output | Unstable |

関連項目 | addtag(1M)

| | |
|--------|--|
| 名前 | showfailover - システムコントローラ (SC) のフェイルオーバー状態または役割の表示 |
| 形式 | showfailover [-r] [-v] showfailover -h |
| 機能説明 | <p>showfailover (1M) は、SC フェイルオーバーメカニズムの状態を監視できます。このコマンドでは、フェイルオーバーメカニズムの現在の状態を表示します。-r オプションを指定していない場合は、次の情報が表示されます。</p> <pre>SC Failover Status: state</pre> <p>フェイルオーバーメカニズムは、次の 4 つの状態 (ACTIVATING、ACTIVE、DISABLED、FAILED) のいずれかになります。「拡張機能説明」の節を参照してください。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-r SC の役割を MAIN、SPARE または UNKNOWN のいずれかで表示します。</p> <p>-v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p> |
| 拡張機能説明 | <p>フェイルオーバーメカニズム状態は次のとおりです。</p> <p>ACTIVATING フェイルオーバーメカニズムが ACTIVE 状態への移行の準備に入ったことを示します。フェイルオーバーは、すべてのテストにパスし、ファイルの同期が完了した時点でアクティブになります。</p> |

| | |
|----------|---|
| ACTIVE | フェイルオーバーメカニズムが使用可能で正常に機能していることを識別します。 |
| DISABLED | フェイルオーバーメカニズムがフェイルオーバーまたはオペレータの要求によって (たとえば、 <code>setfailover off</code>) 使用不可になっていることを識別します。 |
| FAILED | <p>フェイルオーバーメカニズムがフェイルオーバーを妨げる障害を検出したことを識別します。</p> <p>さらに、外部ネットワークが構成されている場合には、<code>showfailover</code> はフェイルオーバープロセスによって監視された各外部ネットワークインタフェースリンクの状態を表示します。表示形式は次のとおりです。</p> <p><i>external community name:</i> [UP DOWN]</p> <p>障害の状態を記述した障害文字列が返されます。それぞれの障害文字列には、対応するコードがあります。次の表は、各コードと対応する障害文字列の定義を示しています。</p> |

| 文字列 | 説明 |
|--------------------|---|
| None | 障害はありません。 |
| S-SC EXT NET | スペア SC の外部ネットワークインタフェースに障害が発生しました。 |
| S-SC CONSOLE BUS | スペア SC のコンソールバスパスに障害が検出されました。 |
| S-SC LOC CLK | スペア SC のローカルクロックに障害が発生しました。 |
| S-SC DISK FULL | スペア SC のシステムがいっぱいです。 |
| S-SC IS DOWN | スペア SC が停止しているか応答していない。このメッセージが、停止している I2 ネットワーク / HASRAM から戻された場合には、スペア SC は動作している可能性があります。スペア SC にログインして確認してください。 |
| S-SC MEM EXHAUSTED | スペア SC のメモリー / スワップ空間が使い果たされました。 |

| 文字列 | 説明 |
|-------------------------------|---|
| S-SC SMS DAEMON | スペア SC 上で少なくとも 1 つの SMS デーモンが開始または再開できませんでした。 |
| S-SC INCOMPATIBLE SMS VERSION | スペア SC で異なるバージョンの SMS ソフトウェアが動作しています。両方の SC で同じバージョンの SMS を実行する必要があります。 |
| I2 NETWORK/HASRAMS DOWN | SC 間の通信インタフェースが 2 つとも停止しています。スペア SC で動作している SMS のバージョンとその状態が、メイン SC 側で認識できません。メイン SC はスペア SC の停止を宣言し、メッセージをログに出力します。ファイル伝達など、依存するサービスは利用できなくなります。 |

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権、プラットフォームオペレータ特権またはプラットフォーム保守特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 フェイルオーバー状態の表示 (問題が発生していない状態)

```
sc0:sms-user:> showfailover
SC Failover Status: ACTIVE
C1: UP
```

例 2 フェイルオーバー状態の表示 (スペア SC システムのディスクの空きが不足している状態)

```
sc0:sms-user:> showfailover
SC Failover Status: FAILED
S-SC DISK FULL
C1: UP
```

例 3 SC の役割の表示

```
sc0:sms-user:> showfailover -r
SPARE
```

例 4 すべての監視対象コンポーネントのステータスの表示

```
sc0:sms-user:> showfailover -v
SC Failover Status: ACTIVE
Status of Shared Memory:
  HASRAM (CSB at CS0): .....Good
  HASRAM (CSB at CS1): .....Good

Status of xc30p13-sc0:
  Role: .....MAIN
```

```

SMS Daemons: .....Good
System Clock: .....Good
Private I2 Network: .....Good
Private HASRAM Network:.....Good
Public Network.....NOT TESTED
System Memory: .....38.9%
Disk Status:
  /: .....17.4%
Console Bus Status:
  EXB at EX1: .....Good
  EXB at EX2: .....Good
  EXB at EX4: .....Good

Status of xc30p13-scl:
Role: .....SPARE
SMS Daemons: .....Good
System Clock: .....Good
Private I2 Network: .....Good
Private HASRAM Network:.....Good
Public Network: .....NOT TESTED
System Memory: .....34.2%
Disk Status:
  /: .....17.1%
Console Bus Status:
  EXB at EX1: .....Good
  EXB at EX2: .....Good
  EXB at EX4: .....Good

```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```

0           正常に終了しました。
>0         エラーが発生しました。

```

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |
| Interface Stability | Evolving |
| Command Output | Unstable |

関連項目

setfailover(1M)

| | |
|-----------|---|
| 名前 | showkeyswitch - 仮想キースイッチ位置の表示 |
| 形式 | showkeyswitch -d <i>domain_indicator</i> [-v] showkeyswitch -h |
| 機能説明 | showkeyswitch (1M) は、指定したドメインの仮想キースイッチの位置を表示します。各仮想キースイッチの状態はシステムコントローラ (SC) の電源の再投入の間または pcd(1M) による電源供給の物理的電源再投入によって維持されます。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。 <i>domain_id</i> - ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。 <i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。 |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、指定されたドメインに対するプラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |
| 使用例 | 例 1 ドメイン A のキースイッチ状態の表示 sc0:sms-user:> showkeyswitch -d A Virtual keyswitch position: ON |
| 終了ステータス | 次の終了値が返されます。 0 正常に終了しました。 >0 エラーが発生しました。 |

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | addtag (1M)、setkeyswitch (1M)、pcd (1M)

| | |
|-------|---|
| 名前 | showlogs - メッセージログファイルまたはイベントログの表示 |
| 形式 | <p>showlogs [-F] [-f <i>filename</i>] [-d <i>domain_indicator</i>] [-p m c s] [-v]</p> <p>showlogs [-F] [-f <i>filename</i>] [-d <i>domain_indicator</i>] [-E] [-p e [<i>event_class</i> list ereport ena0x<<i>ena_value</i>> uuid<<i>uuid_value</i>> <i>event_code</i>] [<i>number</i>]]</p> <p>showlogs -h</p> |
| 機能説明 | <p>showlogs(1M) は以下を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 指定したオプションに応じ、プラットフォームまたは指定したドメインのメッセージログ、console ログ、または syslog。デフォルトではプラットフォームメッセージログを表示します。デフォルトを実行するにはプラットフォームグループ特権を持っている必要があります。それ以外の場合はエラーメッセージが表示されます。 ■ 指定したオプションに応じたイベントログの一部。 |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p>-p e オプションを使用してドメインを指定する場合、そのドメインに関するイベントログのみが表示されます。</p> <p>-F showlogs コマンドの実行時点からログファイルに追加された行だけを表示します。tail -f コマンドと同様です。出力は Ctrl-C で中断されるまで継続されます。</p> <p>-f <i>filename</i> showlogs コマンドの出力を指定したファイルに配置します。</p> <p>-E -p e オプションで指定されると、イベントログ情報はフォーマットされ、圧縮されます。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> |

-p

プラットフォームメッセージログ、ドメインコンソールログ、ドメイン **syslog**、またはイベントログという特定のログタイプを表示します。

-p に対する有効な引数は次のとおりです。

■ m

プラットフォームメッセージログを表示します。プラットフォームメッセージログを表示するにはプラットフォームグループ特権が必要です。

■ c

ドメインコンソールログを表示します。ドメインコンソールログを表示するには **-d** オプションおよびドメインに対するドメイン特権が必要です。

■ s

ドメイン **syslog** を表示します。ドメイン **syslog** を表示するにはドメインに対するドメイン特権が必要です。システムコントローラ (SC) に転送された **syslog** は、`/var/opt/SUSNWSMS/adm/anonymous` に格納されます。

■ e [*event_class* | *list* | *ereport* | *ena0x*<*ena_value*> | *uuid*<*uuid_value*> | *event_code*] [*number*]

イベントログからの情報を表示します。**-p e** オプションは、表示するイベントの *number* を指定しない場合、デフォルトでイベントログの最後のエントリを表示します。イベントログ情報を表示するには、プラットフォーム管理または保守特権が必要です。

特定のイベントログ情報を表示するために、次の引数を使用できます。この情報は、サービスプロバイダがその他のトラブルシューティングを行うために使用する場合があります。

- *event_class* – 指定した *ereport* イベントクラスに一致するイベントログの最後のイベントを表示します。
event_class は、ドットで区切られた文字列で、エラー報告イベントクラスを識別します
(*ereport.asic.sdc.porterr.parity_bidi_error* など)。
- *list* – イベントログの最後のリストイベントを表示します。リストイベントは、ハードウェアエラーに関連する障害のリストを提供します。
- *ereport* – イベントログの最後のエラーイベントを表示します。エラー報告には、想定外の条件や動作に関するデータが含まれます。
- *ena0x<ena_value>* – 指定された Error Numeric Association (ENA) 16 進値に一致するイベントログのエラーイベントを表示します。ここで、*<ena_value>* は 16 進値です。たとえば、ENA 仕様 *ena0xc4fc168cfe77b402* の場合、16 進値は *c4fc168cfe77b402* です。ENA は、同じエラーイベントの複数のインスタンスを区別します。
- *uuid<uuid_value>* – 指定された Universal Unique Identifier (UUID) 値に一致するイベントログのリストイベントを表示します。ここで、*<uuid_value>* は UUID 値です。たとえば、UUID 仕様 *uuid042c2762-982f-11d7-800a-080020fa6556* の場合、UUID 値は *042c2762-982f-11d7-800a-080020fa6556* です。UUID は、システムが障害管理アクティビティを追跡するために使用します。
- *event_code* – 指定したイベントコードに一致する最後のリストイベントを表示します。イベントコードはダッシュで区切られた英数字テキスト文字列で、一意にイベントタイプを区別します (*SF15000-8000-A1* など)。イベントコードは、リストイベントに関する障害クラスを要約します。また、サービスプロバイダがイベントに関する詳細情報を取得する場合に使用されます。
- *number* – 表示したいイベントの数を指定する整数です。表示されたイベントは、指定されたほかの引数と一致します。*-p e* オプションを使用して数を指定する場合、イベントログ内の指定された数のイベントが表示されます。たとえば、*-p e 5* は、イベントログの最後の 5 個のイベントを表示します。

拡張機能説明

必要なグループ特権

グループ特権によって、表示できる `showlogs` 出力の種類が決まります。

- プラットフォームの管理者特権、オペレータ特権または保守特権を持っている場合は、プラットフォームメッセージログファイルを表示することができます。
- プラットフォームの管理者特権または保守特権を持っている場合は、イベントログ情報を表示することができます。
- ドメイン管理者 / 構成者特権を持っている場合は、特権を持っているドメインのログファイルのみを表示することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 プラットフォームメッセージログを標準出力に表示

```
sc0:sms-user:> showlogs
Aug 24 14:30:53 2000 xc8-sc0 hwad[104609]: [0 5751139758216 ERR SCCSR.cc
1347] getCrt - Client: 104621.14 has locked - 167
Aug 24 14:30:53 2000 xc8-sc0 hwad[104609]: [0 5751170721148 ERR SCCSR.cc
1362] getCrt - Client: 104621.14 about to unlock - 167.....
```

例 2 ドメイン A のメッセージログを標準出力に表示

```
sc0:sms-user:> showlogs -d A
Aug 15 14:28:05 2000 xc8-sc0 dsmd[106850]-A(): [0 8500962546702 INFO
Observers.cc 125] DOMAIN_UP A event has been sent to SYMON, rc = 0.
Aug 15 14:28:05 2000 xc8-sc0 dsmd[106850]-A(): [0 8500963756755 INFO
DomainMon.cc 183] Start monitoring domain A every 5 second....
```

例 3 ドメイン A のメッセージログに新しく追加された行を標準出力に表示

```
sc0:sms-user:> showlogs -d A -F
Aug 25 14:28:05 2000 xc8-sc0 dsmd[106850]-A(): [0 8500960648900 INFO
Observers.c c 193] DOMAIN_UP A event has been sent to DXS, rc = 0.....
```

例 4 ドメイン A のコンソールログを標準出力に表示

```
sc0:sms-user:> showlogs -d A -p c
** Domain Server Shutting Down - disconnecting
** Domain Server Shutting Down - disconnecting
Sun Fire 15K/E25K system, using IOSRAM based Console OpenBoot 4.0, 2048
MB memory installed, Serial #10000000. Ethernet address 8:0:20:b8:2d:b1,
Host ID: 80a3e446.
```


例5 ドメイン sms2 の syslog を標準出力に表示

```
sc0:sms-user:> showlogs -d sms2 -p s
Sep  7 13:51:49 sms2 agent[6629]: [ID 240586 daemon.alert] syslog
Sep  7 13:51:49 agent {received software termination signal)
Sep  7 13:51:49 sms2 agent[6629]: [ID 985882 daemon.alert] syslog
Sep  7 13:51:49 agent *** terminating execution ***
Sep  7 13:51:50 sms2 platform[22481]: [ID 345917 daemon.alert] syslog
Sep  7 13:51:50 platform *** terminating execution ***
Sep  7 14:49:07 sms2 platform[4309]: [ID 745356 daemon.alert] syslog
Sep  7 14:49:07 platform general parsing error
Sep  7 14:49:07 sms2 platform[4309]: [ID 334248 daemon.alert] syslog
Sep  7 14:49:07 platform file://localhost/scmonitor-d.x;flags=ro
Sep  7 14:49:07 sms2 platform[4309]: [ID 449452 daemon.alert] syslog
Sep  7 14:49:07 platform couldn't load file ...
```

例6 イベントログの最後のイベントを表示

```
sc0:sms-user:> showlogs -p e
version: 1
class: list.suspects
fault-diag-time: Mon Jun  6 17:20:15 MDT 2005
DE:
  scheme: diag-engine
  authority:
    product-id: SF15000
    chassis-id: 301AFFFFFF
    domain-id: D
  name: sms-de
  version: 1.5
uuid: 0x147e965ebb5ec
code: SF15000-8000-A1
list-sz: 1
fault-events:
  version: 1
  class: fault.board.io.proc
  fault-diag-time: Mon Jun  6 17:20:15 MDT 2005
  DE:
    scheme: diag-engine
    authority:
      product-id: SF15000
      chassis-id: 301AFFFFFF
      domain-id: D
    name: sms-de
    version: 1.5
  ENA-list-sz: 4
  ENA-list: 0x62a6680600000002
            0x636a74de00000402
            0x6400cd9800000802
            0x64be80d400000c02
  FRU:
    scheme: sf-hc
    part: 5015396
    serial: 445883
    authority:
      product-id: SF15000
      chassis-id: 301AFFFFFF
      domain-id: D
```

```

        component: IO15
resource:
    scheme: sf-hc
    part: 5015396
    serial: 445883
    authority:
        product-id: SF15000
        chassis-id: 301AFFFFF
        domain-id: D
    component: io15/p0
certainty: 100

```

例 7 イベントログの最後のイベントを表示 (要約)

```

sc0:sms-user:> showlogs -E -p e
List Event Class: list.suspects
Diagnosis Engine Name: sms-de
Diagnosis EngineVersion: 1.5
Timestamp: Mon Jun  6 17:20:15 MDT 2004
Code: SF15000-8000-A1

Number of fault events: 1
Fault Event Class: fault.board.io.proc
Fault Event Timestamp: Mon Jun  6 17:20:15 MDT 2005
Domain ID affected by the failure: D
Diagnosis Engine Name: sms-de
Diagnosis Engine Version: 1.5

Indicted resource component: io15/p0
PnSn: 5015396445883

Certainty: 100
FRU: IO15
Part Number Serial Number : 5015396445883

```

例 8 イベントログの最後の3つのリストイベントを表示 (要約)

```

sc0:sms-user:> showlogs -E -p e list 3
List Event Class: list.suspects
Diagnosis Engine Name: sms-de
Diagnosis EngineVersion: 1.5
Timestamp: Mon Jun  6 17:20:15 MDT 2005
Code: SF15000-8000-A1

Number of fault events: 1
Fault Event Class: fault.board.io.proc
Fault Event Timestamp: Mon Jun  6 17:20:15 MDT 2005
Domain ID affected by the failure: D
Diagnosis Engine Name: sms-de
Diagnosis Engine Version: 1.5

Indicted resource component: io15/p0
PnSn: 5015396445883

Certainty: 100
FRU: IO15

```

Part Number Serial Number : 5015396445883

List Event Class: list.suspects
 Diagnosis Engine Name: sms-de
 Diagnosis EngineVersion: 1.5
 Timestamp: Mon Jun 6 13:21:20 MDT 2005
 Code: SF15000-8000-A1

Number of fault events: 1
 Fault Event Class: fault.board.io.proc
 Fault Event Timestamp: Mon Jun 6 13:21:20 MDT 2005
 Domain ID affected by the failure: D
 Diagnosis Engine Name: sms-de
 Diagnosis Engine Version: 1.5

Indicted resource component: io4/p1
 PnSn: 5015397028518

Certainty: 100
 FRU: IO4
 Part Number Serial Number : 5015397028518

List Event Class: list.suspects
 Diagnosis Engine Name: sms-de
 Diagnosis EngineVersion: 1.5
 Timestamp: Mon Jun 6 13:15:18 MDT 2005
 Code: SF15000-8000-A1

Number of fault events: 1
 Fault Event Class: fault.board.io.proc
 Fault Event Timestamp: Mon Jun 6 13:15:18 MDT 2005
 Domain ID affected by the failure: D
 Diagnosis Engine Name: sms-de
 Diagnosis Engine Version: 1.5

Indicted resource component: io17/p1
 PnSn: 5015397028488

Certainty: 100
 FRU: IO17
 Part Number Serial Number : 5015397028488

例9 特定のイベントコードのイベントログを表示 (要約)

```
sc0:sms-user:> showlogs -E -p e SF15000-8000-H7
List Event Class: list.suspects
Diagnosis Engine Name: sms-de
Diagnosis EngineVersion: 1.5
Timestamp: Mon Jun 6 12:28:12 MDT 2005
Code: SF15000-8000-H7
```

Number of fault events: 1
 Fault Event Class: fault.board.sb.proc
 Fault Event Timestamp: Mon Jun 6 12:28:12 MDT 2005
 Domain ID affected by the failure: B
 Diagnosis Engine Name: sms-de
 Diagnosis Engine Version: 1.5

Indicted resource component: sb12/p0

```
PnSn: 5014362008423
Certainty: 100
FRU: SB12
Part Number Serial Number : 5014362008423
```

例 10 ereport (エラーレポート) を表示 (要約)

```
sc0:sms-user:> showlogs -E -p e ereport
Error Event Class:
ereport.asic.proc.emushad.isap:_system_request_parity_error_on_incoming
addr.
Domain ID affected by the failure: D
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```
0          正常に終了しました。
>0        エラーが発生しました。
```

ファイル

次のファイルがサポート使用されます。

| | |
|---|-----------------------------|
| /var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages | プラットフォームメッセージファイル |
| /var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/messages | ドメインメッセージファイル |
| /var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/console | ドメインコンソールファイル |
| /var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/syslog | ドメイン syslog ファイル |
| /var/opt/SUNWSMS/SMS/adm/platform/events/eventlog | すべてのハードウェア関連エラーおよび障害イベントを格納 |

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

tail (1)

| | |
|-----------|--|
| 名前 | showobpparams - ドメインの OpenBoot PROM 起動パラメータの表示 |
| 形式 | showobpparams -d <i>domain_indicator</i> [-v] showobpparams -h |
| 機能説明 | showobpparams (1M) を使用すると、ドメイン管理者は、setkeyswitch (1M) によって OpenBoot PROM に渡される仮想 NVRAM および REBOOT パラメータを表示することができます。- d オプションと <i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> が必要です。 |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。 -d <i>domain_indicator</i> 次のいずれかを使ってドメインを指定します。 <i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。 <i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。 -h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。 -v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。 |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、指定したドメインに対するドメイン管理者または構成者の特権が必要です。 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |
| 使用例 | 例 1 ドメイン A の OpenBoot PROM パラメータの表示 sc0:SMS-user:> showobpparams -d a auto-boot?=false diag-switch?=true fcode-debug?=false use-nvramrc?=false security-mode=none |
| 終了ステータス | 次の終了値が返されます。 0 正常に終了しました。 >0 エラーが発生しました。 |

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | addtag (1M)、setkeyswitch (1M)、setobpparams (1M)



ERROR: unable to get domain board info for %s

このエラーは、showpcimode が、指定された位置の PCI スロットの状態を取得できない場合、または指定されたスロットに対応する I/O ボードを含むドメインを検出できない場合に表示されます。SMS が正常に機能していれば、このエラーは発生しないはずですが。

ERROR: Solaris Access Control Lists is not properly setup for user

このエラーは、指定した位置に対して showpcimode コマンドを実行するために適切なドメイン/プラットフォーム特権を持たない場合に表示されます。

ERROR: an error occurred while processing %s

このエラーは、コマンドに対して内部エラーが発生した場合に表示されます。たとえば、メモリー不足や、その他のタイプの予期しないエラーなどです。SC が正常に機能していれば、このエラーは発生しないはずですが。

ERROR: unable to retrieve PCI mode setting for %s

コマンド行引数に指定された位置に showpcimode コマンドを適用できません。このエラーは、ユーザーが位置としてスロット C5V0 を指定した場合にのみ返されます。

使用例

例 1 1 つの V2HPCIX ボードの設定を表示

```
sc0:sms-user:> showpcimode IO3
```

IO3/C3V0: normal

IO3/C3V1: normal

IO3/C3V2: normal

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

>0 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

esmd(1M)、pcd(1M)、setpcimode(1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | showplatform - プラットフォームタイプ、ボードの使用可能構成要素リスト、各ドメインの状態、および Capacity on Demand (COD) 情報の表示 |
| 形式 | showplatform [-d <i>domain_indicator</i>] [-p <i>report</i>] [-v] showplatform -h |
| 機能説明 | <p>showplatform(1M) コマンドは、プラットフォームタイプ、シャーシのシリアル番号、使用可能構成要素リスト、ドメインの状態、およびドメインの Ethernet アドレスを表示します。COD 情報には、ヘッドルームの数、インストール済みの COD RTU (right-to-use) ライセンス数、およびドメインに予約されている COD RTU ライセンス数が含まれます。<i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> を指定すると、そのドメインに関する情報だけが表示されます。<i>domain_indicator</i> と <i>-p</i> オプションが指定されていない場合は、特権を持つすべてのドメインの使用可能構成要素リスト、ドメイン状態、Ethernet アドレス、および COD 情報が表示されます。</p> <p>プラットフォームタイプについては、ご購入先によって手動更新が行われていないかぎり、旧 Sun Fire 12K/15K システムでは Sun Fire 15000 が表示されます。新しいシステムでは、次に示すタイプのいずれかが表示されます。</p> <p>Sun Fire 12K Sun Fire 15K Sun Fire E20K Sun Fire E25K</p> |

オプション

次のオプションがサポートされています。

- d *domain_indicator*** 次のいずれかを使ってドメインを指定します。
- domain_id* - ドメインの ID。有効な *domain_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。
- domain_tag* - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。
- h** ヘルプ。使用方法を表示します。
- 注** - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。
- p *report*** 特定のレポートを表示します。
- 有効なレポートは次のとおりです。
- | | |
|------------------|---|
| <i>domains</i> | リスト出力はドメインの状態によってグループ化されます。 |
| <i>available</i> | リスト出力はドメインの使用可能構成要素リストによってグループ化されます。 |
| <i>ethernet</i> | リスト出力はドメインの Ethernet アドレスによってグループ化されます。 |
| <i>cod</i> | COD 情報が表示されます。 |
| <i>csn</i> | Sun Fire ハイエンドシステムのシャーシのシリアル番号が表示されます。 |
| <i>platform</i> | プラットフォームタイプとして Sun Fire ハイエンドシステムが表示されます。 |
- v** 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。

拡張機能説明

ドメインの状態は次のいずれかになります。

- | | |
|---------------------|--|
| Unknown | ドメイン状態が判断できませんでした。Ethernet アドレスの場合は、該当するドメインの idprom イメージファイルが存在しないことを示します。ご購入先にご連絡ください。 |
| Powered Off | ドメインの電源が切断されています。 |
| Keyswitch Standby | ドメインのキースイッチが STANDBY 位置になっています。 |
| Running Domain POST | ドメイン電源投入時自己診断が実行中です。 |
| Loading OBP | ドメインの OpenBoot PROM がロードされています。 |

| | |
|-----------------------------|---|
| Booting OBP | ドメインの OpenBoot PROM が起動中です。 |
| Running OBP | ドメインの OpenBoot PROM が実行中です。 |
| In OBP Callback | ドメインが停止され OpenBoot PROM に戻されています。 |
| Loading Solaris | OpenBoot PROM が Solaris ソフトウェアをロードしています。 |
| Booting Solaris | ドメインが Solaris ソフトウェアを起動しています。 |
| Domain Exited OBP | ドメイン OpenBoot PROM が終了しました。 |
| OBP Failed | ドメイン OpenBoot PROM が終了しました。 |
| OBP in sync Callback to OS | OpenBoot PROM が Solaris ソフトウェアに同期コールバックをしています。 |
| Exited OBP | OpenBoot PROM が終了しました。 |
| In OBP Error Reset | ドメインがエラー reset 状態のために OpenBoot PROM になっています。 |
| Solaris Halted, in OBP | Solaris ソフトウェアが停止し、ドメインが OpenBoot PROM になっています。 |
| OBP Debugging | OpenBoot PROM がデバッガとして使用されています。 |
| Environmental Domain Halt | 環境に起因する緊急事態によってドメインがシャットダウンしました。 |
| Booting Solaris Failed | OpenBoot PROM を実行しましたが、起動に失敗しました。 |
| Loading Solaris Failed | OpenBoot PROM を実行しましたが、ロードに失敗しました。 |
| Running Solaris | Solaris ソフトウェアがドメイン上で実行中です。 |
| Solaris Quiesce In-progress | Solaris ソフトウェアが休止されています。 |
| Solaris Quiesced | Solaris ソフトウェアが休止しました。 |
| Solaris Resume In-progress | Solaris ソフトウェアを再開しています。 |
| Solaris Panic | Solaris ソフトウェアがパニックになっています。パニックフローが開始されました。 |
| Solaris Panic Debug | Solaris ソフトウェアがパニックになり、デバッガモードに入っています。 |

| | |
|-------------------------|---|
| Solaris Panic Continue | デバッガモードを終了しパニックフローが継続しています。 |
| Solaris Panic Dump | パニックダンプが開始されました。 |
| Solaris Halt | Solaris ソフトウェアが停止しています。 |
| Solaris Panic Exit | Solaris ソフトウェアがパニックにより終了しました。 |
| Environmental Emergency | 環境的な緊急事態が検出されました。 |
| Debugging Solaris | Solaris ソフトウェアをデバッグしています。ハング状態ではありません。 |
| Solaris Exited | Solaris ソフトウェアが終了しました。 |
| Domain Down | ドメインがダウンしており、キースイッチが setkeyswitch によって ON、DIAG、または SECURE の位置に設定されています。 |
| In Recovery | ドメインで自動システム回復が実行中です。 |

必要なグループ特権

プラットフォームの管理者特権、オペレータ特権または保守特権を持っている場合は、`showplatform` ではすべてのドメインの使用可能構成要素リストおよびボード状態情報を表示します。それ以外の場合は、ドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権を持つドメインの情報のみが表示されます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

注 – 次の例には、Ethernet アドレスが Unknown 状態のドメインが含まれています。この状態は、そのドメインに `idprom` イメージファイルが存在しないことを示します。ご購入先にご連絡ください。

例 1 Sun Fire 15K/E25K システム上のすべてのドメインの使用可能構成要素リスト、ドメイン状態、および COD 情報の表示

次の出力は、プラットフォーム特権を持っている場合の例です。

```
sc0:sms-user:> showplatform

PLATFORM:
=====
Platform Type: Sun Fire 15000

CSN:
====
Chassis Serial Number: 353A00053

COD:
```

```

====
Chassis HostID : 5014936C37048
PROC RTUs installed : 8
PROC Headroom Quantity : 0
PROC RTUs reserved for domain A : 4
PROC RTUs reserved for domain B : 0
PROC RTUs reserved for domain C : 0
PROC RTUs reserved for domain D : 0
PROC RTUs reserved for domain E : 0
PROC RTUs reserved for domain F : 0
PROC RTUs reserved for domain G : 0
PROC RTUs reserved for domain H : 0
PROC RTUs reserved for domain I : 0
PROC RTUs reserved for domain J : 0
PROC RTUs reserved for domain K : 0
PROC RTUs reserved for domain L : 0
PROC RTUs reserved for domain M : 0
PROC RTUs reserved for domain N : 0
PROC RTUs reserved for domain O : 0
PROC RTUs reserved for domain P : 0
PROC RTUs reserved for domain Q : 0
PROC RTUs reserved for domain R : 0

```

Available Component List for Domains:

```

=====
Available for domain newA:
    SB0 SB1 SB2 SB7
    IO1 IO3 IO6
Available for domain engB:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain domainC:
    No System boards
    IO0 IO1 IO2 IO3 IO4
Available for domain eng1:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain E:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain domainF:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain dmnG:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain domain H:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain I:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain dmnJ:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain K:
    No System boards
    No IO boards
Available for domain L:

```

```

                No System boards
                No IO boards
Available for domain M:
                No System boards
                No IO boards
Available for domain N:
                No System boards
                No IO boards
Available for domain O:
                No System boards
                No IO boards
Available for domain P:
                No System boards
                No IO boards
Available for domain Q:
                No System boards
                No IO boards
Available for domain dmnR:
                No System boards
                No IO boards

```

Domain Ethernet Addresses:

```

=====
Domain ID   Domain Tag   Ethernet Address
A           newA        8:0:20:b8:79:e4
B           engB        8:0:20:b4:30:8c
C           domainC    8:0:20:b7:30:b0
D           -          8:0:20:b8:2d:b0
E           eng1       8:0:20:f1:b7:0
F           domainF    8:0:20:be:f8:a4
G           dmnG      8:0:20:b8:29:c8
H           -          8:0:20:f3:5f:14
I           -          8:0:20:be:f5:d0
J           dmnJ      UNKNOWN
K           -          8:0:20:f1:ae:88
L           -          8:0:20:b7:5d:30
M           -          8:0:20:f1:b8:8
N           -          8:0:20:f3:5f:74
O           -          8:0:20:f1:b8:8
P           -          8:0:20:b8:58:64
Q           -          8:0:20:f1:b7:ec
R           dmnR      8:0:20:f1:b7:10

```

Domain Configurations:

```

=====
DomainID   Domain Tag   Solaris Nodename   Domain Status
A           newA        -                  Powered Off
B           engB        sun15-b           Keyswitch Standby
C           domainC    sun15-c           Running OBP
D           -          sun15-d           Running Solaris
E           eng1       sun15-e           Running Solaris
F           domainF    sun15-f           Running Solaris
G           dmnG      sun15-g           Running Solaris
H           -          sun15-g           Solaris Quiesced
I           -          -                  Powered Off
J           dmnJ      -                  Powered Off
K           -          sun15-k           Booting Solaris
L           -          -                  Powered Off

```

| | | | |
|---|------|---------|-------------------|
| M | - | - | Powered Off |
| N | - | sun15-n | Keyswitch Standby |
| O | - | - | Powered Off |
| P | - | sun15-p | Running Solaris |
| Q | - | sun15-q | Running Solaris |
| R | dnmR | sun15-r | Running Solaris |

例 2 ドメイン engB の使用可能構成要素リストおよびドメイン状態の表示

```
sc0:sms-user:> showplatform -d engB

PLATFORM TYPE:
====
Platform Type: Sun Fire 15000

COD:
====
PROC RTUs reserved for domain B : 0

Available Component List for Domains:
=====
Available for domain engB:
          SB4 SB5 SB6
          IO4 IO5

Domain Ethernet Addresses:
=====
Domain ID   Domain Tag   Ethernet Address
B           engB        8:0:20:b4:30:8c

Domain Configurations:
=====
DomainID   Domain Tag   Solaris Nodename   Domain Status
B          engB        sun15-b            Keyswitch Standby
```

例 3 管理者特権を持つドメインの情報の表示

次の例ではドメイン管理者特権または構成者特権を持つすべてのドメイン、この場合はドメイン engB、C、および E の使用可能構成要素リストおよび状態情報を表示します。

```
sc0:sms-user:> showplatform

PLATFORM TYPE
=====
Platform type: Sun Fire 15000

COD:
====
PROC RTUs reserved for domain B : 0
PROC RTUs reserved for domain C : 0
PROC RTUs reserved for domain E : 0

Available Component List for Domains:
=====
Available for domain engB:
      SB1 SB2 SB3 SB4 SB5 SB6
      IO1 IO2 IO3 IO4 IO5 IO6 IO7
Available for domain C:
      SB1 SB2 SB3 SB4 SB5 SB6
      IO1 IO2 IO3 IO4 IO5 IO6 IO7
Available for domain E:
      SB1 SB2 SB3 SB4 SB5 SB6
      IO1 IO2 IO3 IO4 IO5 IO6 IO7

Domain Ethernet Addresses:
=====
Domain ID   Domain Tag   Ethernet Address
B           engB        8:0:20:b4:30:8c
C           domainC     8:0:20:b7:30:b0
E           eng1        8:0:20:f1:b7:0

Domain Configurations:
=====
DomainID   Domain Tag   Solaris Nodename   Domain Status
B          engB        sun15-b           Keyswitch Standby
C          domainC     sun15-c           Running OBP
E          eng1        sun15-e           Running Solaris
```

例 4 ドメイン engB の使用可能構成要素リストの表示

```
sc0:sms-user:> showplatform -d engB -p available

Available Component List for Domains:
=====
Available for domain engB:
      SB4 SB5 SB6
      IO4 IO5
```

例 5 ドメイン engB のドメイン状態の表示

```
sc0:sms-user:> showplatform -d engB -p domains

Domain Configurations:
=====
DomainID   Domain Tag   Solaris Nodename   Domain Status
B          engB        sun15-b           Keyswitch Standby
```

例 6 ドメイン engB に予約された COD RTU (right-to-use) ライセンスの表示

```
sc0:sms-user:> showplatform -d engB -p cod

COD:
====
PROC RTUs reserved for domain B : 0
```

例 7 すべての COD 情報の表示

次の出力は、プラットフォーム特権を持っている場合の例です。Chassis HostID の値が Unknown になる場合、Chassis HostID の値を正しく表示するには、センタープレーンサポートボードに電源を投入してから `showplatform -p cod` コマンドを再実行します。センタープレーンサポートボードに電源を入れた後、1 分ほど待ってから `showplatform` を実行すると、出力に Chassis HostID の情報が表示されます。

```
sc0:sms-user:> showplatform -p cod

COD:
====
Chassis HostID : 5014936C37048
PROC RTUs installed : 8
PROC Headroom Quantity : 0
PROC RTUs reserved for domain A : 4
PROC RTUs reserved for domain B : 0
PROC RTUs reserved for domain C : 0
PROC RTUs reserved for domain D : 0
PROC RTUs reserved for domain E : 0
PROC RTUs reserved for domain F : 0
PROC RTUs reserved for domain G : 0
PROC RTUs reserved for domain H : 0
PROC RTUs reserved for domain I : 0
PROC RTUs reserved for domain J : 0
PROC RTUs reserved for domain K : 0
PROC RTUs reserved for domain L : 0
PROC RTUs reserved for domain M : 0
PROC RTUs reserved for domain N : 0
PROC RTUs reserved for domain O : 0
PROC RTUs reserved for domain P : 0
PROC RTUs reserved for domain Q : 0
PROC RTUs reserved for domain R : 0
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- | | |
|---|---|
| 0 | 正常に終了しました。 |
| 1 | 不正なドメインが指定されました。 |
| 2 | 不正なコマンド行オプションが指定されました。 |
| 3 | 不正な数のドメインが指定されました。 |
| 4 | ユーザーが有効な特権を持っていません。 |
| 5 | プラットフォーム構成デーモン (pcd (1M)) との通信中にエラーが発生しました。 |
| 6 | ハードウェアアクセスデーモン (hwad (1M)) との通信中にエラーが発生しました。 |
| 7 | タスク管理デーモン (tmd (1M)) との通信中にエラーが発生しました。 |
| 8 | 内部エラーが発生しました。 |
| 9 | Capacity on Demand デーモン (codd (1M)) との通信中にエラーが発生しました。 |

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |
| Interface Stability | Evolving |
| Command Output | Unstable |

関連項目

addcodlicense (1M)、addtag (1M)、hwad (1M)、pcd (1M)、
setupplatform (1M)、tmd (1M)

| | |
|-----------|--|
| 名前 | showxirstate - プロセッサにリセットパルスを送信後、CPU ダンプ情報を表示 |
| 形式 | <pre>showxirstate -d domain_indicator [-v] showxirstate -f filename [-v] showxirstate -h</pre> |
| 機能説明 | <p>showxirstate(1M) は CPU ダンプ情報を表示します。ただし、(reset -x コマンドにより) リセットパルスを送信したあとに限ります。この保存状態ダンプは、異常なドメイン動作の原因を解析するために使用できます。</p> <p>showxirstate は、ドメイン内のすべてのアクティブプロセッサのリストを作成し、各プロセッサの保存状態情報 (シグニチャーを含む) を取得します。</p> <p>domain_indicator または filename が指定されていない場合、showxirstate はエラーを返します。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d domain_indicator 次のいずれかを使ってドメインを指定します。</p> <p><i>domain_id</i> - ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>domain_tag</i> - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。</p> <p>-f filename 以前に生成された xir_dump を含むファイルの名前。デフォルトは /var/opt/SUNWSMS/adm/<i>domain_id</i>/dump で、変更することはできません。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、指定したドメインに対するドメイン管理者特権が必要です。xir_dump ファイルの読み取りには特別な特権は必要ありません。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| 使用例 | <p>例 1 1 つの CPU を持つドメイン A のダンプ情報の表示</p> <pre>sc0:sms-user:> showxirstate -dA</pre> <p>Location: SB4/P0</p> |

```

XIR Magic   XIR Version 00415645 Buglevel 00000000

XIR Save Total Size 0x58495253 bytes

ver       : 00000000.00000000
tba       : 00000000.00000000

pil       : 0x0
y         : 00000000.00000000
afsr      : 00000000.00000000  afar       : 00000000.00000000
pcontext: 00000000.00000000  scontext: 00000000.00000000
dcu       : 00000000.00000000
dcr       : 00000000.00000000
pcr       : 00000000.00000000
gsr       : 00000000.00000000
softint   : 0x0000
pa_watch  : 00000000.00000000
va_watch  : 00000000.00000000
instbp    : 00000000.00000000
tick:     00000000.00000000  tick_cmpr: 00000000.00000000
stick:    00000000.00000000  stick_cmpr: 00000000.00000000
tl: 0

tt      tstate      tpc      tnpc
0x00   0x0000000000  00000000.00000000  00000000.00000000
0x00   0x0000000000  00000000.00000000  00000000.00000000
0x00   0x0000000000  00000000.00000000  00000000.00000000
0x00   0x0000000000  00000000.00000000  00000000.00000000
0x00   0x0000000000  00000000.00000000  00000000.00000000

Globals:
R Normal      Alternate      Interrupt      MMU
0 00000000.00000000  00000000.00000000  00000000.00000000
00000000.00000000
1 00000000.00000000  00000000.00000000  00000000.00000000
00000000.00000000
2 00000000.00000000  00000000.00000000  00000000.00000000
00000000.00000000
3 00000000.00000000  00000000.00000000  00000000.00000000
00000000.00000000
4 00000000.00000000  00000000.00000000  00000000.00000000
00000000.00000000
5 00000000.00000000  00000000.00000000  00000000.00000000
00000000.00000000
6 00000000.00000000  00000000.00000000  00000000.00000000
00000000.00000000
7 00000000.00000000  00000000.00000000  00000000.00000000
00000000.00000000

wstate: 0x00
cansave: 0  cleanwin: 0
canrestore: 0  otherwin: 0

Register Windows:
Window 0
R Locals      Ins
0 00000000.00000000  00000000.00000000
1 00000000.00000000  00000000.00000000
2 00000000.00000000  00000000.00000000
3 00000000.00000000  00000000.00000000
4 00000000.00000000  00000000.00000000

```

```

5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000

```

Window 1

```

R Locals          Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000

```

Window 2

```

R Locals          Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000

```

Window 3

```

R Locals          Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000

```

Window 4

```

R Locals          Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000

```

Window 5

```

R Locals          Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000

```

```

5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000

```

Window 6

```
R Locals          Ins
```

```

0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000

```

Window 7

```
R Locals          Ins
```

```

0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000

```

```

nest_save_ptr: 00000000
XIR Nest Version 00000000 Buglevel 00000000
XIR Nest nest_count 0 save_block 88

```

```

tick: 00000000.00000000
stick: 00000000.00000000

```

tl: 73

| tt | tstate | tpc | tnpc |
|------|----------------|-------------------|-------------------|
| 0x00 | 0x000000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 0x00 | 0x000000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 0x00 | 0x000000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 0x00 | 0x000000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 0x00 | 0x000000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |

Processor signatures:

```

SB0/P0: Solaris/Run/Null (4f530100)
SB0/P1: Solaris/Run/Null (4f530100)
SB0/P2: Solaris/Run/Null (4f530100)
SB0/P3: Solaris/Run/Null (4f530100)
IO0/P0: Solaris/Run/Null (4f530100)
IO0/P1: Solaris/Run/Null (4f530100)
SB1/P0: OBP/???/Null (4f421300)
SB1/P1: Solaris/Run/Null (4f530100)
SB1/P2: OBP/Exit/Error Reset Reboot (4f420209)
SB1/p3: Solaris/Run/Null (4f530100)
IO1/P0: Solaris/Run/Null (4f530100)
IO1/P1: Solaris/Run/Null (4f530100)

```

終了ステータス 次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

属性 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 reset (1M)

| | |
|-------|--|
| 名前 | smsbackup - SMS 環境のバックアップ |
| 形式 | smsbackup <i>directory_name</i> smsbackup -h |
| 機能説明 | <p>smsbackup (1M) は、SMS の運用環境を維持するファイルの <code>cpio (1)</code> アーカイブを作成します。完全かつ正確なバックアップを作成するには、<code>smsbackup</code> を実行する前に SMS を停止してください。SMS を手動で起動および停止する方法については、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。</p> <p>メイン SMS 環境が、たとえば、ドメインのシャットダウンなどで変更されたときには、<code>smsbackup</code> をもう一度実行してシステムコントローラ用の現在のバックアップファイルを維持する必要があります。</p> <p>バックアップファイルの名前は <code>sms_backup.XX.cpio</code> です。XX はバックアップが行われたアクティブなバージョンを示します。</p> <p>SMS バックアップファイルを <code>smsrestore (1M)</code> コマンドを使用して復元します。</p> <p>エラーが発生した場合、<code>smsbackup</code> は <code>/var/sadm/system/logs</code> が存在する場合には <code>/var/sadm/system/logs/smsbackup</code> に、存在しない場合には <code>/var/tmp</code> にエラーメッセージを書き込みます。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> |

| | |
|-----------|--|
| オペランド | 次のオペランドがサポートされています。 |
| | <p><i>directory_name</i> バックアップファイルが作成されるディレクトリの名前。使用しているシステムやネットワーク上の他のシステム、またはテープデバイス上で、読み取りと書き込みの両方が可能な任意のディレクトリを指定できます。<i>directory_name</i> の指定を省略すると、バックアップファイルは <code>/var/tmp</code> に作成されます。<i>directory_name</i> は、ファイルの絶対パス名を必要としません。</p> <p>指定された <i>directory_name</i> は UFS ファイルシステムとしてマウントされる必要があります。TMPFS ファイルシステムを <code>/tmp</code> のように指定すると、<code>smsbackup</code> が失敗します。<i>directory_name</i> に指定するディレクトリが UFS ファイルシステムとしてマウントされているかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。</p> <pre data-bbox="589 616 1041 642">/usr/bin/df -F ufs <i>directory_name</i></pre> <p>UFS ファイルシステムからディレクトリ情報が返されます。その他のタイプのファイルシステムでは、警告が返されます。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。 |
| | 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 |
| 使用例 | <p>例 1 <code>/var/opt/SUNWSMS/bkup</code> への SMS のバックアップ</p> <pre data-bbox="378 1024 1011 1050">sc0:sms-user:> smsbackup /var/opt/SUNWSMS/bkup</pre> |
| | <p>例 2 テープデバイス 0 への SMS のバックアップ</p> <pre data-bbox="378 1145 837 1171">sc0:sms-user:> smsbackup /dev/rmt/0</pre> |
| | <p>例 3 TMPFS システムへの SMS のバックアップ</p> <pre data-bbox="378 1267 1011 1388">sc0:sms-user:> smsbackup /tmp ERROR: smsbackup fails to backup to /tmp, a TMPFS file system.Please specify a directory that is mounted on a UFS file system. ABORT:</pre> |
| 終了ステータス | 次の終了値が返されます。 |
| | 0 正常に終了しました。 |
| | >0 エラーが発生しました。 |

ファイル | このコマンドでは次のファイルが使用されます

/var/sadm/system/logs/smsbackup smsbackup ログファイル

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | smsrestore (1M)

| | |
|------|---|
| 名前 | <code>smsconfig</code> - SMS 環境の構成 |
| 形式 | <p><code>smsconfig -m</code></p> <p><code>smsconfig -m I1 [domain_id sc netmask]</code></p> <p><code>smsconfig -m I2 [sc0 sc1 netmask]</code></p> <p><code>smsconfig -m L</code></p> <p><code>smsconfig -g</code></p> <p><code>smsconfig -a -u username -G platform_role platform</code></p> <p><code>smsconfig -r -u username -G platform_role platform</code></p> <p><code>smsconfig -a -u username -G domain_role domain_id</code></p> <p><code>smsconfig -r -u username -G domain_role domain_id</code></p> <p><code>smsconfig -l domain_id</code></p> <p><code>smsconfig -l platform</code></p> <p><code>smsconfig -v</code></p> <p><code>smsconfig -h</code></p> |
| 機能説明 | <p><code>smsconfig(1M)</code> は、ネットワーク管理、セキュリティー、およびユーザーグループ特権という SMS 環境の 3 つの領域を構成します。</p> <p><code>smsconfig</code> は、MAN デーモン (<code>mand (1M)</code>) で使用されるホスト名および IP アドレス設定を構成および変更します。<code>smsconfig</code> はネットワークごとに、ネットワーク内のインタフェース指定を 1 つまたは複数、個別に設定できます。デフォルトでは、<code>smsconfig</code> は内部ネットワークと外部コミュニティーネットワークの両方の構成を一度に実行します。</p> <p>注 - MAN ネットワークを構成したり、構成を変更した場合、新しい構成を反映するにはシステムコントローラ (SC) を再起動する必要があります。</p> <p>個々のネットワークを構成するには、コマンド行に <code>net_id</code> を付加します。管理ネットワーク <code>net_id</code> は、I1、I2、および L が指定されます。エンタープライズネットワーク内の単一の <code>interface</code> を目的の <code>interface</code> と <code>net_id</code> の両方を指定することによって構成します。一方の SC で <code>smsconfig -m</code> を使ってネットワーク構成に変更を加えた場合には、もう一方の SC にも必ず同じ変更を加えてください。ネットワーク構成が、他方の SC に自動的に反映されることはありません。</p> <p>セキュリティー上の理由によって、SMS は起動時に適切な <code>ndd</code> ユーティリティー変数を設定し、転送、ブロードキャスト、およびマルチキャストを無効化します。</p> <p><code>smsconfig</code> は、SMS によって使用される UNIX グループを構成してユーザー特権を記述します。SMS では、各 SC にローカルにインストールされたデフォルトの</p> |

UNIX グループセットを使用します。smsconfig を使用すると、-g オプションを使用してこれらのグループをカスタマイズできます。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。

smsconfig は、ユーザーを SMS グループに追加してドメインおよびプラットフォーム管理特権を構成します。smsconfig は、アクセス制御リスト (ACL) 属性を SMS ディレクトリに設定します。

注 - /etc/group SMS ファイルエントリを手動で編集してユーザーを追加または削除しないでください。ユーザーアクセスに障害が発生します。

オプション

次のオプションがサポートされています。

- a ユーザーを SMS グループに追加して、ドメインまたはプラットフォームディレクトリへの読み取り、書き込みおよび実行アクセス権を指定します。有効な *username*、SMS グループおよび該当する場合は *domain_id* を指定する必要があります。
- G SMS グループを指定します。大文字と小文字を区別する必要はありません。
- g SMS によって使用される UNIX グループを構成してユーザー特権を記述します。
- h ヘルプ。使用方法を表示します。

注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。
- l 指定した SMS ドメインまたは *platform* へのアクセス権を持つすべてのユーザーをリストします。
- m すべてのエンタープライズネットワークおよび外部コミュニティ用のすべてのインタフェースを構成します。
- m I1 エンタープライズネットワーク I1 用のすべてのインタフェースを構成します。ネットワーク指定は大文字と小文字を区別しません。MAN *hostname* を NONE に指定すれば、特定のドメインを I1 ネットワーク構成から除外できます。この方法による除外は I1 ネットワークのみで有効です。
- m I2 エンタープライズネットワーク I2 用のすべてのインタフェースを構成します。ネットワーク指定は大文字と小文字を区別しません。
- m L 外部コミュニティネットワーク用のすべてのインタフェースを構成します。ネットワーク指定は大文字と小文字を区別しません。

- r ユーザーを SMS グループから削除して、ドメインまたはプラットフォームディレクトリへの読み取り、書き込みおよび実行アクセス権を取り消します。有効な *username*、SMS グループおよび該当する場合は *domain_id* を指定する必要があります。
- s このインタフェースは非推奨扱いとなっています。現在、*rsh/ssh* は必要ありません。
- u *username* ユーザーのログイン名を示します。
- v ネットワーク構成を表示します。

オペランド 次のオペランドがサポートされています。

- domain_id* ドメインの ID。有効な *domain_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。
- domain_role* *domain_role* の有効値は次のとおりです。
admn
rcfg
- platform* Sun Fire ハイエンドプラットフォームおよびプラットフォーム専用ディレクトリを指定します。プラットフォーム名は英字で始まる 15 文字以内の文字列とし、数字、英字、および「-」記号を使用できます。(RFC-921 に準拠する必要があります。) プラットフォーム名は、内部ネットワークインタフェースのホスト名のデフォルトの接頭語として使用されます。次の使用例 1 で、プラットフォーム名は *sun15* です。
- platform_role* *platform_role* の有効値は次のとおりです。
admn
oper
svc
- SC0, SC1 Sun Fire ハイエンドシステム SC 用のインタフェース指定。インタフェース指定は大文字と小文字を区別しません。
- netmask* IP アドレスのネットワーク部分をマスキング (ブロック) して、アドレスのホストコンピュータ部分だけを利用するための 32 ビット長の数値。ネットマスクは通常、10 進数の数値として表されます。たとえば、255.255.255.0 はクラス C サブネットの一般的なネットマスクです。*netmask* の値の大文字と小文字は区別されません。

拡張機能説明

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

MAN ネットワークの設定

MAN ネットワーク内のすべてのインタフェースを構成する必要があります。この例では、IPv4 を使用した 3 つすべてのエンタープライズネットワークを設定するために必要なすべてのプロンプトを示します。

注意 - 次に記載の IP アドレスは、一例にすぎません。使用するネットワークで有効な IP アドレスについては、『Sun Fire システムサイト計画の手引き』を参照してください。特定の状況のもとでは、無効なネットワーク IP アドレスを使用すると、システムが起動できなくなる場合があります。

IPv6 ネットワークの例は若干異なり、netmasks と /etc/ipnodes のプロンプトが表示されず、/etc/hosts の部分も変更されています。

CP1500 ボードでは、コミュニティ C1 に対するデフォルトの NIC は hme0 と eri1 です。CP2140 ボードでは、eri0 と eri3 です。CP2140 ボードには hme デバイスはありません。フェイルオーバー、hme0、eri0、eri1 および eri3 での外部ネットワークの IP アドレスは、各 SC で一意である必要があります。浮動 IP アドレスは、各 SC で同じです。

デフォルトでは、I1 ネットワーク設定はそのネットワーク用に入力されたベースネットワークアドレスから派生されます。MAN *hostname* を NONE に指定すれば、特定のドメインを I1 ネットワーク構成から除外できます。例 4 を参照してください。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。

MAN ネットワークがすでに設定されている場合は、必ず SC を再起動してください。

例 1 MAN ネットワークの構成

```
sc0:# smsconfig -m
The platform name identifies the entire host machine to the SMS software.
The platform name occupies a different name space than domain names
(hostnames of bootable systems).

What is the name of the platform this SMS will service? sun15

Configuring the External Network for Community C1

Do you want to define this Community?[y,n] y
Two network interfaces controllers (NICs) are required for IPMP network
failover.
Enter NICs associated with community C1 [hme0 eri1]: [Return]

Enter hostname for hme0 [sun15-sc0-hme0]: [Return]
Enter IP address for sun15-sc0-hme0: 10.1.1.52

Enter hostname for eri1 [sun15-sc0-eri1]: [Return]
Enter IP address for sun15-sc0-eri1: 10.1.1.53

The Logical/Floating IP hostname and address will "float" over to
whichever system controller (SC0 or SC1) is acting as the main SC.
```


Enter Logical/Floating IP hostname for community C1 [sun15-sc-C1]:

[Return]

Enter IP address for sun15-sc-C1: **10.1.1.50**

Enter Netmask for community C1: **255.255.255.0**

Enter hostname for community C1 failover address [sun15-sc0-C1-failover]: **[Return]**

Enter IP address for sun15-sc0-C1-failover: **10.1.1.51**

| Hostname | IP Address (platform=sun15) |
|-----------------------|-----------------------------|
| ----- | ----- |
| sun15-sc-C1 | 10.1.1.50 |
| sun15-sc0-C1-failover | 10.1.1.51 |
| sun15-sc0-eri0 | 10.1.1.52 |
| sun15-sc0-eri3 | 10.1.1.53 |

Do you want to:

- 1) Accept these network settings.
- 2) Edit these network settings.
- 3) Delete these network settings and go onto the next community?[y,n] **y**

Configuring the External Network for Community C2

Do you want to define this Community?[y,n] **n**

Configuring I1 Management Network - 'I1' is the Domain to SC MAN.

MAN I1 Network Identification

Enter the IP network number (base address) for the I1 network: **10.2.1.0**

Enter the netmask for the I1 MAN network [255.255.255.224]: **[Return]**

| Hostname | IP Address | platform=sun15) |
|-------------|-----------------|-----------------|
| ----- | ----- | |
| netmask-i1 | 255.255.255.224 | |
| sun15-sc-i1 | 10.2.1.1 | |
| sun15-a | 10.2.1.2 | |
| sun15-b | 10.2.1.3 | |
| sun15-c | 10.2.1.4 | |
| sun15-d | 10.2.1.5 | |
| sun15-e | 10.2.1.6 | |
| sun15-f | 10.2.1.7 | |
| sun15-g | 10.2.1.8 | |
| sun15-h | 10.2.1.9 | |
| sun15-i | 10.2.1.10 | |
| sun15-j | 10.2.1.11 | |
| sun15-k | 10.2.1.12 | |
| sun15-l | 10.2.1.13 | |
| sun15-m | 10.2.1.14 | |
| sun15-n | 10.2.1.15 | |
| sun15-o | 10.2.1.16 | |
| sun15-p | 10.2.1.17 | |
| sun15-q | 10.2.1.18 | |
| sun15-r | 10.2.1.19 | |

Do you want to accept these network settings?[y,n] **y**

Configuring I2 Management Network - 'I2' is for SC to SC MAN.

MAN I2 Network Identification

Enter the IP network number (base address) for the I2 network: **10.3.1.0**

Enter the netmask for the I2 MAN network [255.255.255.252]: **[Return]**

```

Hostname          IP Address(platform=sun15)
-----          -
netmask-i2       255.255.255.252
sun15-sc0-i2     10.3.1.1
sun15-sc1-i2     10.3.1.2

```

Do you want to accept these settings?[y,n] **y**
 Creating /.rhosts to facilitate file propagation ... done.

MAN Network configuration modified!
 Changes will take effect on next reboot.

The following changes are about to be applied to the "/etc/hosts" hosts file.

```

-----
ADD: 10.2.1.2    sun15-a #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.3    sun15-b #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.4    sun15-c #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.5    sun15-d #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.6    sun15-e #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.7    sun15-f #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.8    sun15-g #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.9    sun15-h #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.10   sun15-i #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.11   sun15-j #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.12   sun15-k #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.13   sun15-l #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.14   sun15-m #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.15   sun15-n #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.16   sun15-o #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.17   sun15-p #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.18   sun15-q #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.19   sun15-r #smsconfig-entry#
ADD: 10.2.1.1    sun15-sc-i1 #smsconfig-entry#
ADD: 10.1.1.50   sun15-sc-C1 #smsconfig-entry#
ADD: 10.1.1.51   sun15-sc0-C1-failover #smsconfig-entry#
ADD: 10.1.1.52   sun15-sc0-hme0 #smsconfig-entry#
ADD: 10.1.1.53   sun15-sc0-eril #smsconfig-entry#
ADD: 10.3.1.1    sun15-sc0-i2 #smsconfig-entry#
ADD: 10.3.1.2    sun15-sc1-i2 #smsconfig-entry#

```

Update the hosts file, "/etc/hosts", with these changes?[y,n] **y**
 Hosts file "/etc/hosts" has been updated.

The following information is about to be applied to the "/etc/netmasks" file.

```

-----
ADD network: 10.1.1.50, mask: 255.255.255.0
ADD network: 10.2.1.0, mask: 255.255.255.224
ADD network: 10.3.1.0, mask: 255.255.255.252

```

Update the netmasks file, "/etc/netmasks", with these changes?[y,n] **y**
 Netmasks file "/etc/netmasks" has been updated.
 smsconfig complete.Log file is /var/sadm/system/logs/smsconfig
 sc#

例2 I2 ネットワークの構成

```

sc0: # smsconfig -m I2
Configuring I2 Management Network - 'I2' is for SC to SC MAN
Which System Controller are you configuring [choose 0 or 1]: 0.
Hostname          IP Address (platform=sun15)
-----
netmask-i2        255.255.255.252
sun15-sc0-i2      10.3.1.1
sun15-sc1-i2      10.3.1.2
Do you want to accept these network settings? [y,n] n
MAN I2 Network Identification
Enter the IP network number (base address) for the I2 network: 172.16.0.0
Enter the netmask for the I2 MAN network [ 255.255.255.252 ]: [Return]
Hostname          IP Address (platform=sun15)
-----
netmask-i2        255.255.255.252
sun15-sc0-i2      172.16.0.1
sun15-sc1-i2      172.16.0.2
Do you want to accept these network settings? [y,n] y
Creating /.rhosts to facilitate file propagation ... done.

MAN Network configuration modified!
Changes will take effect on the next reboot.
The following changes are about to be applied to the "/etc/hosts" hosts
file.
-----
ADD: 172.16.0.1    sun15-sc0-i2 #smsconfig-entry#
ADD: 172.16.0.2    sun15-sc1-i2 #smsconfig-entry#
-----
Update the hosts file, "/etc/hosts". with these changes [y,n] y
Hosts file "/etc/hosts" has been updated.

The following information is about to be applied to the "/etc/netmasks"
file.
-----
ADD network: 172.16.0.0, mask: 255.255.255.252
-----
Update the netmasks file, "/etc/netmasks", with these changes? [y,n] y
Netmasks file "/etc/netmasks" has been updated.

sc#

```

例 3 SC から I1 ネットワーク上のドメイン B での内部ホスト名および IP アドレスの構成

```
sc0: # smsconfig -m I1 B

Enter the MAN hostname for DB-I1 [ sun15-b ]: domainB-i1
I could not automatically determine the IP address of domainB-i1.

Please enter the IP address of domainB-i1: 10.2.1.20

You should make sure that this host/IP address is set up properly in the
/etc/inet/hosts file or in your local name service system.

Network: I1 (DB-I1)  Hostname: domainB-i1  IP Address: 10.2.1.20

Do you want to accept these settings?[y,n] y

Creating /.rhosts to facilitate file propagation ... done.

MAN Network configuration modified!
Changes will take effect on the next reboot.

The following changes are about to be applied to the "/etc/hosts" hosts
file.
-----
ADD: 10.2.1.20    domainB-i1 #smsconfig-entry#
-----
Update the hosts file, "/etc/hosts", with these changes?[y,n] y
Hosts file "/etc/hosts" has been updated.

sc#
```

例 4 ドメイン D を I1 ネットワークから除外する

ドメインを除外すると、そのドメイン上の SC から DR 操作 (rcfgadm) を行なうことはできなくなります。ただし、そのドメイン自体への DR 操作 (cfgadm) は可能です。詳細については、『Sun Fire ハイエンドシステム Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーマニュアル』を参照してください。

```
sc0: # smsconfig -m I1 D
Enter the MAN hostname for DB-I1 [ sun15-b ]: NONE
Network: I1 (DB-I1)
Hostname: NONE  IP Address: None

Do you want to accept these settings?[y,n] y

Creating /.rhosts to facilitate file propagation ... done.

sc#
```

例5 デフォルト以外のグループの構成

この例では、すべてのドメイン管理者グループとドメイン再構成グループがデフォルトグループのままになります。

```
sc0: # smsconfig -g
1) Edit current configuration
2) Restore default groups
3) Quit
```

Select one of the above options: 1

NOTE: In order to configure a new group the group must already exist.

The Platform Administrator group has configuration control, a means to get environmental status, the ability to assign boards to domains, power control and other generic service processor functions.

Enter the name of the Platform Administrator group [platadmn]? zeus

The Platform Operator group has a subset of the platform privileges, limited generally to platform power control and platform status.

Enter the name of the Platform Operator group [platoper]? poseidon

The Platform Service group possesses platform service command privileges in addition to limited platform control and platform configuration status privileges

Enter the name of the Platform Service group [platsvc]? kronos

The Domain Administrator group possesses domain control and status, and console access privileges (for the respective domain), but does not possess platform wide control or platform resource allocation privileges.

Enter the name of the Domain A Administrator group [dmnaadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain B Administrator group [dmnbadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain C Administrator group [dmncadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain D Administrator group [dmndadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain E Administrator group [dmneadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain F Administrator group [dmnfadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain G Administrator group [dmngadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain H Administrator group [dmnhadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain I Administrator group [dmniadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain J Administrator group [dmnjadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain K Administrator group [dmnkadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain L Administrator group [dmnladmn]?[Return]

Enter the name of the Domain M Administrator group [dmnmadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain N Administrator group [dmnnadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain O Administrator group [dmnoadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain P Administrator group [dmnpadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain Q Administrator group [dmnqadmn]?[Return]

Enter the name of the Domain R Administrator group [dmnradmn]?[Return]

The Domain Reconfiguration group possesses a subset of the Domain Administration group privileges. This group has no domain control other than board power and reconfiguration (for the respective domain).

```

Enter the name of the Domain A Reconfiguration group [dmnarcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain B Reconfiguration group [dmnbrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain C Reconfiguration group [dmncrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain D Reconfiguration group [dmndrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain E Reconfiguration group [dmnercfg]?[Return]
Enter the name of the Domain F Reconfiguration group [dmnfrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain G Reconfiguration group [dmngrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain H Reconfiguration group [dmnhrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain I Reconfiguration group [dmnircfg]?[Return]
Enter the name of the Domain J Reconfiguration group [dmnjrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain K Reconfiguration group [dmnkrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain L Reconfiguration group [dmnlrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain M Reconfiguration group [dmnmrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain N Reconfiguration group [dmnnrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain O Reconfiguration group [dmnorcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain P Reconfiguration group [dmnprcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain Q Reconfiguration group [dmnqrcfg]?[Return]
Enter the name of the Domain R Reconfiguration group [dmnrrcfg]?[Return]

```

Configuration complete.

Select one of the above options:

- 1) Edit current configuration
- 2) Restore default groups
- 3) Quit

Select one of the above options: 3

sc#

例6 ネットワーク構成の表示

```

sc0: # smsconfig -v
NETWORK CONFIGURATION

```

Platform name: xc

Internal I1 Management Network - Used for Domain to SC communication

```

MAN I1 SC Hostname: sun15-sc-i1
MAN I1 SC IP Address: 192.168.103.1
MAN I1 Network Mask: 255.255.255.224

```

| Domain | Hostname | IP Address |
|---------|----------|----------------|
| sun15-a | | 192.168.103.2 |
| sun15-b | | 192.168.103.3 |
| sun15-c | | 192.168.103.4 |
| sun15-d | | 192.168.103.5 |
| sun15-e | | 192.168.103.6 |
| sun15-f | | 192.168.103.7 |
| sun15-g | | 192.168.103.8 |
| sun15-h | | 192.168.103.9 |
| sun15-i | | 192.168.103.10 |
| sun15-j | | 192.168.103.11 |
| sun15-k | | 192.168.103.12 |
| sun15-l | | 192.168.103.13 |
| sun15-m | | 192.168.103.14 |
| sun15-n | | 192.168.103.15 |

```

sun15-o 192.168.103.16
sun15-p 192.168.103.17
sun15-q 192.168.103.18
sun15-r 192.168.103.19

```

Internal I2 Management Network - Used for SC to SC communication

MAN I2 Network Mask: 255.255.255.252

```

      SC Hostname      IP Address
-----
sun15-sc0-i2 192.168.103.33
sun15-sc1-i2 192.168.103.34

```

No External Network Configured.

```

Fri Jun  3 11:00:47 PDT 2005
smsconfig complete.

```

例7 ドメイン管理者グループへのユーザーの追加とドメインBディレクトリへのアクセス権の構成

有効なユーザー名と有効な SMS グループおよびドメインを指定する必要があります。

```

sc0: # smsconfig -a -u fdjones -G admn B
fdjones has been added to the dmnBadmn group.
All privileges to domain B have been applied.

```

例8 ドメイン構成者グループへのユーザーの追加とドメインCディレクトリへのアクセス権の構成

有効なユーザー名と有効な SMS グループおよびドメインを指定する必要があります。

```

sc0: # smsconfig -a -u fdjones -G rcfg C
fdjones has been added to the dmnCrcfg group.
All privileges to domain C have been applied.

```

例9 プラットフォームディレクトリへのアクセス権の構成

有効なユーザー名と有効な SMS グループおよびプラットフォームを指定する必要があります。

```

sc0: # smsconfig -a -u jtd -G svc platform
jtd has been added to the platsvc group.
All privileges to the platform have been applied.

```

例 10 ドメイン C ディレクトリへのアクセス権を持つユーザーの表示

```
sc0: # smsconfig -l C
fdjones
shea
```

例 11 プラットフォームディレクトリへのアクセス権を持つユーザーの表示

```
sc0: # smsconfig -l platform
fdjones
jtd
```

例 12 ドメイン C のディレクトリへのユーザーアクセス権の削除

有効なユーザー名と有効な SMS グループを指定する必要があります。ユーザーが同じドメインへのアクセス権を持つ複数のグループに属している場合は、ディレクトリアクセスが拒否される前に、そのユーザーをすべてのグループから削除する必要があります。

```
sc0: # smsconfig -r -u fdjones -G rcfg C
fdjones has been removed from the dmnCrcfg group.
fdjones belongs to the dmnCadmn group
Access to domain C remains unchanged.
```

```
sc0: # smsconfig -r -u fdjones -G admn C
fdjones has been removed from the dmnCadmn group.
All access to domain C is now denied.
```

例 13 無効なグループ名を使用した構成

有効な SMS グループを指定する必要があります。

```
sc0: # smsconfig -a -u fdjones -G staff D
ERROR: group staff does not exist
ABORTING.
```

例 14 グループと指定の組み合わせ

正しい領域指定とともにグループ名を指定する必要があります。admн グループは、どちらの指定でも機能します。

```
sc0: # smsconfig -a -u fdjones -G rcfg platform
ERROR: group rcfg cannot access the platform
ABORTING.
```



```
sc0: # smsconfig -a -u fdjones -G oper D
ERROR: group oper cannot access a domain
ABORTING.
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

ファイル

次の構成ファイルが必要です。

/etc/hostname.scman0 MAN Ethernet インタフェースファイル
/etc/hostname.scman1 MAN Ethernet インタフェースファイル
/etc/opt/SUNWSMS/config/MAN.cf MAN デーモン構成ファイル

注 - MAN.cf は、内部 SMS システムファイルであり、Sun の担当者以外は変更してはなりません。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |
| Interface Stability | Evolving |

関連項目

mand(1M)、nnd(1M)、scp(1)

| | |
|-------|---|
| 名前 | smsconnectsc - 遠隔 SC コンソールへのアクセス |
| 形式 | smsconnectsc [-y n] smsconnectsc -h |
| 機能説明 | <p>smsconnectsc は、停止した遠隔 SC にアクセスするためにローカル SC から遠隔 tip コンソールセッションを作成します。</p> <p>smsconnectsc は、ローカル SC にログインした際に、ローカル SC のポート B を遠隔 SC の RS-232 ポート A に接続するビットを有効化します。遠隔 SC は、停止中の SC です。いったん tty 接続が有効になると、smsconnectsc は、遠隔 SC に対する tip コンソールセッションを呼び出します。tip コンソールセッションを使用して、遠隔 SC で必要な処理を行うことができます。</p> <p>smsconnectsc が実行されるのは、遠隔 SC への外部接続が行われていない場合です。遠隔 SC からポート A への外部接続がアクティブである場合、smsconnectsc は失敗して、セッションが通常ハングアップします。終了するには、~. と入力します。</p> <p>作業が終わった後、セッションを終了させる方法は、ローカル SC に telnet と rlogin のどちらを使ってログインしたかによって、いくつかに分かれます。「拡張機能説明」の節を参照してください。</p> <p>システムコントローラに対する永続的なコンソール接続として smsconnectsc を使用することは、お勧めできません。このコマンドの使用は、外部コンソール接続に何か問題がある場合だけにとどめるべきです。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-n すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。</p> <p>-y すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。</p> |

拡張機能説明

使用法

smsconnectsc によって開始された tip コンソールウィンドウでは、行の先頭のチルド (~) は、tip コンソールで次のアクションを指示するエスケープ記号と解釈されます。

~. tip セッションが切断されます。

ローカル SC との telnet セッションを確立している場合、このように入力すると tip セッションは切断されますが、ローカル SC にはログインしたままです。

ローカル SC との rlogin セッションを確立している場合には、このように入力すると tip セッションだけでなく、rlogin セッションも切断されます。

注 - チルドは、ピリオドを入力するまでは画面に表示されません。

~~. tip セッションが切断されます。

~~. は rlogin にのみ適用されます。ローカル SC との telnet セッションを確立している場合には、次のエラーメッセージが表示されます。

```
~.: Command not found
```

ローカル SC との rlogin セッションを確立している場合、このように入力すると tip セッションは切断されますが、ローカル SC にはログインしたままです。

注 - 画面には最初のチルド (~) は表示されません。また、2 つめのチルドも、ピリオドを入力するまで表示されません。

rlogin は、チルドが新しい行の先頭に表示されている場合でも、**チルド - エスケープ**のシーケンスを処理します。行の先頭でチルドシーケンスを送信する必要があり、rlogin を使用する場合は、2 つのチルド (最初のチルドはエスケープで、2 番めは rlogin に対するチルド) を使用します。もう 1 つの方法としては、rlogin の実行中に、行の先頭にチルドを入力しないようにします。kill -9 コマンドを使用してコンソールセッションを終了すると、smsconnectsc コマンドが実行されたウィンドウまたは端末は、raw モードになり、ハングしたように見えます。このような状況を回避するには、次のように入力します。

```
sc#:sms-user:> CTRL-j
sc#:sms-user:> stty sane
sc#:sms-user:> CTRL-j
```

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例 | 例 1 ローカル SC から停止した遠隔 SC へ遠隔接続する

次の例では、ローカル SC を sc1、遠隔 SC を sc0 とします。ローカル SC に、プラットフォーム管理者としてログインします。

```
sc1:sms-user:> smsconnectsc
TTY connection is OFF.About to connect to other SC.
Do you want to continue (yes/no)? y
connected
sc0:sms-user:>
```

終了ステータス | 次の終了値が返されます。

```
0                    正常に終了しました。
>0                   エラーが発生しました。
```

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | rlogin(1M)、tip(1M)

| | |
|-----------|--|
| 名前 | smsinstall - SMS 環境のインストール |
| 形式 | smsinstall <i>directory_name</i> smsinstall -p smsinstall -h |
| 機能説明 | <p>smsinstall(1M) は、メインまたはスペアの SMS システムコントローラ (SC) に SMS パッケージをインストールします。このコマンドは、システム上に SMS の旧バージョンが存在しない場合に使用します。SMS の旧バージョンがインストールされている状態でこのコマンドを実行すると、コマンドは終了し、エラーメッセージが戻ります。</p> <p>smsinstall コマンドは、インストール後自動的に SC を強化します。このコマンドで SMS をインストールする方法については、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。</p> <p>smsinstall を製品ディレクトリ (<i>/download_directory/</i>System_Management_Services_1_6/Tools) から実行していない場合は、絶対パスを使用してください。</p> <p>エラーが発生すると、smsinstall はエラーメッセージを <i>/var/sadm/system/logs/smsinstall</i> に書き込みます。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-p 追加パッケージのインストールのみを実行します。</p> |
| オペランド | <p>次のオペランドがサポートされています。</p> <p><i>directory_name</i> SMS パッケージを含むディレクトリのパス。</p> <p>製品ディレクトリ <i>directory_name</i> のデフォルトパスは <i>/download_directory/System_Management_Services_1_6/Product</i> です。<i>download_directory</i> は Web からダウンロードしたファイルの保存先のディレクトリです。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |

使用例

例 1 Web からの SMS のインストール

```

sc#:sms-user:> download_directory/System_Management_Services_1_6/
Tools/smsinstall download_directory/System_Management_Services_1_6/
Product
Checking if Solaris Security Toolkit is already installed.
Installing Solaris Security Toolkit package SUNWjass
Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

Installation of <SUNWjass> was successful.
Installing Solaris Security Toolkit package SUNBEfixm

Installation of <SUNBEfixm> was successful.
Installing Solaris Security Toolkit package SUNBEmd5

Installation of <SUNBEmd5> was successful.
Solaris Security Toolkit packages installed successfully.
Installing SMS packages.Please wait. . .
pkgadd -n -d "../Product" -a /tmp/smsinstall.admin.24308 SUNWscdvr.u
SUNWSMSr SUNWSMSop SUNWSMSdf SUNWSMSjh SUNWSMSlp SUNWSMSmn SUNWSMSob
SUNWSMSod SUNWSMSpd SUNWSMSpo SUNWSMSpp SUNWSMSsu SUNWufrx.u SUNWufu
SUNWwccmn
Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

Installation of <SUNWscdvr> was successful.
[...]
Verifying that all SMS packages are installed.OK
Setting up /etc/init.d/sms run control script for SMS 1.6
Setting up /etc/init.d/zoedsms run control script for SMS 1.6
/etc/opt/SUNWSMS/SMS1.5/startup/zoedsms.

Attempting to restart daemon picld
/etc/init.d/picld stop
/etc/init.d/picld start
Running Solaris Security Toolkit 4.2.0 hardening on System Controller.
[NOTE] The following prompt can be disabled by setting JASS_NOVICE_USER
to 0.
[WARN] Depending on how the Solaris Security Toolkit is configured, it is
both possible and likely that by default all remote shell and file transfer
access to this system will be disabled upon reboot effectively locking out
any user without console access to the system.

Are you sure that you want to continue?(YES/NO) [YES]
[NOTE] Executing driver, sunfire_15k_sc-secure.driver
Solaris Security Toolkit hardening step executed successfully on the
System Controller but it will not take effect until the next reboot.
Before rebooting, please make sure SSH or the serial line is setup for use
after the reboot.
smsinstallcomplete.Log file is /var/sadm/system/logs/smsinstall.

```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```

0           正常に終了しました。
>0         エラーが発生しました。

```

ファイル | このコマンドでは次のファイルが使用されます

/var/sadm/system/logs/smsinstall smsinstall ログファイル

属性 | 次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |
| Interface Stability | Evolving |

関連項目 | smsconfig(1M)、smsupgrade(1M)

『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』

| | |
|-----------|---|
| 名前 | smsrestore - SMS 環境の復元 |
| 形式 | smsrestore <i>filename</i> smsrestore -h |
| 機能説明 | <p>smsrestore (1M) は、SMS の操作環境を smsbackup (1M) によって作成されたバックアップファイルから復元します。smsrestore を使用して、SMS ソフトウェアが新しいディスクにインストールされた後に SMS 環境を復元します。</p> <p>smsrestore を実行する前に、フェイルオーバーを無効にして SMS を停止します。実行が完了すれば、SMS を起動してフェイルオーバーを有効に戻すことができます。SMS を手動で起動および停止する方法については、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。</p> <p>エラーが発生した場合は、smsrestore がエラーメッセージを /var/sadm/system/logs/smsrestore に書き込みます。</p> <p>注 - メイン SMS 環境が、たとえば、ドメインのシャットダウンなどでバックアップファイルの作成後に変更された場合、システムコントローラ用の現在のバックアップファイルを維持するには smsbackup (1M) をもう一度実行する必要があります。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> |
| オペランド | <p>次のオペランドがサポートされています。</p> <p><i>filename</i> smsbackup (1M) によって作成されたバックアップファイルの名前です。指定されたファイルが現在のディレクトリにない場合は、<i>filename</i> にはファイルのフルパスを含んでいる必要があります。使用しているシステムやネットワーク上のほかのシステム、またはテープデバイス上のあらゆる場所にあるファイルを指定できます。<i>filename</i> が指定されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。</p> |
| 拡張機能説明 | |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。</p> <p>詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』の第 2 章「SMS のセキュリティーオプションと管理特権」を参照してください。</p> |

| | |
|-------|---|
| 名前 | smsupgrade - SMS ソフトウェアを最新バージョンにアップグレードします。 |
| 形式 | smsupgrade [-b] [-r] <i>directory_name</i> smsupgrade -p smsupgrade -h |
| 機能説明 | <p>smsupgrade (1M) は、メインまたはスペアの SMS システムコントローラ (SC) 上の SMS ソフトウェアをアップグレードします。このコマンドで SMS をアップグレードする方法については、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。</p> <p>SC 上の Solaris 10 OS は SMS 1.6 でのみサポートされています。SC 上で Solaris 10 OS を実行している場合は、SMS のバージョンを 1.4.1 または 1.5 から SMS 1.6 にアップグレードしてください。SMS 1.6 から別の SMS バージョンにダウングレードするには、先に SC に Solaris 9 OS を再インストールする必要があります。この制限は、ドメイン上の Solaris 10 OS には適用されません。</p> <p>smsupgrade を Product 以外のディレクトリから実行するときには、絶対パスを使用する必要があります。絶対パスは、<i>download_directory/System_Management_Services_1_6/Product</i> です。<i>download_directory</i> は Web からダウンロードしたファイルの保存先のディレクトリです。</p> <p>エラーが発生すると、smsupgrade はエラーメッセージを <i>/var/sadm/system/logs/smsupgrade</i> に書き込みます。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-b smsbackup (1M) と smsrestore (1M) のどちらも実行されません。 デフォルトでは、SMS のアップグレード前に smsbackup が実行され、<i>/var/tmp</i> ディレクトリにファイルがバックアップされます。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。 注 - 単一で使用します。-h に追加で指定されたオプションは無視されます。</p> <p>-p 追加パッケージのインストールのみを実行します。smsbackup や smsrestore は実行されません。</p> <p>-r アップグレード後に smsrestore (1M) を実行しません。 デフォルトでは、SMS のアップグレード後に smsrestore が実行され、<i>/var/tmp</i> ディレクトリ内のバックアップが復元されます。</p> |

オペランド | 次のオペランドがサポートされています。

directory_name SMS パッケージを含むディレクトリのパス。
 Web からインストールしている場合、製品ディレクトリ *directory_name* のパスは */download_directory/System_Management_Services_1_6/Product* です。
download_directory は、Web からダウンロードしたファイルの保存先のディレクトリです。

拡張機能説明

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 SMS のアップグレード

```
sc0:sms-user:> cd download_directory/System_Management_Services_1_6/Tools/
sc0:sms-user:> ./smsupgrade directory_name

Attempting to stop daemon picld
/etc/init.d/picld stop

Verifying that all SMS packages are installed
.....OK

Backing up SMS to /var/tmp/sms_backup.1.6.cpio before upgrade.
Please wait. . .
smsbackup /var/tmp
smsbackup: Backup configuration file created: /var/tmp
sms_backup.1.6.cpio

SMS backup complete.

Checking if Solaris Security Toolkit is already installed.
Installing Solaris Security Toolkit package SUNWjass
Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights
reserved.
Use is subject to license terms.
Installation of <SUNWjass> was successful.

Installing Solaris Security Toolkit package SUNBEfixm

Installation of <SUNBEfixm> was successful.
Installing Solaris Security Toolkit package SUNBEmd5

Installation of <SUNBEmd5> was successful.
Solaris Security Toolkit packages installed successfully.

Installing SMS packages.Please wait. . .
pkgadd -n -d "../Product" -a /tmp/smsinstall.admin.24308 SUNWscdvr.u
SUNWSMSr SUNWSMSop SUNWSMSdf SUNWSMSjh SUNWSMSlp
```

```

SUNWSMsmn SUNWSMSob
SUNWSMSod SUNWSMSpd SUNWSMSpo SUNWSMSpp SUNWSMSsu
SUNWufrx.u SUNWufu
SUNWwccmn
Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights
reserved.
Use is subject to license terms.
Installation of <SUNWscdvr> was successful.
Installation of <SUNWSMSr> was successful.
Verifying that all SMS packages are installed.OK
Setting up /etc/init.d/sms run control script for SMS 1.6
Setting up /etc/init.d/zoedsms run control script for SMS 1.6
New SMS version 1.6 is active
Restoring SMS from /var/tmp/sms_backup.1.6.cpio after upgrade.
Please wait...
smsrestore /var/tmp/sms_backup.1.6.cpio
smsrestore complete.Log file is /var/sadm/system/logs/smsrestore.
Attempting to start daemon picld
/etc/init.d/picld start
Attempting to start zoed...
zoed started.
It is recommended to harden the System Controller after an
SMS upgrade.Execute the following to do this:
  1) /opt/SUNWjass/bin/jass-execute -q \
      sunfire_15k_sc-secure.driver
  2) Reboot the System Controller
smsupgrade complete.Log file is /var/sadm/system/logs
smsupgrade.

```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```

0          正常に終了しました。
>0        エラーが発生しました。

```

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

```

/var/sadm/system/logs/smsupgrade      smsupgrade ログファイル
/var/tmp/sms_backup.1.5.cpio          SMS バックアップファイル

```

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |
| Interface Stability | Evolving |

関連項目

smsbackup (1M)、smsconfig (1M)、smsinstall (1M)、smsrestore (1M)

『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』

| 名前 | smsversion - アクティブな SMS ソフトウェアのバージョンを他のインストール済みバージョンに変更 | | | | | | |
|----------------|---|----|----|-----|---|----------------|--|
| 形式 | smsversion <i>new_version</i> smsversion -t smsversion -h | | | | | | |
| 機能説明 | <p>smsversion (1M) を使用すれば、インストール済みの連続する 2 つのバージョンの SMS を切り替えることができます。</p> <p>SC 上の Solaris 10 OS は SMS 1.6 でのみサポートされています。SC 上で Solaris 10 OS を実行している場合は、SMS のバージョンを SMS 1.6 にアップグレードしてください。SMS とオペレーティングシステムの両方をアップグレードした場合に、SMS の旧バージョンに切り替えるには、先にオペレーティングシステムの旧バージョンを再インストールする必要があります。</p> <p>Solaris 9 OS では、SMS を SMS 1.5 から SMS 1.6 にアップグレードする場合は、SMS 1.5 に切り替えて戻すことができます。SMS 1.4 から SMS 1.4.1、SMS 1.5 にアップグレードしてから SMS 1.6 にアップグレードする場合は、SMS 1.4 または SMS 1.4.1 に切り替えて戻すことはできず、SMS 1.5 への切り替えのみ可能です。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。</p> <p>smsversion を使用すると、同一のオペレーティングシステム上で共存している 2 つの連続するバージョンの SMS 間で、双方向にバージョンの切り替えを実行できます。ただし、これには次の条件があります。</p> <table border="1" data-bbox="380 986 1355 1437"> <thead> <tr> <th data-bbox="380 994 448 1020">条件</th> <th data-bbox="605 994 645 1020">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="387 1046 455 1072">新機能</td> <td data-bbox="605 1046 1333 1159">古いバージョンの SMS は、新しいバージョンの SMS がサポートしている機能をサポートしていない場合があります。SMS を古いバージョンに切り替えると、これら新機能が失われる場合があります。また、新機能の設定が失われる場合もあります。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1185 579 1237">フラッシュ PROM の違い</td> <td data-bbox="605 1185 1343 1428">SMS のバージョンを切り替える場合、CPU フラッシュ PROM を、正しいファイルを使用して再フラッシュする必要があります。これらのファイルは、<code>/opt/SUNWSMS< SMS_version>/firmware</code> ディレクトリに格納されています。バージョンを切り替えた後、<code>flashupdate (1M)</code> を使用して PROM を再フラッシュします。フラッシュ PROM の更新方法の詳細については、<code>flashupdate</code> のマニュアルページ、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』、および『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。</td> </tr> </tbody> </table> | 条件 | 説明 | 新機能 | 古いバージョンの SMS は、新しいバージョンの SMS がサポートしている機能をサポートしていない場合があります。SMS を古いバージョンに切り替えると、これら新機能が失われる場合があります。また、新機能の設定が失われる場合もあります。 | フラッシュ PROM の違い | SMS のバージョンを切り替える場合、CPU フラッシュ PROM を、正しいファイルを使用して再フラッシュする必要があります。これらのファイルは、 <code>/opt/SUNWSMS< SMS_version>/firmware</code> ディレクトリに格納されています。バージョンを切り替えた後、 <code>flashupdate (1M)</code> を使用して PROM を再フラッシュします。フラッシュ PROM の更新方法の詳細については、 <code>flashupdate</code> のマニュアルページ、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』、および『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。 |
| 条件 | 説明 | | | | | | |
| 新機能 | 古いバージョンの SMS は、新しいバージョンの SMS がサポートしている機能をサポートしていない場合があります。SMS を古いバージョンに切り替えると、これら新機能が失われる場合があります。また、新機能の設定が失われる場合もあります。 | | | | | | |
| フラッシュ PROM の違い | SMS のバージョンを切り替える場合、CPU フラッシュ PROM を、正しいファイルを使用して再フラッシュする必要があります。これらのファイルは、 <code>/opt/SUNWSMS< SMS_version>/firmware</code> ディレクトリに格納されています。バージョンを切り替えた後、 <code>flashupdate (1M)</code> を使用して PROM を再フラッシュします。フラッシュ PROM の更新方法の詳細については、 <code>flashupdate</code> のマニュアルページ、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』、および『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。 | | | | | | |
| | <p>コマンド行引数をすべて省略した場合、smsversion は対象のシステムコントローラに正しくインストールされている各バージョンの SMS のリストを表示します。このリストから任意のバージョンを選択すると、smsversion は現在の構成環境のコ</p> | | | | | | |

ピーを保存し、選択されたバージョンの有効化に必要なすべてのソフトウェアリンクの切り替えを実行します。有効化するバージョンは、`smsversion` のコマンド行で指定することも可能です。

`smsversion` による切り替え処理が完了すると、選択したバージョンの SMS がアクティブになります。`smsversion` によって自動保存された構成を復元するには、`smsrestore (1M)` を使用します。切り替え前のバージョンを、`smsversion` による切り替えで自動的に復元することはできません。

以前の構成を復元するには、次の操作を行います。

- フェイルオーバーを無効化して SMS を停止します。その後、`smsrestore` を実行します。

注 – 復元したバックアップの作成後 `smsconfig -m` でネットワーク構成を変更した場合は、次の手順に進む前に `smsconfig -m` を実行して再起動する必要があります。

- SMS を開始してフェイルオーバーを有効化します。SMS を手動で起動および停止する方法については、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールマニュアル』を参照してください。

`smsversion` の実行中にエラーが発生すると、エラーメッセージが `/var/sadm/system/logs/smsversion` に出力されます。

オプション

次のオプションがサポートされています。

`-h` ヘルプ。使用方法を表示します。

注 – 単一で使用します。`-h` に追加で指定されたオプションは無視されます。

`-t` 現在アクティブな SMS のバージョンを表示して終了します。

オペランド

次のオペランドがサポートされています。

version_number 新たに有効化する SMS のバージョン (リリース番号)

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。このコマンドはスーパーユーザーとして実行する必要があります。スーパーユーザー権限で実行しないと、SMS はエラーを返します。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 1つのバージョンの SMS がインストールされている場合のバージョンの表示

SMS の 1 つのバージョンのみがインストールされているときにアクティブバージョンを表示して終了します。

```
sc# /opt/SUNWSMS/bin/smsversion -t
1.6
```

例 2 アクティブな SMS のバージョンを切り替える

対象のシステムコントローラにインストールされている SMS の各バージョンが表示されます。アクティブでない任意のバージョンを選択し、切り替えを実行します。

バージョンを切り替える前に、SMS を停止する必要があります。停止しないと、SMS はエラーを返します。

バージョンを切り替えるには、『System Management Services (SMS) 1.6 インストールガマニュアル』の説明に従って、これらの手順を順番どおりに実行してください。手順に続いて、アップグレードとダウングレードの出力例を示します。

フェイルオーバーを無効にします。

メイン SC で SMS を停止します。

メイン SC で smsversion を実行します。

smsversion で作成したバックアップ cpio ファイルを使用し、メイン SC 上で smsrestore を実行します。

メイン SC 上で SMS を再開します。

スペア SC で SMS を停止します。

スペア SC で smsversion を実行します。

スペア SC で smsrestore を実行します。

スペア SC で SMS を再開します。

フェイルオーバーを有効にします。

例 3 上位バージョンの SMS への切り替え

```
sc# /opt/SUNWSMS/bin/smsversion 1.6
smsversion: Active SMS version < 1.5 >
You have requested SMS Version 1.6

Is this correct? [y,n] y

smsversion: Upgrading SMS from <1.5> to <1.6>.
smsversion: SMS version 1.6 installed
To move to a different version of SMS an archive of
critical files will be created. What is the name of
the directory or tape device where the archive will be
stored? [/var/tmp] [return]

smsversion: Backup configuration file created: /var/tmp/
sms_backup.1.6.cpio
smsversion: Switching to target version <1.6>.
smsversion: New Version <1.6> Active
smsversion: Active SMS version < 1.6 >
To use the previous SMS configuration settings type:
smsrestore /var/tmp/sms_backup.1.6.cpio
smsversion complete. Log file is /var/sadm/system/logs/smsversion.
```


例 4 使用中の SMS より古いバージョンに切り替える

```

sc# /opt/SUNWSMS/bin/smsversion 1.5
smsversion: Active SMS version < 1.6 >
You have requested SMS Version 1.5

Is this correct?[y,n] y

smsversion: Downgrading SMS from <1.6> to <1.5>.
To move to a different version of SMS an archive of
critical files will be created.What is the name of
the directory or tape device where the archive will be
stored?
Enter archive location [/var/tmp]: [return]
smsversion: Backup configuration file created: /var/tmp/
sms_backup.1.6.cpio
smsversion: Switching to target version <1.5>.
smsversion: New Version <1.5> Active
You are downgrading to a version of SMS that requires you
to perform the following operations:
  1) Undo hardening
  2) Redo hardening
  3) Reboot the System Controller

Perform these activities with the following command sequence:
  1) /opt/SUNWjass/bin/jass-execute -u
  2) /opt/SUNWjass/bin/jass-execute -q sunfire_15k_sc-secure.driver
  3) reboot

smsversion: Active SMS version < 1.5 >
To restore the previous SMS configuration setting type: smsrestore
/var/tmp/sms_backup.1.6.cpio
smsversion complete.Log file is /var/sadm/system/logs/smsversion.

```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```

0           正常に終了しました。
>0         エラーが発生しました。

```

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

```

/opt/SUNWSMS/bin/smsversion      smsversion コマンド
/var/sadm/system/logs/smsversion smsversion ログファイル

```

属性 | 次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目 | smsbackup (1M)、 smsrestore (1M)

| 名前 | ssd - SMS 起動デーモン | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | ssd [-f <i>startup_file</i>] ssd [-i <i>message</i>] | | | | |
| 機能説明 | <p>ssd (1M) は、SMS のすべての主要デーモンおよびサーバーを起動、停止、および監視します。オプションを指定しないで実行すると、ssd は、ssd が開始および監視するデーモンおよびサーバーをリストする <code>ssd_start</code> ファイルから読み取ります。</p> <p>このプログラムを手動で起動しないでください。ssd(1M) は、Solaris ソフトウェア実行コントロールスクリプトで自動的に起動され、再起動のために定期的に監視されます。</p> | | | | |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-f <i>startup_file</i> デフォルトの <code>ssd_start</code> ファイルの代わりにこのファイルを使用します。</p> <p>-i <i>message</i> プラットフォームログファイルに通知メッセージを書き込みます。sms 起動スクリプトによって指定および使用されます。</p> | | | | |
| ファイル | <p>次のファイルがサポートされています。</p> <p><code>/etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start</code> ssd 用のデフォルト起動ファイル</p> <p><code>/etc/opt/SUNWSMS/startup/sms</code> SMS 用のデフォルト起動ファイル</p> | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、<code>attributes(5)</code> を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |

| | |
|-------|---|
| 名前 | testemail - SMS イベント報告機能のテスト |
| 形式 | testemail -c <i>fault_class</i> [, <i>fault_class</i> ...] -d <i>domain_indicator</i> -i <i>indicted_resource</i> [, <i>indicted_resource</i> ...] testemail -h |
| 機能説明 | testemail(1M) によりテストイベントを生成し、それらが SMS プラットフォームメッセージログファイルに記録され、電子メール制御ファイル (<i>event_email.cf</i>) に指定されているとおりに電子メールで報告されるかを検証できます。電子メール制御ファイルの詳細は、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。 testemail の起動時には、次のものを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ testemail で生成するイベント (1 つまたは複数) ■ イベント (1 つまたは複数) が生成されるドメイン ■ テストイベントによってエラーを報告するコンポーネント <p>外部キャッシュリソースを使用して testemail を起動する場合は、必ず外部キャッシュを搭載しているシステムボードに電源を入れてください。このボードに電源が入っていないと、testemail の起動は失敗し、電子メールは生成されません。</p> |
| オプション | 次のオプションを使用します。 -h ヘルプ。testemail の引数とオプションの説明を表示します。 注 - 単一で使用します。-h とともにほかのオプションを含めた場合、それらのオプションは無視されます。 -c <i>fault_class</i> [<i>fault_class</i> ...] イベントを生成するために testemail が使用する <i>fault</i> クラス、またはコマンドで区切られた <i>fault</i> クラスのリスト。たとえば、次のメッセージが表示されません。 -c <i>fault_class</i> , <i>fault_class</i> , <i>fault_class</i> 有効な <i>fault</i> クラスの例は、ファイル <i>/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/SF15000.dict</i> に記載されています。 -d <i>domain-indicator</i> |

testemail がイベントを生成するドメイン。これは次のいずれかです。

domain_id - 有効な *domain_id* は文字列 A-R です。この場合、大文字と小文字の区別はなされません。

domain_tag - addtag(1M) を使用してドメインに割り当てた名前。

-i *indicted_resource* [*indicted_resource* ...]

省略可能。イベントによってエラーを報告する単一のコンポーネント、またはコンマで区切ったコンポーネントのリスト。たとえば、次のメッセージが表示されます。

-i *indicted_resource,indicted_resource,indicted_resource*

テストイベントに含めるコンポーネントは、必ずしもエラー状態である必要はありません。

指定できるコンポーネントは次のとおりです。

- *board* (*system_board*、*io_board*、*expander_board*、または *centerplane_support_board*)
- *system_board/port*
- *io_board/port*
- *system_board/port/physical bank/dimm*
- *system_board/port/physical bank/dimm/logical_dimm*
- *system_board/port/ecache*
- *io_board/port/iobus*
- *centerplane*
- *centerplane support*
- *bus* (アドレスバス、データバス、または応答バス)
- *expander_board/cdcdimm0*
- *expander_board/bus*
- *system_controller*
- *system_controller_peripheral*
- *fan_tray*
- *power_supply*

ここで次の点に留意します。

各コンポーネントの値は次のとおりです。

| | |
|---|--|
| <i>system_board</i> | Sun Fire 15K/E25K システムでは、SB(0...17)。Sun Fire 12K/E20K システムでは、SB(0...8) |
| <i>io_board</i> | Sun Fire 15K/E25K システムでは、IO(0...17)。Sun Fire 12K/E20K システムでは、IO(0...8) |
| <i>expander_board</i> | Sun Fire 15K/E25K システムでは、EX(0...17)。Sun Fire 12K/20K システムでは、EX(0...8) |
| <i>system_boards</i> 用の <i>port</i> または <i>processors</i> | P(0...3) |
| <i>physical bank</i> | B(0 1) |
| <i>dimmm</i> | D(0...3) |
| <i>logical dimm</i> | L(0 1) |
| <i>io_bus</i> | I(0 1) |
| <i>ecache</i> | E(0 1) |
| <i>centerplane</i> | CP(0 1) |
| <i>centerplane support</i> | CS(0 1) |
| <i>bus</i> | ABUS DBUS RBUS (0 1) |
| <i>system_controller</i> | SC(0 1) |
| <i>system_controller_peripheral</i> | SCPER(0 1) |
| <i>fan tray</i> | FT(0...7) |
| <i>power supply</i> | PS(0...5) |

拡張機能説明

テスト結果

電子メールテストの結果には次の内容が含まれます。

- テストの失敗とイベントコードを記録する、プラットフォームメッセージログ内のイベントメッセージと、このメッセージを無視するためのテキスト文字列
- 電子メール制御ファイルに指定された受信者に知らせる電子メール

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権またはプラットフォームサービス特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.6 管理者マニュアル』を参照してください。

使用例

例 1 拡張ボードおよび I/O ボードに対するテスト障害イベントの生成

```
sc0:sms-user:> /opt/SUNWSMS/SMS/lib/smsadmin/testemail -c
fault.board.ex.1112,fault.board.io.1112 -dD -i EX7,I08
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。
>0 エラーが発生しました。

ファイル

このコマンドでは、次のファイルを使用します。

```
/etc/opt/SUNWSMS/SMS/config/event_email.cf
```

各障害クラスの電子メール通知の受信者を指定

属性

次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。

| 属性タイプ | 属性値 |
|---------------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |
| Interface Stability | Evolving |
| Command Output | Unstable |

関連項目

erd (1M)

| 名前 | tmd - タスク管理デーモン | | | | |
|--------------|---|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | tmd [-t <i>number</i>] | | | | |
| 機能説明 | <p>tmd (1M) は、SMS のスケジュールなどのタスク管理サービスを提供します。このサービスの目的は、ハードウェアテストおよび構成ソフトウェアの同時起動中に発生する衝突の数を削減することです。</p> <p>このデーモンは <code>ssd (1M)</code> によって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p><code>-t <i>number</i></code> このオプションを使用すると、指定した数の同時起動を抑制できます。値は整数で 1 以上でなければなりません。</p> <p>注 - デフォルト値を変更すると、システムの機能に不正な影響を与えることがあります。ご購入先から指示された場合以外は、このパラメータを修正しないでください。</p> | | | | |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、<code>attributes (5)</code> を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |
| 関連項目 | <code>ssd (1M)</code> | | | | |

| 名前 | wcapp - wPCI アプリケーションデーモン | | | | |
|--------------|--|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式 | wcapp | | | | |
| 機能説明 | <p>wcapp(1M) は、Sun Fire Link クラスタ機能を実装するためのデーモンであり、ドメイン側のドライバからの要求を処理し、外部の Sun Fire Link ファブリックマネージャサーバーからの情報要求に応答します。wcapp は、Solaris 8 2/02 オペレーティング環境 (またはそれ以降のリリース) に含まれている Java 仮想マシン (JVM) 上で動作します。</p> <p>wcapp は、Sun Fire ハイエンドシステム内のすべてのドメインを対象として、Sun Fire Link クラスタを管理する役割を担当します。wcapp は Java 側で一連の Java Remote Method Invocation (RMI) インタフェースをエクスポートし、Sun Fire Link ファブリックマネージャサーバーが、このインタフェースを使ってクラスタを設定および監視します。</p> <p>このデーモンは ssd (1M) によって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> | | | | |
| 終了ステータス | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>>0 エラーが発生しました。</p> | | | | |
| 属性 | <p>次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ | 属性値 | | | | |
| Availability | SUNWSMSop | | | | |
| 関連項目 | ssd (1M) | | | | |